建築ト社會

第五輯　第十二号



秋　類

大正十一年十二月一日

日本建築協會

日本建築協會會則

第一條　本會ノ目的ハ我國建築界ノ堅實ナル發展ヲ期スルニ在リ

第二條　本會ハ日本建築協會ト稱ス

第三條　本會ノ事務所ヲ大阪市ニ置ク

地方ニ支會ヲ設クルコトヲ得

第四條　本會ハ人格、學識、經驗アル建築家ヲ以テ會員トス

會員ノ氏名住所ハ會員名簿ニ之ヲ記錄ス

會員タラントス望スル者ハ會員五名以上ノ紹介ヲ以テ入會希望書及履歷書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會ニ於テ議決ス

第五條　本會ハ其目的ヲ贊成シ事業ヲ援助スル者ヲ贊助員トス

贊助員ヲ分チテ左ノ四種トス

一　名譽贊助員―地位又ハ學識アル名望家

二　終身贊助員―金參百圓以上又ハ之ニ相當スル物件ヲ本會ニ寄附スル篤志家

三　特別贊助員―建築ニ關聯スル特種ノ技術家又ハ事業家

四　普通贊助員―建築ニ關係又ハ趣味ヲ有スル者

贊助員ノ氏名住所寄附ノ金額又ハ物件ハ各贊助員名簿ニ之ヲ記錄ス

第六條　名譽贊助員ハ例會ノ決議ニ依リ本會之ヲ推薦ス

終身贊助員タラントスル者ハ會員貳名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及寄附ノ金額又ハ物件ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

特別贊助員タラントスル者ハ會員二名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及履歷書ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

普通贊助員タラントスル者ハ會員ノ紹介ヲ以テ申込書ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

第七條　會員ハ第十九條ニ關スル權利ヲ享有ス

會員ハ會内ニ於ケル其言行ニ付會外ニ於テ責ヲ任ゼザルコトヲ得

名譽贊助員ハ本會ノ優遇及第十九條ニ基キ相當ノ利得ヲ受ク

終身贊助員、特別贊助員及普通贊助員ハ第十九條ニ基キ會誌ノ配布其他各相當ノ利得ヲ受ク

第八條　會員ニシテ脫會セントスル者ハ其旨ヲ本會ニ申込ムベシ

前項ノ規定ハ贊助員ニ之ヲ準用ス

第九條　本會ハ會員ニシテ本則ノ規定ニ違背シ又ハ本會ノ名譽ヲ汚スノ行爲アリト認メラルヽ者ニ對シ理事會ノ決議ヲ經テ其權利ヲ停止シ若ハ之ニ除名ノ處分ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ會員ニ之ヲ通知スル場合ハ例會ニ於テ之ヲ報告ス

第十條　役員ハ會員ニ之ヲ選舉ス但會頭、副會頭、理事長ハ名譽贊助員ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

役員ノ任期ハ二年トス　但シ理事長ニ付テハ一年トス

理事ノ改選ハ毎年半數トス但引續キ重任スルコトヲ得ズ

第十一條　本會ニ左ノ役員ヲ置ク

一　會頭　一名

二　副會頭　一名

三　理事長　一名

四　理事　十名（理事長ヲ含ム）

會頭ハ會務ヲ總攬シ本會ヲ代表ス

副會頭ハ會頭ヲ補佐シ會頭事故アルトキ其職務ヲ代理ス

理事長ハ會務ヲ總理シ會頭、副會頭事故アルトキ其職務ヲ代理シ理事會ヲ代表ス

第十二條　役員ハ會員中ヨリ例會ニ於テ之ヲ選舉ス但會頭、副會頭ハ名譽贊助員中ヨリ之ヲ選出スルコトヲ得

理事長ハ理事之ヲ互選ス

役員ノ任期ハ二年トス　但シ理事長ニ付テハ一年トス

理事ノ改選ハ毎年半數トス但引續キ重任スルコトヲ得ズ

第十三條　本會ニ左ノ職員ヲ置ク

一　主　記　一名

二　主　計　一名

三　編　輯　三名

四　編輯補　若干名

五　書　記　若干名

主記ハ庶務ヲ、主計ハ會計ヲ、編輯ハ編纂ヲ處理ス

編輯補ハ編輯ノ旨ヲ受ケ編纂ヲ分掌ス

書記ハ理事長、理事ノ命ヲ受ケ庶務ニ從事ス

第十四條　主記、主計、編輯ハ理事之ヲ互選ス

編輯補ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名ス

書記ハ理事會之ヲ任命シ有給トスコトヲ得

第十五條　本會ハ調査研究ノ必要ニ應ジ例會ノ決議ニ依リ各部ノ委員會ヲ設ケ各部ニ委員長一名委員若干名ヲ置ク

委員長及委員ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名シ委員長ハ當該委員ノ互選トス

理事會ハ特殊事項ニ關シ會員外ノ專門家ヲ臨記委員トスルコトヲ得

第十六條　委員長ハ當該委員會ヲ代表シ委員長事故アルトキハ當該委員會ノ決議ニ依リ委員其職務ヲ代理ス

委員會ノ經過ハ例會ニ於テ之ヲ報告ス

委員會ノ調査研究報告ハ例會ノ決議ヲ經テ本會ノ名ヲ以テ之ヲ發表ス但シ緊急事項ニ付テハ理事會ノ承認ヲ經テ當該委員會ノ名ヲ以テスルコトヲ得

第十七條　本會ハ毎月一回會員ヲ召集シ例會ヲ開キ重要事項ヲ審議シ報告會、談話會、討論會又ハ講演會ヲ催ス但理事會ハ必要ト認ムルトキハ臨時之ヲ開催スルコトヲ得

例會ニ於ケル講案其他ノ事項ハ理事會之ヲ會員ニ報告ス但緊急事項ニ付テハ此限ニ在ラズ

第十八條　本會ノ春秋二季大會ヲ擧行ス

第十九條　本會ノ行フ事業左ノ如シ

一　建築ニ關スル諸般事項ノ調査研究

二　調査研究報告ノ發表

三　建築ニ關スル重要事項ノ講演

四　決議事項ノ實行促進

五　會誌ノ發刊

六　建築ニ關スル圖書ノ刊行

七　建築ニ關スル講演會ノ開催

八　建築ニ關スル展覽會ノ公開

九　建築ニ關スル視察

十　建築ニ關スル有志者ノ親睦會

十一　理想的建築ノ計畫

十二　其他建築ニ關スル有益ナル事項

第二十條　會員ハ會費年額金拾八圓ヲ本會ニ醵出ス

但例會ニ出席シ難キ地方ニ在ル會員ノ會費ハ半額トス

一時ニ金貳百圓以上ヲ出ストキハ爾後前項ノ會費ヲ免ル

會員タルノ承認ヲ得タル者ハ入會金五圓ヲ本會ニ納付スベシ

特別賛助員ハ特別贊助費年額金九圓ヲ、普通贊助員ハ普通贊助費年額金六圓ヲ本會ニ前納スベシ

但六期以内ニ之ヲ分納スルコトヲ得

第二十一條　本會ノ經費ハ會費入會金寄附金贊助員其他ノ收入ヲ以テ支辨ス

本會ノ財產ハ理事長之ヲ監理ス

第二十二條　本會ノ財產保管方法及毎月ノ收支ハ主計其計算書ヲ作リ翌月理事會ニ報告ス

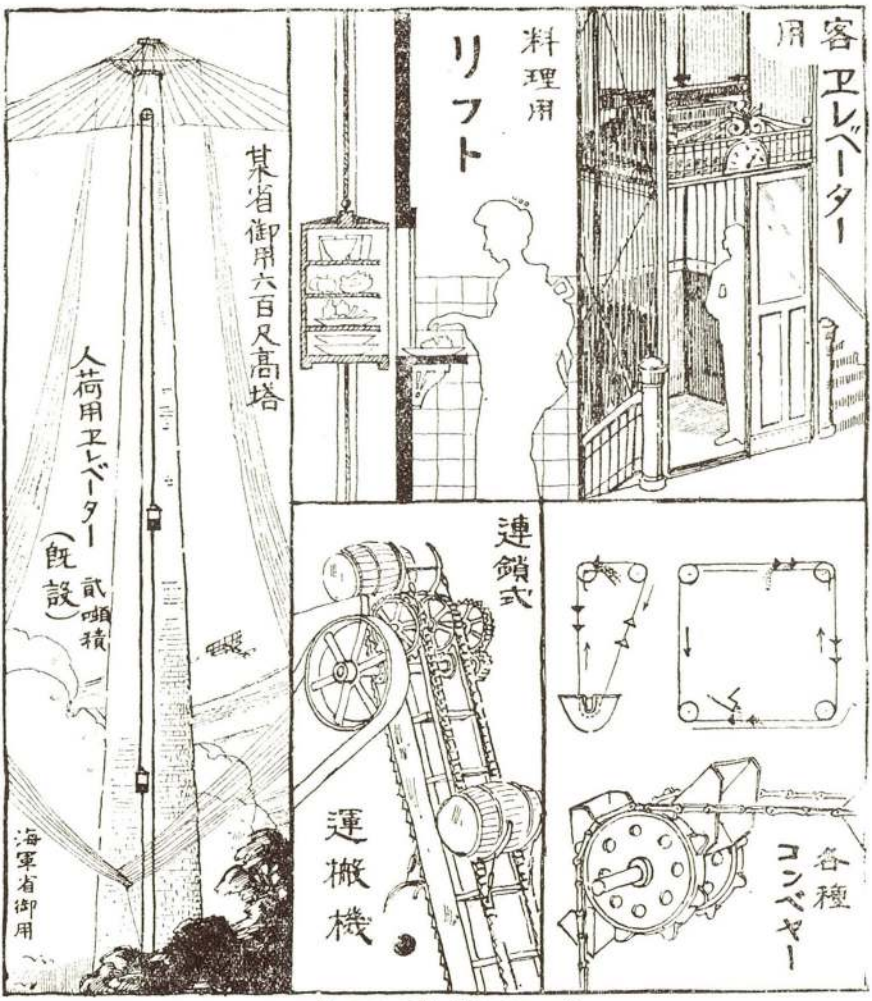
本會ノ財產保管方法及毎年ノ收支ハ理事會其決算書ヲ作リ翌年一月例會ニ於テ報告ス

第二十三條　本會及本則ニ關スル詳細ノ事項ハ例會ノ決議ニ依リ之ヲ細則ニ之ヲ定ム

第二十四條　本則ハ例會ノ決議ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得

威權の本邦エレベーター

（專賣特許六件）



大阪東區玉造

日本エレベーター製造株式會社

電話・東二三六七番・東三八〇五番

建築と社會　第五輯第拾貳號目次

□表紙……題　秋二色版
□口繪……有終の美（寫眞版・二）

〔卷　頭〕

□住宅博覽會を歲將に逝かむとす……

〔論　說〕

□田園都市……（再び）……法學博士・關　一……二
□大阪市の電車交通に就いて……法學博士・佐竹三吾……八
□貧乏人と住宅問題……楠原祖一郎……
□住宅問題發生の淵源……江村恒一……二四

〔研　究〕

□米國に於ける貸金庫見聞記……（前）……村野藤吾……三三
□『キルベレス』氏の煉瓦積の方式と動作の研究に就いて……本田登……四四

□建築物の內外に於ける日射關係並に「サナトリウム」建築上の應用に就いて……醫學士 富永孟……五五

〔都市〕

□獨逸に於ける住宅組合としてのアパートメントとビルディング……一記者……六〇

〔住宅〕

□M氏の新邸……それがし……七〇

〔資料〕

□古代希臘の城邑計畫……プリンストン大學 ZY生……七七

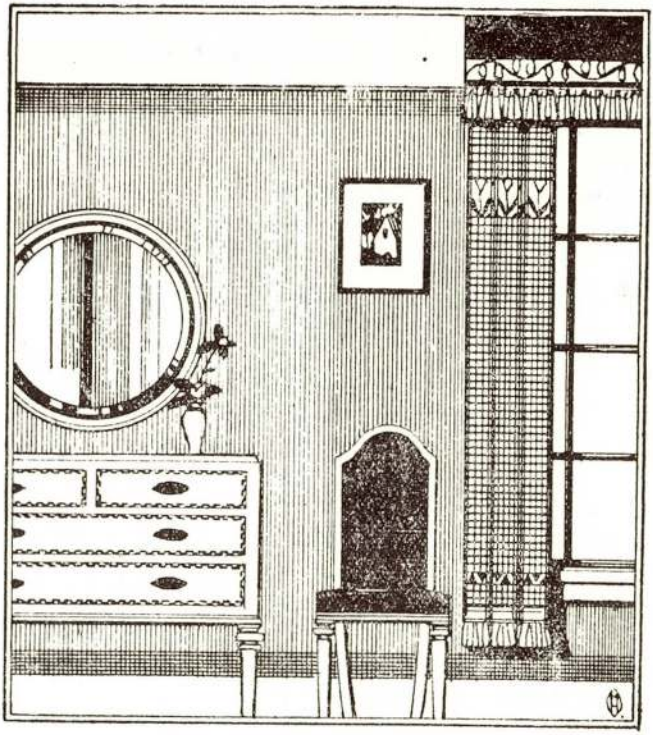
〔漫錄〕

□東京建築だより……文學士 黑田鵬心……八四

□新婚の娘へ贈つた家……高安やす子……八九

□樽の家……M婦人記者……九三

〔會報〕



装飾　家具　織物　敷物

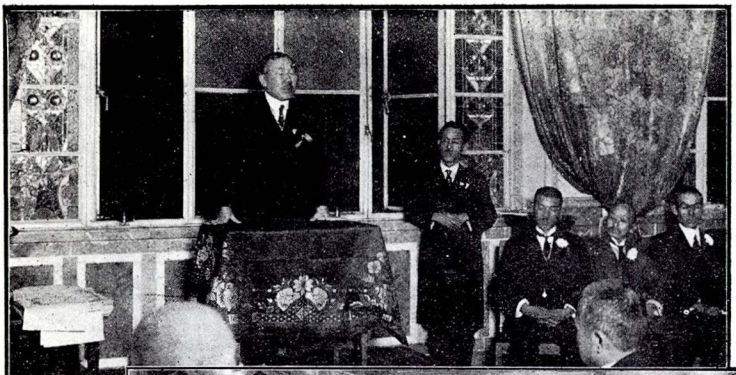
堀野洋家具商會

大阪市　中之島　常安橋

電話土佐堀二一四五番

有終の美

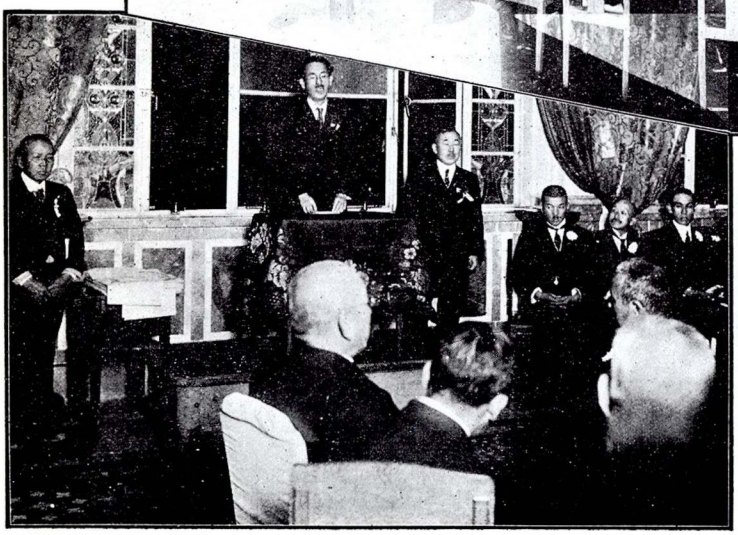
——住宅改造博覽會閉會式之光景（その一）——



片岡會長の挨拶



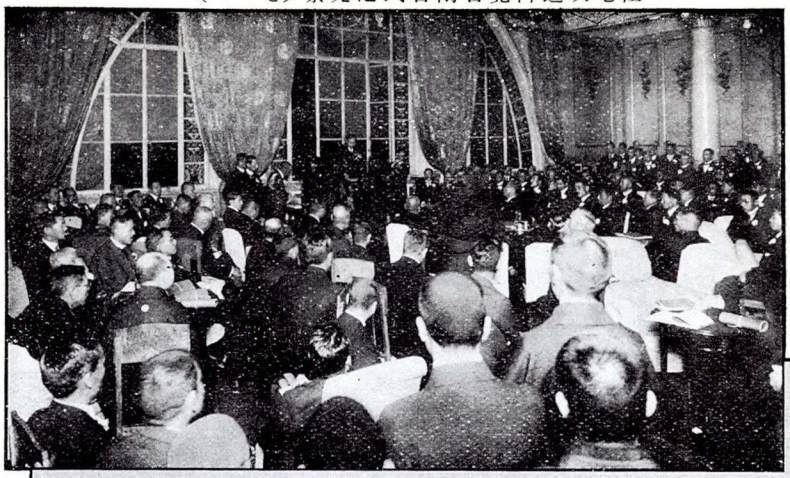
宴會



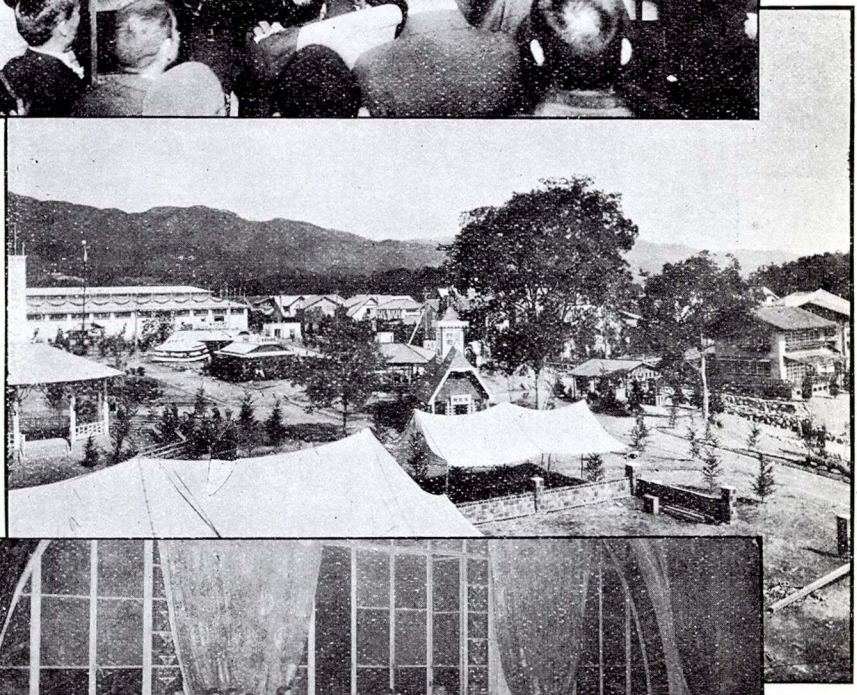
葛野幹事長の挨拶

美の終有

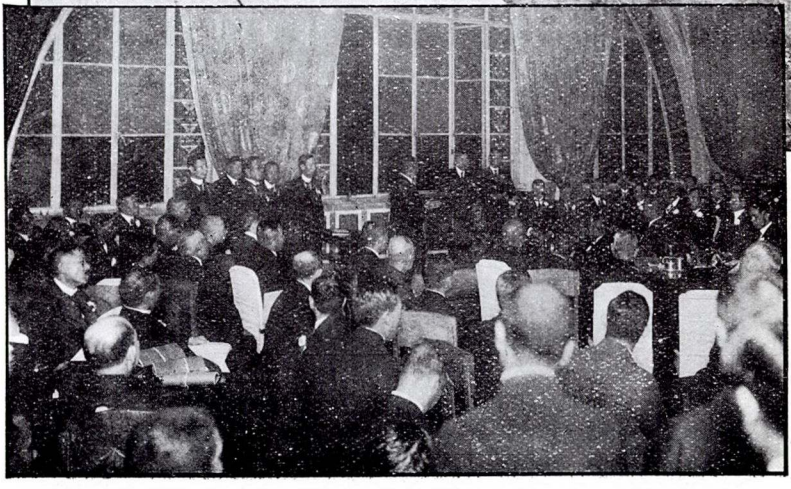
——住宅改造博覽會閉會式之光景（その二）——



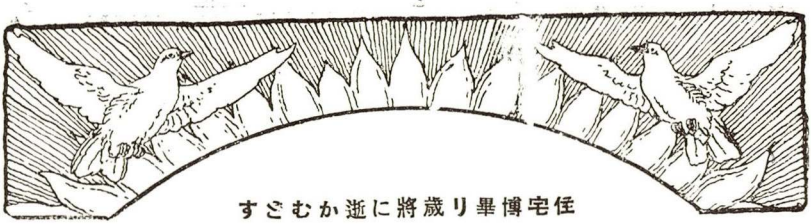
感謝狀贈呈式



思ひ出の——住宅博會場——



感謝狀受領者總代の答辭



住宅博畢り歳將に逝かむとす

住宅改善博覽會は、豫定會期より約一週間の日延べと共に、愈々本月二十六日の閉場時を以て終了を告げた。懷へば、空前にして、恐らくは、範を後昆に垂る斯の催しが、奈何に望外な歡迎と、所期以上の成功をもて終始せしかは、何人も驚異に値する幾多の Record が雄辨に物語つてゐる。蓋し少くとも、日本の住宅問題は是より尚ほも永遠な未來を有つであらう。即ち、その解決の難關は、幾多な事實に存してゐる。問題は依然多端であらう。斯の秋に方りて、我住宅博が、住宅問題の永遠な道途に、多少なりとも、一時期を畫いたことは、會心を禁じ能はざる處である。今や、大正十一年の斯の印象深き歳は逝かむとしてゐる。顧みて、縱むば、斯の年に於ける我建築界に、思念すべき何ものの存せずと假定するも、嚴として、我住宅博なる一大事實は斯の無を補ふて剩りあるの矜持を有する。斯の最も印象深き年は逝きて、將に四旬に迎へむとする大正十二年は吾人等我建築界と共に世界のそれに對する更らに多幸と多望なるものあるとを冀ふ。



田園都市（再び）

法學博士　關一

關博士は本誌前號に『田園都市』と題して、(一)住宅問題は世界の共通問題であること、(二)英國政府の採れる住宅政策の現狀、(三)日本に於ける住宅政策の貧弱なること等を叙して、つひに、日本に於て議せられる住宅供給と住宅の樣式問題に伴ふアパートメントハウスと田園都市の混同に及び、(四)所謂田園都市なるものゝ續つて紹介されたことの日本に少きこと、(五)所謂危險思想又は外來思想を徒らに恠るゝの愚なること、(六)而して單に田園都市といふも三つの意義あること、(七)田園都市論と郊外の相容れざること、(八)英國に於ける田園都市の發達、(九)田園都市と所謂社會主義的思想に由來せること等を說いて前編を結ばれた。本編は、その續編又は補遺ともいふべきものである。而して本編に就いても、文章上の責任は尙ほ記者の負ふ所である。——郊郵

一

前編に述べました、田園都市なる考が英吉利に於て共鳴者を保つと共に常に發達して來たことは、要するに、英吉利の國情が、斯るものを要求して居る一つの證據である、と私は考へる。即ち、英吉利の國情から觀るならば、斯う云ふ農工の並立した小さな都市、自足自給の出來る都市を拵へると云ふことは、皆が餘程必要として居ることである。又、少くとも、實際住つて居る人が、既に一萬人以上もあると云ふ實狀である。

彼樣にして、田園都市は、英吉利に於て段々發達して參つたのであるが、前編に叙したレッチウォースの成績に徴すれば、私共の見る所としては、前編に述べた處の、住宅問題殊に田園都市を建設するといふ要求の起つた淵源的思想たる社會主義的の考の所だけは、確に、皆失敗して居ると思ふのである。其一つの證據は、前編に述べた通り、地代に依て租稅を廢める、地方稅を廢してしまふ、是は、等しく前號に述べた『田園都市』の著者が餘程力を入れて主張せる處であるが、それがうまく行つて居らぬ、七年毎に公入札で以て地料を定めて行く筈であつたが、それが出來ないので、英吉利の普通云ふ意味の九十九年と云ふことにして、借地權を決めて居るから、借地料の增額も出來ない位で、迚も地方稅を廢める所の騷ぎではない。其點は、怎うも初に思つたやうに行つて居らぬ。次に、工場を箇々に段々と建設したのであるが、其工場は、その田園都市に住むである者に種々なものを供給すると云ふことが元來の目的であつた。即ち、其市民の要るものを主に製造する、といふ考であつた。扨うならば、農業者は自分の農地に生產したものを工業者に賣つて、其工業者が又農民の必要なものを製造して交換すれば、今日の貨幣制度、資本制度の不便、不利益を救ふことが出來得ると考へたのであるが、事實は、依然として、その目的以外の方に賣るもの、製造をやつて居るのである。卽ち、其の點に於いても、田園都市の

首唱者の考へたことは、うまく行つて居らぬやうに見受けられる。其外種々な點から考へて見ても、斯の田園都市の運動と云ふものは、所詮、中世に於ける或る一種の都會を復活させやうと云ふ運動に外ならぬ。中世の『土地經濟時代』と經濟學者が名付けた時代がありしが、其時代の都市を今日に復活させやうとする一種の歸農運動だ、と謂ふて可い。即ち、バック、ツー、ゼ、ランド、ムーヴメントの一部である。今日に於いて、さう云ふやうなものを打立てると云ふことは、斷じて出來得ないことであらうと私は想ふ。今日のやうに、外國貿易が發達して參り、工業の規模も大きくなつて來た場合に於て、中世の經濟組織を復活させやうと云ふやうな考は、眞實く間違つた考であらうと想はれる。田園都市なるものは、斯の意味に於て、到底非常な發達をすることの見込のない運動であらう、と思ふのである。

併し乍ら、それならば、斯の田園都市運動と云ふものは何等の意義のないものであるか、斯う云ふ運動は今日我々の住宅問題に就いて、何等の貢獻する所がないか、將來の日本の都市、又世界の都市の發達の上に、何等かの新しい思想を供給して居るものでないか、と云ふ點を考へて見れば、田園都市の運動は、一面に於て、多少空想になつて居るが、他の方面に於ては、非常に意義のある運動であらうと思ふ。それは、申すまでもなく、今日の都市が、餘りに大きくなり過ぎて來て居る、と云ふことは、間違もない事實である。今日の大都市に於ては、生産に力を用ひると云ふことよりも、ディストリビューションの爲に力を用ひなければならぬ有樣になつて、家屋を分散し、人間を分散すると云ふ問題がなか〳〵やかましい問題になつて來たのである、都市が、三百萬、四百萬、五百萬の人口になつて來ると、交通機關に投ずる金は非常に大きなものになつて來る。紐育の高速度交通機關委員會の技師長であるターナーと云ふ人は、『一體、都市には怎麼高速交通機關を拵へた所で間に合ふものでない、拵へれば、拵へるほどどん〳〵乘客が殖えて來る』と云つてゐるが、是は、大阪の狀態を見ても、明瞭なことで、即ち、交通機關を拵へれば、其交通機關が、自分で更に運輸を拵へる力を有つて居る、それであるから

都市が大きくなれば、なる程交通機關に非常に金を投じなければならぬ、而も其出來たものは、怎しても皆を滿足させることは出來ない。その上に、資本が幵う云ふ風に要るばかりでなく、大きな都市に於ては、例へば、倫敦抔に於いては、毎日、四十分、五十分或は一時間と云ふ時間を往復の爲に割かなければならぬと云ふことになつて來る。是は、何とか方法を考へて幵う云ふ無駄な時間を省くことが出來得て、それを生產の方面に使用することが出來得るならば、國民の生產の上に於て非常な利益があらうと想ふ。故に今日の都市が餘り大きくなつて來ると云ふことは、確に、非常な不利益なことである。亞米利加の住宅改良運動に非常な熱心である處のローレンス、ベーラーの如きは『大なる都市は脅威である』と云ふことまで言つてゐる。斯う云ふやうなことが、怎うも、或點までは、確に今日の狀態である即ち、今日の都市の發達に伴ふ弊害であつて、是れには、矢張り田園都市流儀のもので以て、人間を分散させると云ふ必要があり、住居を分散させる必要があるばかりでなく、工業を分散させる必要がある昔時に於ては、工業集中時代であつたが、今日は工業も分散されて行くべきことであらう、と想ふ。即ち、今日の大都市に於ては、工場に通つて來る職工が、電車に一時間も乘つて來る、歸りも其通りである、是では、勞働者の能率と云ふやうな上から云つても、非常に不利益なことである。それで寧ろ工場を地方に分散せしめ、其周圍に住宅を置いて、勞働者に立派な住宅を與へたい、斯う云ふ考が起つたのであつて、是が、即ち、ガーデン、ヴィレーヂー文化村?である。前述の通り、是は、日本に於ても將來打立てなければならぬと思はれ、非常に其必要を感じてゐることゝ思ふ。

二

又今日までの大都市は、非常に亂雜な發達を遂げ來つてゐる。殊に、日本の都市は、非常に亂雜な、だらしのない發達を成し來つたのである。斯の狀態は、初から何とか一定の計畫の下に、將來は住宅の

地域なり、商業の地域なりを定めて行かなければならぬ。住宅問題は、唯箇々の家を見て行つたのだけで到底解決し得られるものでない。今日の最も進んだる思想に從へば、箇々な住宅の經營と云ふものを見る許りでなく、其住宅の環境は怎う云ふものであるか、云ひ換ゆれば、住宅としての團體はどう云ふものであるかと云ふことを考へなければならぬ時代になつて來た、其意味に於て、住宅の計畫と都市計畫と云ふものは、全く結び付いた問題となるのである。日本風の建築にしやうか、洋風のそれにしやうか、或は和洋折衷にしやうか、と云ふことは、我々技術家でない者の經濟眼を以てしては、餘り重い問題でないのである。即ち、それよりも、タウンプランニングとハウシング、ブロブレムの結び付いた所に、住宅改良をやつて行く餘地がある。若しさうでなければ、折角初に出來た住宅は相當なものであつても、それが次第に頽廢して、其住宅の地域が『スラム』貧民窟になる。——必ず貧民窟になると云ふ譯ではないが、初から能く考へて、一定の計畫でやつて行かぬと、さう云ふものが出來易いのである。故にタウンプランニング—英語の、もう少し小さいサバーブ、プランニング、郊外地を怎う云ふ風にしやうか、例へば、有名なる倫敦郊外のハムステッドの如く、或地點を怎う云ふプランニングでやつて行かうか、怎う云ふやうに發達させやうか、其地域内の町の配置を怎う云ふ風にして此處には何階までの家を建てる、と云ふやうに、細かく決めて行かなければ、住宅問題の解決は出來得ない、是が即ち、ガーデン、サバーブである。

是は、自給自足の都會を拵へやうとか、中世の都會を復活させやうとか、乃至、歸農運動をやらうとか云ふことでなく、今日の都會を健全に發達させやうと云ふことの爲には、一定の計畫で、初から施設をして行かなければならぬといふので、斯う云ふことを段々氣が付くやうになつて來たのである。

三

仍で英國に於ける田園都市の運動は、一昨々年即ち千九百十九年の『都市計畫及住宅法』と云ふものに非常な影響を及ぼしたのである。英政府は斯の千九百十九年の法律に依て、前編に述べたように、住宅の建築に非常な巨額の補助をする、其補助する家は、一エーカー十二軒以上の家を建てゝはいかぬ、それ以上は補助を與へない、と云ふ所まで進んで來たのである。

仍で、狹い意味に於ける田園都市と云ふものは、容易に實現も出來得ないものであり、又今日の都市の弊害を救ふと云ふことには、餘りに氣の長い運動である、とも觀られる。併し乍ら、是から起つて來た所の『ガーデン、ヴイレージ』『ガーデン、サバーブ』の二つを大に研究して、從來の都市を如何にするか、少くとも郊外を怎う云ふ風にやつて行くか、又工場のデセントラリゼーション、或は住宅のデセントラリゼーションを如何にするか、と云ふことに就いて、非常に重要なる考を起さしめた運動であると考へられる。

されば、將來に於ける都市の發達は、今日までの如くに、中央からして何處までも街路が續いて行つて、其處に人家連檐、唯平押しに段々外へ擴つて行く、と云ふことでなく、恰度、太陽系に於ては太陽が眞中にあつて、其周圍を地球其他の衛星が廻つて居る如くに、一つの大きな都會があれば、其周圍に或る一定の空地を取り、其先に小さな中心點を有つて居る所の小さな住宅地があり、其先に空地があつて又其先に小さな住宅がある、則ち、衛星たる都市を設けて、其間に、完全なる交通機關が連絡して行く、斯う云ふ都市が、我々の、將來に於ける理想的都市の狀態ではあるまいか、斯の意味に於て我々は田園都市運動の主唱者に向つて、大に敬服しなければならず、また大に感謝しなければならぬと考へて居るのである。（畢）

× × × ×

大阪市の電車交通に就いて

法學博士　佐竹三吾

市内交通機關

世界の大都市に於ける交通機關は高速度の電車と蒸汽列車に路面電車と乘合自動車と乘合馬車が主なるものであつて、此外にタキシーとかキャブとか又は自家用の馬車や自動車があるけれども輸送人員の數から云へば微々たるものである。

我國では大阪市は勿論東京其他の大都市に於ても市内交通機關の主なるものは路面電車のみであつて高速度の交通機關は東京に於ける省線電車を除いて殆んど皆無であることは大都市の恥辱であるのみならず、朝夕ラッシュアワーに滿員の爲に電車に乘れない苦情のあるのも止むを得ない次第と言はなければならぬ。

市内に於ける交通量の内で路面電車に依るものと他の交通機關に依るものとを比較すれば其都市の文化の發達の程度を卜知することが出來ると思ふ、試に歐洲大戰前即ち千九百十三年の統計に依れば路面電車の乘客は、ウキンに於ては八割四分、伯林五割一分、巴里及紐育四割、倫敦二割八分であつて、高速度電車に依る輸送量の割合は紐育の四割を最大とし、巴里二割五分、倫敦一割六分、伯林は僅に五分ウキンは零である、尤も倫敦と伯林は蒸汽鐵道に依る、交通量割合に多く倫敦は全體の三割四分、伯林は三割一分を占め巴里一割八分ウキン一割二分、紐育は僅に六分である。更に乘合自動車及馬車の輸送

狀態を見れば倫敦が最も發達し全體の二割二分を占め巴里一割七分、紐育一割四分、伯林一割三分ウキンは僅に四分に過ぎない、斯の如く市内交通を主として路面電車に依る××國は比較的文化生活の後れたる國と云はうか富の程度の低い國と云ふことが出來る、飜て我大阪の狀態を見れば、郊外電鐵の發達は誠に著しいものがあるけれども、市内に於ける交通機關は殆んど路面電車のみで、城東線に蒸汽列車が少し許り動いてをるけれども高速度交通機關と云ふべき程のものでない。

大阪市内の交通量

市電の乘客は年毎に增加してをる、今大正元年度と同十年度とを比較し十年間の增加率を見るに

大正元年度	九七、四九一、三七八人	
一日平均	二六七、一〇〇人	
大正十年度	二六七、〇九二、八〇六人	
一日平均	七三一、七六〇人	

大正元年度には九千七百四十九萬八一日平均二十六萬七千人であつたが大正十年度には二億六千七百九萬人となり一日平均七十三萬一千人餘となつた、從つて十年間に二倍七割四分の增加である、大正元年度大阪市の人口は百三十三萬千九百九十四人であるから一人當平均乘車回數は七十四回であるが、大正十年度の人口は百三十四萬六千四百七十一人即ち十年間に僅に一萬四千四百六十七人しか增加してをらぬ、之は大正九年十月國勢調査の結果同八年度の人口百五十八萬三千六百五十八人から三十三萬人も減少した爲に九年度の數字を受けた十年度の數字も斯く少いのである、それは兎も角十年度の人口に對すれば一人當乘車回數は百九十八回となり、十年間に二倍六割七分の增加である、斯の如く乘客は二倍七割四分增加するに車輛の增加は四百四十九輛に對する八百四十九輛（四輪車に換算）にして一倍九割

運轉哩は千三百六十四萬九千哩より二千四百八十八萬七千哩となり一倍八割二分增にして、車輛も運轉哩も相當增加をしてをるけれども乘客の增加率に及ばない、之は電鐵事業の繁榮と市民活動の急激なる隆盛を示すものであるが乘客の混雜は一層甚しくなる譯である、試みに一車一哩の平均乘車人員を比較すれば大正十年度に七人一分四厘であつたものが大正十年度には十人七分三厘に增加してをる、東京市電の此頃の一車一哩平均乘車人員は七人から八人である、けれどもこの數字から直に乘客混雜の程度を比較することは出來ない、なぜなれば東京では乘客一人の平均乘車哩が四哩二三分であるのに大阪では二哩四五分であるから

2.5×10.73=26人8分　大阪市電一車一哩平均乘車人員

4.5×　7.5　=33人7分　東京市電同上

即ち東京の方が一哩一車平均乘車人員七人程多い計算となる、加之東京の市電は閑散なる線路と混雜する線路との間に著しい差別があるのと、朝は中央に夕は中央より郊外に向ふ乘客と其反對の乘客との間にも、著しい異同があつて、乘客の片寄る程度は大阪に比し甚敷く、大阪の交通の中心が比較的數箇所に散布され、片寄る程度が稍少いから乘客の密度も平均を保ち易く、從つて混雜の程度も大に緩和されることゝなるからである。

交通量の變動

市內に於ける交通は其分量に於て年々增加することは前に述べた通りであるが、一ケ年內の交通量は月に依て著しい差があり、一ケ月の內では日に依り、一日の內では時間に依りて更に甚しい變化がある加之交通の流が平日には朝は郊外より市の中央に午後は市の中央から郊外に向ふのが大勢であるけれども月の一日十五日とか日曜祭日には午前は中央から郊外に、夕方は郊外から中央に向ふ傾向があるから

此流に適應する爲には、月に依り、日に依り、時間に依りて運轉の車數を增減し、運轉の系統を按配する必要がある、而して之に應ずる配車と操車とを怠れば圓滑なる輸送をなすことの出來ないのは當然である。

交通分布の狀態を統計に依て考ふれば、密度の最も濃厚なる部分は梅田北濱船場と云ふ市の中央を北は梅田より南は日本橋に縱斷した中心線及其附近であつて、人の血管で云へば胸腹の大動脈に當り、市の四周即ち末端の毛細管から漸次流量を增加して、此大動脈に注ぎ又これから各四周に歸ることゝなつてをる、從つて配車も此流れの大小に應じて適宜處理するのであるが、人間の血液の流は四時其狀態に變化がないけれども、市內の交通の流は每日每時間に變化を來すのみならず、事故があれば車の運行が忽ち亂れ、乘客の乘降の遲速、運轉手の僅かの放心、交叉點の信號を取扱ふ監督の些細の不注意に依て直に車間の隔離に影響を來すから、秩序整然とか規則正しい運轉と云ふことは容易に期することの出來ない困難があることを御話したいと思ふ、全線を見て大局から批評するとしても、右の樣な困難な事情があるが、此頃新聞の投書や記事に現はれてをる運轉上の非難は、多くは或時間或場所に於て自分の行かむと欲する車が來ないと云ふことから出た苦情であつて、全般を見たものは少い、勿論之も御氣の毒な次第で、運轉上不完全の點があるから起ることであるが、或る一局部の非難は同時に他の局部では、反つて能く行つてをることもある、能く行つてをる時は頭に何等の印象がないが、十分も十五分も待たされた時には唯の一度でも隨分癪に障るものであるから、これで以て直に全體が無茶苦茶だと批評さるゝことは如何かと思はれる。

數字に現はれたる交通量の分配と輸送の狀態

以上は交通量分布の一樣ならざることを概括的に御話した次第であるが、之を數字に示せば、大正十

年四月から本年三月迄の一ヶ年度に於て一ヶ月平均して最大量の月は十月で最小量の月は六月である。之は毎年大差がない、六月中の乗客人員は二千〇七十四萬七千人で、十月中のそれは二千四百六萬三千人であるから四百萬人即ち約二割の差である、更に一日の乗客數の最大と最小を比較すれば、十月一日の乗客は百十六萬千六百〇八人で、前に記した大正十年度の一日平均數七十三萬千七百六十人に比すれば四十三萬人の差で六割から多い、更に一年中の農も鮮い日を求むれば六月十二日の五十萬三千百十九人で最大の日の半數にも滿たない乗客である、さすれば茲に一年平均の乗客數を標準として車輛と乗務員と電力の用意をしたとするなれば最大の日に對しては六割の不足となり最小の日に對しては四割四分の餘裕がある、凡そ收入を計りて支出を制する經濟眼から云へば、平均より稍餘裕ある計畫を立つるのが當局者の責任であつて、此標準を無視すれば非常に不經濟なる經營となるか、然らざれば全く時勢の必要に應ぜざる不具的施設となる譯である。

更に一ヶ月に於ける乗客數から云へば、本年六月一日は百二十六萬三千七百三十四人と云ふ殆んどレコードを破つた乗客であつたが、其の六月の二十五日は五十四萬六千七百六十九人と云ふ半數にも足らぬ乗客であるから、此兩極端に都合能く、又乗客から非難を被らぬ滿足なる運轉が果して、豫め計畫し得るであらうか、然も一ヶ月の內で客の最も多い日は、一日から四五日迄と十五日十六日と月末一二日であるから、十日足らずである、即ち月の三分の二は比較的乗客の少い日である、最大輸送に應ずべく車掌や運轉手を平日から養ひ車輛や電力を浪費することは、經營宜しきを得たるものでないのは勿論である、さうかと言つて今客が多いから車をウント出せと云ふても乗務員の勤務時間の都合がある、電力に限りがある以上は、車庫に車丈あつても到底間に合ふものでない。

更に飜て一日中に於ける乗客移動の數を見れば、左の如き著しい差がある。

大正十一年六月三十日調

堺筋線　南久太郎町停留場通過

一、午前五時より午後十二時迄十九時間に於ける通過乗客數

北　行　五萬九千七百三十人
南　行　六萬〇五百二十八
計　十二萬二百五十八

二、右の時間に於ける運轉車輛數及座席數

北　行　低床ボギー車　四百四十二輛
普通ボギー車　五百八十一輛
計　千〇二十三輛
四輪車に換算　千七百五十五輛
右車の定員數　七萬三千七百十八
乘客人員に對し　一萬三千九百八十八分餘れり

南　行　低床ボギー車　四百八十七輛
普通ボギー車　五百四十九輛
計　千〇三十六輛
換　算　千七百九十七輛
右車の定員數　七萬五千四百七十四人
乘客に對し　一萬四千九百五十四人分餘れり

以上の數字を比較すれば一日中の通過乘客に對し南行は六萬人に對し七萬五千八分の定員があるから乘客は盡く定員以内に納まり、尚一萬五千人分即ち二割五分の餘裕がある、北行も亦六萬人に對し七萬

四千人の定員があるから一萬四千人分、即ち二割四分弱の餘裕がある、斯の如く十二萬人からの乘客でも平均して動くものとすれば、滿員以上とか大混雜とかを來す筈がない譯である、然るに事實は之に反して、

北　行　午前八時乃至九時一時間の通過人員　六千二百八十八人

同時間運轉車輛

低床ボギー車　三十二輛

普通ボギー車　三十八輛

計　七十輛

換　算　百二十一輛

定　員　五千〇八十二人

右の如く一時間に七十輛の車を動かせば。五十一秒に一車の割合、二丁毎に一輛の間隔となる、これ以上に車を增加するときは速力は鈍り、時間はかゝり、結局能率が低下するから、先づ極度に近き運轉と見ることが出來る、それでも乘客に對しては定員より千二百六人以上を運んだことゝなる、若し之を四輛車ばかり動かしたものと假定すれば。一時間に百二十一輛即ち三十秒に一車の割合となり、一車四十二人の定員に對し五十二人を收容することゝなるから混雜するのも無理からぬことである。

南　行　午後五時乃至六時一時間の通過乘客數　五千四百十人

低床ボギー車　三十一輛

普通ボギー車　四十二輛

計　七十三輛　（換算百二十五輛）

定　員　五千二百五十人

之れ亦定員以上の客にて、四輪車に換算すれば一車四十三人二分を收容したることゝなるべし。

其他の時間では北行は午前七時より八時、南行は午後三時より七時迄、定員以上の乘客を運んでをるがこれ以外の十三時間に對しては全然定員以内に納まつてをる。

斯の如き次第であるから、大阪市内交通の大動脈たる堺筋は一日乘客の通過數十二萬人以上に及び、一時間最大南行北行を合せ一萬人に達することは普通で、大祭祝日などには尙一層多いことがある、之に對し目下朝夕のラッシュアワーには五十秒位にボギー車一輛宛を運轉し、辛うじて輸送の必要に應ずることを得るも、之は人口百三十五萬人位の時代の話で、今後十年を經過し、四五十萬人の人口を增加することゝなれば、人口增加の外に各一人當乘車回數も漸次增加する譯であるから、大動脈は堺筋と南北線丈では到底間に合はず、更に之に併行する御堂線とか横堀線に電車を敷設する必要あるのみでない高架又は地下の高速度電車の運轉を必要とすることは、蓋し火を睹るよりも明かであると思ふ。

英國の住宅政策

英國は休戰條約當時、既に三十萬乃至四十萬の住宅の缺乏を見るに至り、上下を擧つて大なる恐怖に襲はるゝに至つた、仍で政府は根本的に住宅問題を解決するに決し、其手段として、先づ第一着に住宅法の改正を斷行し、千九百十九年の「住宅及都市計畫法」「土地取得法」並に「住宅補充法」なる新法令が出たのである。

貧乏人と住宅問題

楠原祖一郎

序論

今日の食ふ心配の無い人々から、盛んに提唱されて居る所の文化生活の問題が、段々と深化するにつれて、換言すると、文明が段々狭い小さい所迄及んで來ると、或る階級の人々から、それが非常に觀迎される、が然し尚顧みても餘りあるものは、此の文明の深化に正比例して貧乏人の增加する事である。予の如きも一に貧乏人の階級に屬し、常に衣食の不安を考へてゐるものである。文明の進歩に伴ふて、貧乏人が增加すると云ふと、或はそれは誤つた考への樣に思ふ人もあるだらうけれども、予は是れは決して誤つた考へではないと斷ずる根據を有して居る。それは後に此の論文自體がそれに答るふ所があるだらう。

身に絹布を裝ひ、出でゝは宏壯なるデパアートメント、ストアあり、入りては五尺の身を横ふるに綠葉薫風の座敷あり、何不自由なく生活し得るものを以て、今日の言葉で是れを文化生活と云ふ。而して今日かゝる生活を營みつゝあるものゝ果して何人あるだらうか、その他は何れも、出でては流汗淋漓たる中に炎帝と戰ひ、入りて五尺の身を横へば、其の室を塞ぐ小屋に起居するの類である。前者の樣な文化生活が充實さるゝ事を望めば望む程、其の半面には後者の樣な貧乏人が益々增加する。五尺の身を横へて其の室の空間を塞ぐ樣な家屋に起居する所に、何んの文化生活あり、何んの家庭の慰安が伴ふだら

う。實に顧みても餘りあるものは此の貧乏人の增加である。余、夜更けて人皆寢靜りたる時、獨り貧乏人問題にを想倒して、今日の社會の實相を察し、思へずして涙數行下る事數夜、此の雜文を寄す。而し乍ら憂ふるもの、予一人に非す、天下先憂の士又數あり、予出でゝ敢へて此の言を爲すは、甚だ僭越の沙汰たるは免れない。而し事實を知つて事實を論ず、又不可なるなしと知つて敢へて、此の言を爲す。

粗製濫造家屋の出現と郊外生活

黃塵萬丈の巷より危れて、一日の疲勞を慰せんが爲めに、大抵の人々は市街より幾分離れた所に、居宅に定むると云ふ傾向が、大戰後の好況時代から著しくなりだした。今では郊外生活者に非ざれば、一種の誇りを感ずる事が出來ない迄に、其の傾向が浸染して了つた。その結果として、郊外各電鐵線路に沿ふて幾十幾百の新家屋が出現した、啻に郊外のみならず、市內の接續地域に屬する方面では、猫の額の樣な所でも空間があれば、それを充塡しようとする。其の結果としては、勢ひ粗製の爲め殆んど住むに忍びない樣な濫造家屋が、夥しい數に迄出現した。それは皆一夜造りの樣な無造作な建築で、誰れが見ても、家賃取りの敷金取りとしか思はれない。所が此の經營方法の下に於ても、尙且つ、一時は家屋の不足を感じて、思惑的、投機的建築業者の利する所となつたのである。予は其の一倒を擧ぐる爲めに左に予の調査に係る統計を揭出するであらう（是れは近時著しい勢を以て發達してゐる、南海上町線に沿ふた東天下茶屋と稱する地域であつて、詳細に云へば、天王寺村及住吉村に亘つた地域である）

『前記の地域に建築された、家屋を予は便宜上五十戶を選んで、各方面から——家賃、敷金、疊數、家族、職業等に就て調査する事にした。尙余は商店の調査をするのが目的ではないのだから、專ら住宅のみの調査をしたのである。

先づ家賃の方面から統計を示さうと思ふ。

第一表、家賃調

十五圓未滿のもの	○戸
十五圓以上二十圓未滿	二七戸
二十圓以上二十五圓未滿	一二戸
二十五圓以上二十七圓未滿	三戸
二十七圓以上三十圓未滿	五戸
三十圓以上	三戸

右の表の如く、予の調査した五十戸の家屋中、二十五圓以下の、粗惡な家屋が、三十九戸も占め、殆んど其の五分の四がそれである。

更らに敷金に到りては、隨分貧乏人泣かせが居る。

第二表、敷金調

十五圓未滿のもの	家賃の四ヶ月分
十五圓以上二十圓未滿	同　四乃至三ヶ月分
二十圓以上二十五圓未滿	同　右　同
二十五圓以上二十七圓未滿	同　三ヶ月分

二十七圓以上三十圓未滿	同	右 同
三十圓以上	同	右 同

敷金は大體右の表の如くであるが、此の敷金は何れも一ケ年間其の家屋に居住せなければ、全金額が完全に返濟されぬのである。一ケ年に滿たずして家屋を管理人に明渡す場合は、納入金額の二割乃至三割方を控除されるのである。

それから、間取の數に就て調査すると、左の樣な工合である。

十五圓未滿のもの	ナシ
十五圓以上二十圓未滿	玄關二疊所二座敷六疊に、緣側是れに沿ひ、庭園は一坪半乃至二坪あり、玄關土間、臺所土間各一坪宛
二十圓以上二十五圓未滿	玄關二疊所三座敷六疊に、緣側是れに沿ひ、庭園一坪半乃至二坪あり、玄關土間、臺所土間各一坪宛の平家建築
二十五圓以上二十七圓未滿	玄關二疊所二座敷六疊に、二階附にて上六疊一間あり、階下は座敷に沿ひ緣側を附け、庭園の面積前同、土間前同
二十七圓以上三十圓未滿	玄關二疊所板間とも四、座敷六疊緣側あり、庭二坪乃至二坪半、土間前同じく是れに二階附にて、上入口三疊奥六疊大體前同じ
三十圓以上	

間取の工合は、家賃の高低に依つて差異のあるのは、勿論の事であるが、然し家賃の單位に餘り差が無いと、間取も大して變らないが、雜作及建具で餘程異るのである。同じ間取で家賃の三圓も差のあるのは、斯の事情に基くのである。

次ぎに家族の人員であるが、是れは表に示す迄も無く、二十五圓以下の住宅に住むである人は、大低新婚後間も無い人々で、子供も子守も女中もない、只二人限りの淋しい生活である。二十五圓以上となる

と、少くとも子供もあり、子守もあり、又新婚後數年を經た家庭で、老人も居るのが多い。大低は四人以上、多いのになると、七人位住んで居るのが珍しくない。

職業に就て見るに、予の調査したる所では、左の様に分類する事が出來る。

會社員と稱するもの　七
銀行員と稱するもの　三
教員と稱するもの　六
株式店員と稱するもの　二三
新聞記者と稱するもの　二
僧侶と稱するもの　一
雜に屬すべきもの　八

以上に分類して、大體其の職業に依る住宅の模様を見ると、下級に屬するものと認められるものに、割合に係類多く、狹い家屋に多人數、住んでゐるのを見受けるが、夫婦二人位で、贅澤すぎる程の生活をしてゐるものもある。

そして大體一人宛の疊數を見ると、一人に二疊より、五、五疊迄の範圍に屬する。

要するに郊外生活の理想を追ふて、文化生活を實現せんとした連中は、ザツと斯くの如き生活をなしつゝあるのである。此の生活必しも文化生活と云ひ得まいと思はれる程、粗雜な生活形式を採つてゐるものもある。是れ採るものゝ不注意に非ずして、斯くの如き粗雜家屋を建築して、一夜造りに空間を充塡し、家賃取りの爲めの家主の非社會的なる行爲の犧牲に擧げられてゐるからで、吾人の様な貧乏人の市内に住み得ずして郊外に追はるゝ時、茲に此の悲慘事を現出するに到りしものである。

大阪市内外の人口と住宅

以上の例は大體、貧民と云ふべき部類に屬するものが、市内に居住するの機會を得ざりし爲め、郊外に於て如何なる生活を爲しつゝありやに就き、予は或る機關を通じて調査した一例を示し、横暴なる家主の爲めに貧民は重に其の膏血を吸れて行く狀態を、最も簡單に示したに過ぎないのである。是れより更に筆を進めて、市内に於ける現住戸口と人口の密度を示し、凡そ一世帶に幾人の人間が居るかを論じて見たいと思ふ。

第一回國勢調査の結果大阪市及接續町村に於ける、戸口別を見るに左の如くである。

區別	世帶數	男子	女子	合計
西區	八四、一四二戸	二〇四、八三〇人	一七五、一五一人	三七九、八八一人
南區	八三、一六五	一九六、二九三	一七八、一六三	三七四、四六六
東區	四二、八三八	一一七、五六六	八八、七四九	二〇六、一一四
北區	六七、一八八	一五五、一四三	一三七、一二三	二九二、四三三
合計	二七六、三三一	六七三、六三六	五七九、三三六	一、二九二、九七〇
東成郡	三七、三九五	八一、六五〇	七七、二六八	一五八、九二六
西成郡	五一、五三一	一一一、六五八	一〇四、六五六	二一六、三五四
合計	八九、九二六	一九三、三〇八	一八一、九二四	二七五、二六〇

右の數字は各區、郡、別に戸口を示したのであるが、それに依つて見ると、大阪市の世帶數は、二十七萬六千三百三十一世帶數有る譯であるが、一戸平均の人口を見る爲めには、總人口 1,292,970 人を世帶數たる 276,331 戸で÷なければならぬから、其の結果を見ると、一戸宛居住する人員平均前同は市内

に於ては、四、二人弱である。

更らに市外に於ける、東成郡の狀況を見ると、計算は前の如くにすると、一戸當りの平均居住員は、四、二强となり、西成郡のそれを見ると、一戸當りが是れ亦、四、二弱と云ふ、市の內外共に符合した樣な人員を示して居る。

普通一家五人居住を以て、平常狀態とするならば、大阪市內に於ける、一戸當りの居住狀態は、極めて良好であると云ひ得る。然し乍ら、這は單に統計の上での事であつて、實際は中々統計の數字の如きナマ優しいものではない。例へば一家屋內の疊數は下三疊四疊半に上六疊一間の所に、八九人居住してゐる事は、敢へて珍しい狀態ではない。足を一度、職工町、勞働者街に踏み入るゝならば、見當る限り全部それならざるはない。大阪市の家屋死亡率は、最近の調査に依ると二九パーセントを示し、其の中五、五割迄は細民階級に屬すると云ふのは、斯くの如き住宅に居住する爲めである。予は貧民の如何に多數市內外に居るかと云ふ觀念を明瞭に與へんが爲めに、左に項を改めて、市費負擔の割合を示して見やう。

市の財政と貧民

其の市が經濟的により强固な地位を占め得ると、否とは其の市に居住する住民の負擔力の强大なるか弱少なるかの如何に依つて決定さるゝ問題であつて、其の市に居住するものに負擔力が極めて微少なる場合があれば、市は財政上苦しき立場に立たなければならぬ。大阪市の如く、貧民の相當多き都市に於ては、社會施設は相當行ふべき義務を負擔さゝれてゐるが、一方負擔力となると甚だ微弱である。

大正十年度の市稅は、國稅附加稅六、四一六、五一六圓、府稅附加稅二、一四三、三〇五圓、特別稅一、〇六〇、九二六圓にして、是れを合計すると、九、六二〇、七四七圓となるが、以上の稅目の中、

國稅に到りては、衆議院議員選擧權者の總數が、實際に於て、市民の全人員に比し何十分の一と云ふ極めて僅かな數しかない。府稅に於ても、前者と變りはない。然うすれば、全市民の中何十分の一とか云ふ樣な人々が、市行政の財源を保証してゐる事になるが、其他のものに到りては、何れも其の負擔に任じない事になつて居る。是れを以て貧民階級に繰り入るゝならば、大阪市に居住する百二十九萬餘人の中三四割を除くの他は、殆んど貧民と稱して可なるのである。

予は負擔に任じないものを以て、決して咎めたくはない。彼等は負擔し得る能力が出來れば、自から進むで其負擔に任せむとする正直者である。然し乍ら、公共の政費を負擔せんとするも如何せん、身は五尺の身體を損へば其の室の空間を充す樣な、小屋に居住して居て公共の政費所ではない。是れはよろしく、天下の富を集中し、私有財産のアックムレヱションに餘念の無い人々に對し、暫く其の負擔に任せしむるを以て、策の得たるものとせなければならぬ。

獨逸の住宅政策

住宅は、物價高と勞働不足で一向に建たない、獨逸の四十五市に於ける新建家屋は、一九一二年に六萬四千百七戸なりしものが、一九一六年には、五千十五戸に激減した、以て政府は、建築資金の條件附補助、官有地の提供、小家屋建築奬勵等の政策を決して、鋭意全力を竭しつゝあるも、前途は實に暗憺たりといふの外はない。

住宅問題發生の淵源

×空想的社會主義者と住宅問題
×一體系として觀たる住宅問題

郊郭
江村恒一

現在に於ける住宅問題の對象

（1）如今の所謂住宅問題とは、住宅補給政策の問題と、住宅それ自體の改善に關する問題とに二大別し得て、少くとも、日本に於ける住宅問題は、斯の二つの内容を有てると同時に、その問題の重要さは、概して二者共に同樣にして、謂はゞ、日本に於けるそれは、孰も創始的な關係に在つて、其處に殆むど何等施設の觀るべきものなく、全く無勾束な成り行きに委す低な現狀に在ることは、曾て、わたくしの述べた處である。

（2）而して、斯の問題、就中、住宅補給政策上の問題は、今や世界の主要都市を通じてのそれであることも、曾て、識者によつて屢々論ぜられ來つた處である。

（3）斯くて、住宅の缺乏と少くとも、日本に於ける住宅建築に、一種の革命的改新を要する事實に仍りて、種々にその對策を論議されつゝある現狀は、多くの場合、唯、その住宅問題の現實にのみ着眼され即ち幵が結果のみを對象としてその策按を議せられ、然らずむば、住宅問題發生の原因に遡つて思議さるゝも、その直接な原因、例へば全體としての人口增加、或は人口の都市集中、乃至、戰亂の如き、若くは經濟界の萎靡等特殊の事情に由る住宅建築の減退、その他、住宅建築の改善方面としては、單に、

保健、保安。生活の愉適等、當面の事實とそれ等の想望とに出發してゐるようである。

住宅問題の體系的發生原因

(4) 素より、之等直接の原因と當面の事實は、住宅問題を考慮するに就いて、看過し得べからざる緊要な關係に在る。けれども、斯の問題を解決するに就いては、今一段と、深刻にその原由を探ぬべき要はあるまいか、と、わたくしは想ふ。

(5) 即ち、わたくしの觀る處では、如今の住宅問題は、其發生始源としての原因と、現在の問題との間に、一つの系統的な關係を有つてゐることを、看逃してはならぬ。而して、その系統的なる原因とは、是を約言せば、人間價値の發見、新文明の創造、即ち文化的に醒めた個人の目覺そのものである、と謂つて可い。

(6) 更らに、言葉を換へて云ふならば、社會主義的思想に源流を有する處の、個人生活價値に自己を發見したその覺醒こそ、今日の住宅問題が、思想的系統を有し、隨つて、現在の住宅問題それ自體は、個々の事實と、區々なる問題でなくして、其處に、一つの體系を有つてゐる處の問題なり、と云ふ所以である。

(7) ハーロールド・ヘフヂィング(ルネッサンス)氏は、その著『近世哲學史』の開卷第一に敘して曰く、「歐州精神生活の歷史中、文藝復興期と名けられたる時代は、それが、一面に於ては、中世紀の自由もなく統一もなく而も狹くるしい人生觀と絕緣し、他面に於ては、著しい眼界の擴大と共に、潑溂たる新精神が勃興した等の事蹟によつて、明かに他の時代から區劃される。すべて事物の出產には、二つの事變が伴つて行く、舊生命からの絕緣と、新生命の新らしい發展と。併し乍ら、およそ人生の歷史あつてこのかた、新時代への移りかはりの過渡期に際して現はれる兩方面が、文藝復興期に於けるほど、鮮かに且豐富に現れた時代は無い。——自然と人生に關する活々した新しい解釋が、實に斯の時代に於て、其の地盤を据えられた』と。大業な云ひ草ではあるが、今日の住宅問題の根底は實に斯の時代に胚胎したものだと謂つて

も可い。

(8) 蓋し、如今の住宅問題が、個人價値自覺の思想に系統を有つたものと容す限りに於ては、中世紀に特別な一時期を劃せる文藝復興期は、思想の方面に於て、自然と人生に對する殊に個人内觀の新智識が增大し、その鬱勃たりしものが發して、竟には、社會的政治的方面にも、彼のヂャン・ヂャック・ルソーの哲學的新思想が影響し、斯くて佛國革命を產み、今日の所謂社會主義的思想を胚胎するに至つたからである。

(9) 而して、所謂社會主義的思想は、その思想發現の根底に於ては、所詮、人格の問題即ち自己内觀による人間價値自覺の問題であるが、その發現の形式は、主として物的問題即ち經濟問題である。住宅問題が、叙上の思想問題に由來して、一種の體系的關係に在るといふのは、要するに、之れに外ならぬ。——再言すれば、社會主義的思想は、主として經濟問題そのものに象徵されるが、斯の象徵を人間生活の一部面たる住宅そのものに籍つたのが、今日の所謂住宅問題である、とわたくしは想ふ。

(10) 試みに、今日の住宅問題解決の一策案として、屢々口にされあと、彼の『田園都市(ガーデンシチ)』なるものゝ起源と實質を見るがよい、其處には立派に社會主義的思想の一發露たる事實を看逃し得ないであらう。

(11) 所謂田園都市とは、關博士も論ぜられてゐるように、都市の熱踏と黄塵を避けて、自然そのものに、快適にして保健的な生活を營まう、といふ斯る一般的な本質と起源を有つてゐるのではない。勿論、今日の郊外住宅に相當するのでもなく、之を、素朴的に云はゞ、實は、一種の工業都市であり、それを中心點に持つ職工町に外ならぬのである。

(12) 蓋し、現在、田園都市として先鞭的な發生を見た『ポートサンライト』や『ボルンビル』の如き、乃至は、現在異常の發達を遂げ又は新に發生したる『レッチウォース』と『エルウイン』の如き、孰も職工町に

空想的社會主義者の書ける住宅問題

して、謂はゞ、社會主義的工業政策の發露と云つて可い。

(13) 田園都市の起源と發達に就いては、屢々紹介され又は論議され來つたのであるから、今此處に蛇足を加ふるの要はないが、唯、その起源に遡つてみたならば、又現在の田園都市なるものに就いて、仔細に考察したならば、主として、職工住宅都市としての實質を有し、隨つて、工業政策としての一發現であり、而して、その先きは所詮社會主義的思想に淵源せることを看出すであらう。わたくしは、今此處にその多くを云ふの餘裕なきを遺憾とする。

(14) 仍で、わたくしは、すゝと端折つて、直ちに、所謂空想的社會主義者（ユウトピアンシアリスト）の書いた住宅なるものに就いて、叙記を進めることゝする。

空中樓閣的な都市の建設と住宅建築

(15) 等しく社會主義的思想と雖も、是には二大分岐あることを認めねばならぬ。——と云はゞ、わたくしは、奈何にも斯の思想に就いて餘程造詣ふかく有つてゐるかの如く誤られるかも知らぬが、幷うではない。——斯の分岐は、日本に於けるアノ御安値な感激黨等を風靡した例の資本論に於けるカール・マルクス（KARL MARX）を分界點として、マルクス及その祖述者を科學的社會主義者と唱へられ、その前期に屬するものを空想的社會主義者と稱せられてゐるが、斯の空想的社會主義者——謂はゞ、夢幻的又は感情的社會主義者とも目せられて、知的又は概念的に社會主義に組織を與へたカール・マルクス一派に對立せるものは、主として佛蘭西の社會主義者に屬する。わたくしが、空想的社會主義者の書いた一種の田園都市又は住宅なるものを叙記せむとするのは、斯の派即ち佛國系と英國系の二三者についてである。

(16) わたくしは先づ、彼の有名な物語として、又偉大なる空想として知られたるカベー（Cabet）の『イカリヤ國渡航記』を擧げよう。彼れは一千八百四十八年、北米テキサス州の、レッド河畔に廣大なる土

地を獲、此處に彼れの空想的社會を拵へて、その抱負を遣らむとせしが、その事業は悲慘なる終りを遂げたのであつた。併し、彼れが此處に實現せむとした社會は、彼れの『余に五十萬弗有らば成し得べき事業』と稱する小冊子に述べてゐるが、是れに據つて見れば、彼れは、此のイカリア國に宏壯な劇場や各人の生活を最も快適にすべき住宅を建築して、それには、華園あり、公園あり、瓦斯あり、戸毎に上水の供給あり、隨所に溫湯を獲るの自由あり、その他凡ゆる設備を有して、何んの事はない今日の所謂文化的な生活を、今より約七八十年前一種の田園都市に實現しようとしたのである。

(17) 次は、シャール・フーリエ(Charles Fourier)である。彼れの所謂『ファランステリー(Pharansteries)は、必ずしも今日の田園都市ではないが、最も社會主義的理想化されたる『アパートメントハウス』とも謂ひ得る、事の序でに書いて置かう。『ファランステリー』は、一國を、適度の人口と幾多の社團より成るものと做し、斯の一社團を『ファランクス』と名けた、而して、その一『ファランクス』の住民は、一『ファランステリー』即ち共同住宅に、四百人乃至一千六百人を收容せるものより成つて、是が、社會の單位を成すものとしてゐる。彼れは、斯の制度を以て、その生活を共同にし、その趣味の似寄つた關係上、生活費を節約する。即ち、一哩平方内に一つの共同住宅があつて、約四百戸の人口を收容する。斯の四百戸分の大家族は、室を共にするも食物を共同に調理し、共同の大食堂に食を攝る組織なるを以て、四百戸の小家屋を建築する經費と、生活上の重復を省く等、成るべく生活を要約することを說いてゐるが、フーリエの理想は、勿論是れだけではない、今は、彼れの共産主義的思想に現はれたる住宅問題の一端を示したまでゝある。

(18) フーリエが、奈何に彼れの共産主義的社會の實現に空想を懷きて眞劍なりしかの一例として、尙事の序でに書いて置くのは、彼れが夢想せる處の所謂樂土の近けるを說いた一事である。蓋し、奈何にも彼れの面目躍如たるものがある。彼れはその門下に告げて曰く『我等が憧れてゐる樂土は既に寸前に近い

た、必ず十年を出でないであらう、されば、汝等は決して家や土地を買ふてはならぬ、なぜならば、我主義の實現して樂土の臨める曉には、土地や家屋の價格が大暴落するからである』と。何んと面白いではないか。

(19) 次は、フーリエの門下たるピアン・ゴーデン（Jean Godin）を擧げよう。彼れは、フーリエの『ファランステリー』に類似せる『ファミリステール』（Familistere）といふものを案出した。是れは、勞働者の共同住宅であつて、最も快適なる家屋を給し、娯樂と各種の便宜を有することと、等しく現代の文化的住宅を彷彿してゐる。

(20) フーリエの『ファミリステール』は、ざツと、兩翼を有する宏壯な四階建煉瓦造であつて、斯の建物の中には、市場あり、幼稚園あり、演劇場あり、玉突場あり、斯の建物一戸には、一千五百人を收容し、それ等の建物が相集つて田園都市を成すのである。

(21) 而して、フーリエは、前記の通りその計畫が失敗に畢つたのであるが、フーリエの遺志を繼げるピアン・ゴーデンこそ、今より四十餘年前に斯る施設を爲して、兎にも角にも成功であるように思はれる。序に書き添へて置くが、ゴーデンは、佛蘭西の（Guise）に施ける工業家であり一大富豪である。

(22) 以上は、佛蘭西社會主義者（廣き意味の）であるが、わたくしは、終りに、例のロバアド・オーウェン（Robert owen）の書いた一種の文化村を紹介しよう。

(28) オーウェンは、英國社會主義の父と稱せられる人で、わたくしの只今まで誌し來つた佛蘭西社會主義者と等しく、是も空想的社會主義者（ユウトピアンソシアリスト）である。

人も識れるように、彼の千八百十五年の七月にやツと終熄したナポレオン戰亂の後を享けたる交戰國の疲憊といふものは、恰當、今日の大戰亂後に於けるそれとよく似通ふてゐる。英國では、曩日の大戰後戰場より無數の壯青年が一時に國內へ復歸したのと、戰亂の餘憊とで、現に住宅問題や失業問題に、一

國擧げて混亂の狀態に在るように、ナポレオン戰後のそれは、同樣なる事實と徑路とによりて、全國は暴動及示威運動や產業の破壞抔で、大亂脈を來せる當時、その救濟會議に携つたロバアト・オウェンが、囑されてその委員會へ提出したる報告書中に書いてあつた處の、『協和合力の村』(Village of unity and cooperation)こそ、此處に紹介せむとする一種の田園都市である。

(24) それによると、或一廓の中央に公用の建物を置き、それを圍周して、正方形の建物を有し、その建物には一戶千二百人を收容する、そして、その周圍に一千乃至一千五百エーカアの面積に亘る土地を有して居り、中央の建物は、公用の厨房、共用食堂、その他飮食の調理を最も巧妙に最も經濟的に爲し得る凡ゆる設備を有つてゐる 之等の外、幼稚園、講堂、禮拜堂、小學校、公會堂、圖書館等に用ひらるゝ建物と、運動場がある。而して、その正方形を成せる建物の第一、二、三の各翼は、各四室より成り、主として既結者の住宅に充てられ、第四翼は、三歲以上の子供又は一家族二人以上の子供を有せるその子供等の合宿所に充てられ、その他、監督者室、特別室、病室、來泊室、僧侶や敎師や醫師の室もある。斯くして、斯の建物に近く農場等を有してゐる。

(25) 最後に、すツと古い處を持つて來れば、既に邦譯もあることと、我國の讀書子にも弘く知られてゐる彼のトマス・ムーア(thomus moore)の『ユートピア』である。

(26) 是れは、今より四百年餘り前に出版されたものであるが、その理想鄕を書くに於て、縱むば甚だしき空想を逞ふせるも、その理想に於ては、寔に偉大なるものがある。

(27) 今、斯の『ユートピア』の「都市と田舍との關係」に就いて書いた處を覽ると、斯ういふことを云つてゐる。

『國內に、五十四箇の相當に大にして、且つ莊麗なる都市あり。——その位置所在は、何れも最初よりの計畫に隨つて定められたものにして、自然の發達にのみ委せたるにあらず。故に、距離其他の關係上

互に相助け、相利すべくして、相互の間に、利害關係を異せるために衝突を生ずるが如きことなきなり。其距離の最も近きものも、二十四哩より少きことなく、最も遠きものも、一日路より相隔つることなし。而して、首府は其の中央に在り。首府をアモーロテと稱す。一都市を中心として、その四方に展開せる一地方あり。其何れの方面も、二十哩より少からざれども、それ以上に延長せることも固より奇らしからず。——便宜に隨つて、所在に家屋の建設せらるゝあり、納屋、物置、農具、馬匹、其他一切の附屬品悉く備はり、各市民は、交代にて、是に來り住する定めなり。此家族、即ち農園は各四十人より少からざる男女——より成立し、——三十家族を合して一村となし、——之等の家族中、既に二年間田園生活をなしたる者二十人をして、毎年都市に歸還せしめ、是が補充として、都市より新に二十人の男女を送り來る』。

『市の三方に、堅固なる石造の城壁あり、其外側に、深くして、弘き溝渠あり、市街は、初めより一定の計畫に隨つて建設したるものなるを以て、區劃整然として、一糸亂れず、大道は坦として砥の如く、小路は正しきこと直線を引きたらん如し。雨天が幾日續きたりとて、街上の歩行に不便を感じ、風日なりとて、砂塵を打揚ぐる等の懸念なきこと固より云ふ迄もなし。其兩側に、石、煉瓦、シックイ等を材料とせる壯大堅固なる三層の家屋あり、市の端より端まで、其規模樣式を一にし、各戸各室等、特殊の區劃あることなし。されば、その外觀の美なること、殆んど想像の外に在り。家屋の背後には、大なる庭園ありて——是れに四季折々の花卉を植ゆるは勿論、葡萄、其他の華樹園及び野菜物あり。——一家屋には、適當の距離を隔てゝ、表裏兩面に窓及び門戸あること論を俟たざれども、出入固より自由にして錠鍵等の必要絶對にあることなし。——吾人歐洲人の眼を以て見れば、現在のアモーロテは、殆んど完全無缺にして、事々物々只だ驚歎の外なし』。

『市の人口の、法外に繁殖し、或は減少することなからんがために、一市内に包容すべき家族數を、略

六千と定めたり。若し其制限に超過するに至るときは、他の未だ制限に達せざる市に移住せしめ、若し何れの市も、皆制限に超過する場合には、無人の地を選びて新たに一市を建設し、各都市より、抽籤其他の方法を以て、是に移住せしむるなり　――市は何れも東西南北の四區に分劃せられ、各區の中央に市場あり。市内を清潔にすることに就いては、その注意到らざるなく、――疫病の如きは歴史上僅かに其記録を有するのみにて、現在の國民は始んど是を想像するだに困難を感ずる程なり、――市の周圍に四ケ所の病院あり、建築宏荘にして、内外諸科に關する器械藥品等具備せざるはなく、――各町内に、一定の距離を隔てゝ數箇の大會館あり、是れ三十家族の會食場云々』

是が、モーアの理想鄉としてなる一種の田園都市である。

(28) 以上誌し來つた事柄は、纔に片影を提へたのに過ぎないが、それ等一つ々々に就いて仔細に考察したならば、寔に面白いものがある、けれども、わたくしは今その餘裕がない。

(29) 之等社會主義者の空想に畫かれたる處の、今日の所謂田園都市と、延いては如今の住宅問題なる實質を有てる住宅の計畫は、その直接なる出發點と、即ちそれ等計畫の動機に於て、今日の住宅問題とは、勿論少なからざる距離を有してゐるが、斯の問題の根底を流れる思想は、恐らく彼此を一貫せる潜流であることは間違いあるまい、と想ふ。

(30) わたくしは、社會主義的思想の、必ずしも、人間價値の創造であり、又は人生の幸福若くは祝福であるとは、了解出來得ない。殊に、粗剛と、秩序の無視と、そうして、何處までも唯物的な、而もそれが舊世紀的な唯物觀念に生きてゐる今の斯主義者を了解に苦む。

(31) けれども、如今の所謂住宅問題なるものは、單にその事象の上よりのみ觀て歸納すべき問題ではなくその淵源に眼を着くるならば、怎うしても、其處に一つの思想が貫流しつゝある事を看過し得ない。而して、それは、今日の社會主義的思想の根底に觸れたものである事を打ち消し得ないだけな事である。

(32) 故に、住宅問題を眞劍に研究せむと所謂社會改良に志を遣らむとする者は、怎うしても斯の思想の交渉とに深く意を潜めなければなるまい、とわたくしは懐ふ。



研究

米國に於ける貸金庫（セーフデポジットボールド）見聞記（二）

村野藤吾

私は前號に於て米國の物騒千萬な有樣を書いてあの塊偉るセーフボールト扉や精巧よりも寧ろ神經過敏に出來て居る非常報知器の必要さ加減を一寸述べたが、謂ふまでもなくセーフボールトは獨り賊團に對する用意ばかりではなく、又あらゆる災害に對してもその安全を保證するものでなくてはならない、震災、洪水、火災等に對したとへ建物の本體が如何樣に變化しようともセーフボールト丈けは絶對に安全に保たれなければならない、少なくとも破壞に長時間を要する樣にするのはあたりまへのことである。こんなことを考へると際限もなく私の頭は安全から安全へとその實證の方法を考へ續けて結局、そんな危險なものそうまでして預けておかなければならぬものを持たぬ方がいゝことになつてけりがつく。考へて見るとこうしてこんな問題について書き續けて行くことさへ

馬鹿々々しくなつてくるのだ。實を云へばこれ程馬鹿氣た設備は又とあるまい、丁度國防上の軍備問題と同じく考へ方に依つては全く不必要なものかも知れないがそんなことは茲ではしばらく問題にせぬことゝして、更らに私の見聞記を書き進めることゝしやう。

建築の平面計畫とセーフボールトとの關係

私が見た内では僅かにFirst National Bank of Chicago(?) と Federal Reserve Bank of Boston丈けが第一階にあつた以外には殆んど地下室に取つてあつた尤も Federal Reserve の方は半地下室とも云つてよい位な位地にあつたのであるから、之れも地下室にあるものと云へないこともない。要するにセーフボールトは殆んど全部が地下室にあると云つてもよい。何彼に地下室を便利とするかと云ふに、勿論ボールフトの一切の危險に對する安全を期する上から云つて地下室が最も良い位置であるのと、一方に於てセーフボールトの如きかなり廣い場所を占めるものを、一階に取る時には最も有効な面積を之れが爲めに大部分占領せらるゝことゝなるのと、又營業上の方進から第一階に取ることを避けるものと考へられる。即ち前號にも一寸調査の結果を書いて居た通り米國では普通の貯蓄銀行では、その銀行所在地人口の約一割商業銀行ではカストマーの約貳割五分乃至三割がセーフボールトを利用して居る位盛んである、だからセーフボールト丈けは銀行業とは單獨に營業して居る所もあるのである。從つてボールトを利用する客の出入は恰も普通商店に買物をあさる。それと何等變る處がない位頻繁である。私達は自分のセーフボールトを得意顏に案内してくれる事務員が如何にも忙しそうにして居るのに悠々見聞して居るのが氣の毒になる位客の出入が頻繁に行はれて居るのをどこのボールトでも見受けた。從つてその出入には特別に專用の出入口が直接道路と連絡して居るか、又は之れに準する設備となつて居るのである。私は原則として米國のセーフボールトは專用の出入口が直接往來と連絡を持つて

居るのが最近の傾向だと云ふことが出來る。これは別に施行上の點から來て居る樣であるがこのことは非常報知器の處で述べることにしよう。而しセーフボールトを地下室におくことについては之れを日本でやる場合を考へると、彼地のやり方を全々倣ねることが出來ない事情がある。第一日本では雨期になると非常に濕氣が多い、如何にベンチレーションがうまく行はれやうとも倒底之れを完全に驅除することはなか〳〵困難である、否殆んど不可能のことに屬すると云つてもよからう。次にボールトの扉や其の他附屬品の運搬に關する問題であるが、殆んど貳十幾噸もある位大きな扉を地下室に運搬することになれば初めからその事について、餘程考へて置かなければならない。安全に運搬する爲には可なり大きな口、少なくとも幅九尺以上の通路と適當な勾配を準備しておかなければならない。私は、此の點から考へてもセーフボールト丈けは直接外部からの通路を持つて居ることが便利であると、思ふ。たとへこれは大したことではないにしても之れを地下にどうしても取らなければならないことについては、濕氣の關係から云つてもあまり賛成出來ないことである。謂ふ迄もなく一般にベンチレーションに關する工事は割合に費用を要する、之れを完全にやらうとするにはその費用の點丈けでも想像以上である。況んや日本の如く未だ防水防濕の工事が進歩して居ない國では、一層困難な問題でもあらう。以上の點から、私は之れを出來得る丈け、第一階に取る樣に計畫した方が良策だと思ふ。何れベンチレーションの問題はあとで詳しく書くことにしよう。さうすれば勿論運搬の問題等も容易に解決が出來るのである。此の運搬の問題は簡單な樣であるが實は非常に面倒な問題であつて無理をしたり又は一寸の過ちでもデリケートなメカンズムを持つて居る扉など直ちに故障が來ないとも限らない。信託銀行の方は地下室にセーフボールトがあり、東京の興業銀行本店は二階に取つてある。爲めに兩方共此の問題はかなり厄介な注意と、多少の損害を忍ばなければならなかつたのである。而して之れを興業銀行の如く押し上げるよりも、信

銀の如く地下室に下す方が餘程危險の程度は高い様である。共に豫めその計畫をめぐらし置かない以上双方共賞めたことではない。此の點はセーフボールトの營業上の關係や銀行の狀態及び濕度を異にして居る米國の夫れと餘程考へを異にすべき點であらうと思ふ。

セーフボールトを第一階に取るか又地下室に取るかと云ふことは餘程重大なそしてそれ丈け銀行の建築には興味ある問題であつて一概に地下室がいけないとは云へないかも知れないが少なくともボールトのプランニングに當り以上の諸點は餘程考へを要する問題であらうと思ふ。

一般にセーフボートは銀行建物内に在るが必らずしも全部がその通りになつて居るのではない。一寸した貸事務所建築の地下室などに間借りして營業して居るものもあれば、ホテルなどの地下室の一部を借りて居るものもある。つまり私などがぼんやり考へて居た様にセーフボールトとは銀行業の片手間の様なものでなく獨立してどこにでも營業して居るので、場合に依ると別に小規模の安全倉庫とでも云つた様なものを兼營して居ることもある、それは貴重品を入れたトランクだの何百年前の椅子だの、簞笥だの、長持だの色々な家具や、甚しいのになるとアパートメントを借りて居る夫婦者が一寸旅行するからと云つては家財をトランクに入れて預けて行く者さへあるそうだ。全く簡單明瞭にさつさとやつて行けるところは羨し位である。私は此の種の大型のデポジットの設備を兼ねて居るものをサンフランシスコで見た。

次にセーフボールトは大體建物の中心におくことが必要である。少なくとも建物の外壁に接して居ないことに注意すべきである。ボールトが直接外壁に接して居るのは恰も直接危險に陋されて居る様なものでこれはなるべく避けねばならぬことである。若しどうしても外壁に接しなければならないのなら夫れ相當に防備の程度を高める工夫をせねばならない。原則としてセーフボールトはその安全を期する唯一の方法として、四方八方全部通路や見透しの出來る空隙を取り、その上各隅々

は斜めに鏡を取りつけて一方の通路や空隙から他の通路や空隙の有様を見得る仕掛けとしてその上不安心なれば拳銃だの鐵砲だのを備へつけおけばいゝことゝなる。實際私はボールトの入口に數挺の鐵砲がいかめしく、砲架に立てかけてあるのを見て驚いた銀行も一再ならず出逢した。それは私に取つて全くこけおどし以外には何等の權威も安全相も保証せぬ樣に見受けられだ。たがこんなことで安心して居る米國人は案外お芽出度い、そのくせ彼等が如何に神經過敏になつて居るかと云ふことについて面白い話しがある。僕とN君、殊にN君はどんな天氣でも寫眞器のサックを肩からぶら下げて居ない日はなかつた位建築家の洋行には寫眞器は必要である。その寫眞器を二人共肩からぶらさげてあるセーフボールトを見學に行つた。然るに先方では副支配人格の人が出て來て、色々と世話を焼いてくれた迄ではよかつたが、僕等が肩から吊して居るサックを見て、それはピストルではありますまいねー』と云つた、ざう見たつてまさか寫眞器のサックをピストルの入物と思ふ間抜け者はあるまいに彼等の過敏さは全く如斯である。誠に笑止千萬である。

ボールト外壁の構造と建物との關係

一般に構造上から、ABCの三類に區別される此の分類はNational Fire Protection Associationに依つてなされた所のものである、次にそれを簡單に紹介して見やう。

A號

最高限度の構造を有するものであつて、長時間の火災や衝激や賊團の襲撃に耐へ得るもので從つてその構造は極めてマッシーブに出來て居る。Farmers' Loan Company や之れに準する大銀行は此の種の構造を用意して居るのである。

B號

ボールトを有する建築物が全部焼け落ちても中の預り品を十分に保護する丈けの構造にしておくもので普通ボールトが何階にもなつて居るもの。

C號

耐火構造建築の骨組みの上に設けられてボール

トを支へる構造體の強さを限度として内部の預り品を十分保護する丈けのものにしておくこと。

A號ボールトの構造一般

第一の方法としては鐵筋コンクリートを以て壁も床も天井と構造することが良策である、鐵筋コンクリート構造の利益とするところは

一、強度を一樣に構造出來ること。

二、高熱の爲めに起る Expantionstress に依つて破壞されることの少なきこと。

三、火災などの場合落下する物體に依つて破壞されることが少しいこと。

四、穴を開けることが最も困難であること。

而して煉瓦又は煉瓦と鐵筋コンクリートを外壁に用ふることはA號程度のボールトには避けることが必要である。

第二の方法としては鐵筋や其の他の補強材を各種型鋼即ちIビームやレールなどを併用することである。第一の如く鐵筋コンクリートの構造にその鐵筋のの材料として此の種のものを併用することは米國ではその例最も多い樣である。これは各種の危險に對し最高程度の保證を與へるものと云つてもよからう。その一例として別圖の構造を見ればその大體を知ることが出來る。これは Federal Reserve Bank のボールトに用ひられた構造であるから先づ米國では第一位のものと云つてもよからう。

其の他參考圖を見れば種々の構造を知ることが出來るから之れ以上書く事は省略することゝやしう

第三の方法としては、壁は必らず一樣に出來上ることが必要である之れが爲めに、コンクリートの仕事などは必らず連續的にやつて充分搗き塡めて最高度のコンクリート工事をやることが必要である。

外　壁

大體前節に書いた通りであるが茲に注意すべきことは、構造上ボールト丈れ自身建物から獨立して居ることゝである。これはボールトの構造としては最も注意し且つ嚴密に實行すべき點である。之

れが爲めに建物に起つた種々の危險を防ぎ又はその損害の程度を非常に限定することが出來る。殊にボールトが防火的建築でない場合には最も必要である。此の場合は絶對に直接地盤上にボールトを築造すべきである。例令ば防火的建築と雖も此の程度のボールトは一階以上に造ることは絶對に避けなければならない、此の點で日本興業銀行のセーフボールトは設計の初めに於て非常な誤解をして居たのであるが、今更ら如何とも致方がない。幸に銀行の建築が非常に安定に且つ丈夫に出來て居る故、吾々はその安全を絶對に保證することが出來ると信じ切つて居るわけである。元來セ

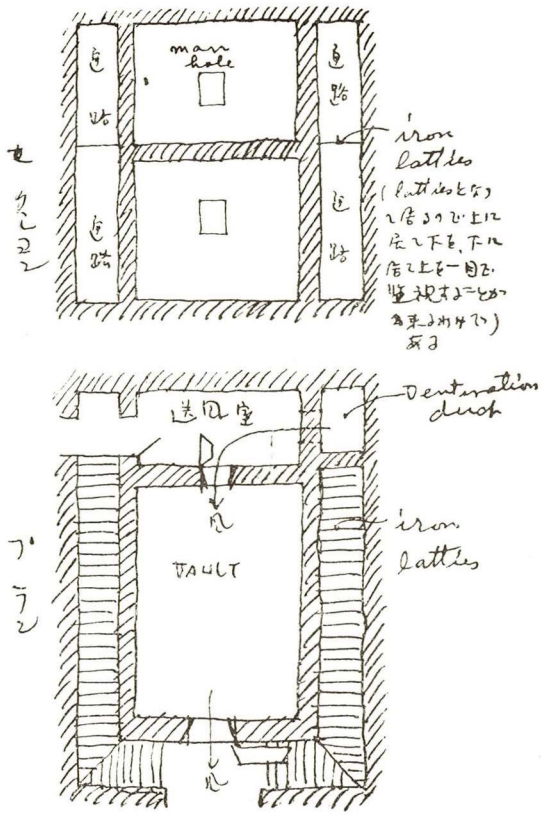


Fig. 9

ーフボールトのことについては據つて研究調査すべきものとしては僅に學校時代の講義や外國から取り寄せた圖面以外何等實地につきて得られる資料もない樣なわけで、興銀ばかりではない信託銀行の方も種々と不完全なことや研究の不足や、從て多少の失敗を免れなかつたことを遺憾とする。

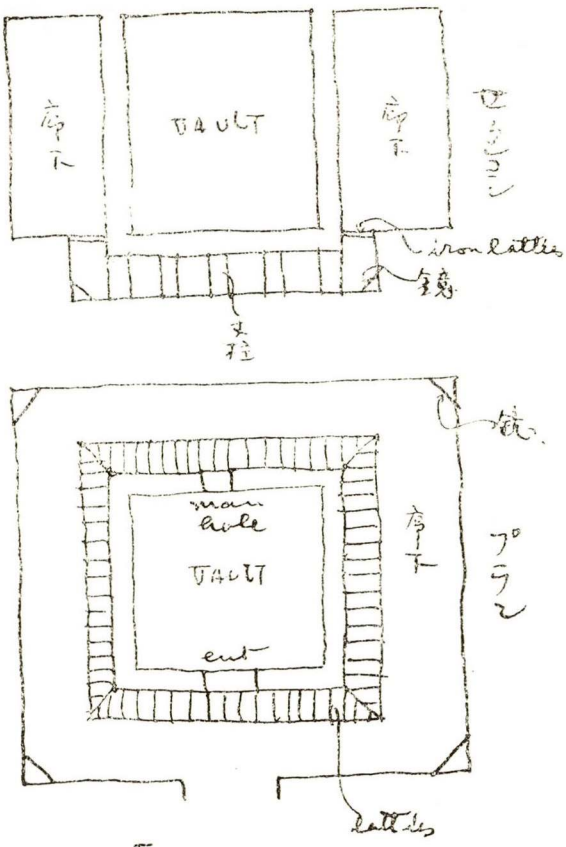


Fig 10

如斯ボールトの構造をして建物本體と獨立して居る實例として First National Bank of Chicago のセーフボールトを擧げよう。その構造は大體圖の如きものであつたと記憶して居る。床と天井とは

morgan Bank of new York
この印象圖にいもねえなよりゆう

說明を聽く以外には全然知ることが出來なかつたが建物の途中の床丈けはボールトは獨立して、構造なつて居た。其の他最もいゝ實例として紐育のモルガン銀行を擧げて見よう。これは曾て賊團の爲めに爆彈の洗禮をうけた物騷千萬な銀行ではあるが、流石に銀行中の銀行としてウォールストリートの一角に金權の覇を稱へて居る銀行丈けあつて、見物するのにも刑事などがたへず張番をして居る位なか〳〵面倒であつた。どこを見ても清素な意匠で、ともすれば誇り顏する金權の横暴や低級な金力的亂費などの空氣はさがしても見當らない。實にすつきりとした良いデザインである。たとへ、エレベーターのカー一臺に價三千弗をかけた香木細工のすばらしいものであつたとは云へその美しい彫刻は如何にも愼ましやかに見受けられた。階段を降りて、狹い廊下をぐる〳〵案内の人の尻について歩いて居るうちにセーフボールトの前に出た。此處には流石に鐵砲のこけおどしは見當らなかつたが、見るからに十二分の警報裝置や防備上の設備が施されてあることが感ぜられたのである。今私の印象に殘つて居る、構造としては大體圖面の通りであつたかに記憶して居る。ボールトの壁が時として建物の鐵骨で支へられることがある。その時には勿論鐵骨には十二分の安全率を見込むことが必要であることは、今更ら呶々を要しないことであるが、その時には鐵骨を少なくとも、厚さ六吋の鐵筋コンクリートで、保護して置くことを忘れてはならない。此の場合鐵筋は柱なり又は梁に充分取り附けて置く樣にしなければならない。

前條くど〳〵と書いた通りに、ボールは構造上建物本體と連絡することは絶對に望ましくないが已むを得ず床などをボールトに連絡しなければならない場合には、一朝建物に變事が起つて破壞する樣な時でも、ボールは何等耐火力を弱められゝことなく、安全に引き出され得る構造として置く丈けの注意は必要である。以上種々のアクシデントの場合を考慮する時にボールト外壁の厚さは、鐵筋コンクリートで少なくとも十六吋以上煉瓦では二十吋以上、若しコレクリートを煉瓦で圍つて

居る時には少なくともコンクリートの厚さ十二吋煉瓦の厚さ八吋以上を要すると謂はれて居るが、A號程度のものには鐵筋コンクリート又は鐵骨鐵筋コンクリート以外に信頼すべき材料を見當らない。

屋根

厚さは少なくとも外壁より四吋或は時として、夫れ以上を增すことが必要である。理由は外壁に比し、より大なる衝撃に耐へなければならないからである。勿論その強度はボールトのスパンに依りて根本的の決定がなされるけれども、特に建物の破壞する樣な場合に上階にある機械だの金庫だの、其の他壁や重い物體の落下の程度なども充分に考慮して強度の設計をして置くことが必要である。元來ボールトの內部に柱を立てることは決して望ましいことではない。私の見た內でもボールトの內部に、柱の立つて居たものは一ケ所もなかつた。而し無闇に廣いボールトを造らなければならない時には、柱を立て梁をかけ又は間仕切りを取らなければならないことになる。此の場合その柱なり梁が鐵骨である時には、少なくとも厚さ二吋以上の鐵筋にて、コンクリートのプロテクションをしておかなければならないことになつて居る。

床

厚さ少なくとも十二吋或はそれ以上を要し、床が鐵梁の上にある時は、檢視が出來る樣に構造しなければならるい。若しボールトが一階以上即ち二階なり又は三階になつて居る場合には、各階は各別に入口を作ることが必要である、此の場合階間の床は厚さ少なくとも六吋を要する National Fire Protection Association では床の仕上を不燃質物でなければならないと謂つて居る。之れは勿論非常に望ましいことであるが、場合に依つてはルバータイル又はリノタイル或はコルクタイルなどを用ひても支障なからうと思はれる、實際に於てルバータイルなどを用ひて居たものも有つた樣に記憶して居る。米國では客の出入が非常に頻繁

であるからボールト内部の如く、非常に狭い通路は之れが爲めに、割合に早く磨滅するおそれがある。事實見るからむごたらしく磨滅して居るのがかなりに有つた、故にこんな場合容易に修繕が出來ること、又は修繕が大袈裟にならない樣な材料を選ぶことが必要であると思ふ。

以上はA號セーフボールト外圍りの大體の構造を書いた。その詳細は圖面を見れば理解することが出來やう。

次にB號C號共に大體A號に準したものであるが、只だB號は内部の面積百五十平方呎以下C號は百平方呎以下のものとなつて居る。別段茲に各別に詳細に書き立てる程のものでなく、要するにA號に準じて丈夫に構造すれば支障なしと思はる。

圖は嚴密に何號と辨別することが出來ない又する必要もないが、大體A乃至B程度のものと思つてよからう。

爾にして眞に熱心ならしめば
後と謂はず直ちに此瞬間
に於て爲すべきを爲し始むべきを始むべし

『ギルベレス』氏の煉瓦積の方式と動作の研究に就いて

本田登

『ギルベレス』氏は煉瓦積の改良を企て、大に効果を擧げ得た事は既に過去の事である、彼れは煉瓦工の各動作に就て詳細なる分析研究をなし、不必要なる動作を省き緩漫なる動作に代ゆるに、敏速なる動作を以てし、且つ多少にても疲勞又は速度を滯緩ならしむるものは、勿論一々實驗を施こし改良を企てたと云はれて居る。即ち氏の熱心なる研究は、今日米國に於て廣く建築業者間に偏く應用せらるゝ所の、煉瓦積の方式を案出した。

元來『ギルベレス』氏の煉瓦積の方式改良の動機は、米國技師學會員としての氏並に當時の熱心なる能率增進の研究者『テーラー』氏一派の人々より暗示を得たものである。當時の學會にては外に會員の『トムソン』氏『ガント』氏『バース』氏等によりて熱心に仕事に對する時間の研究を又一方にありては、同じく學會員の『ジレット』氏『デンナ』氏等によりて、單位工費の研究が續々發表せられた、此等の研究報告は大に氏の改良式案出に新しき資料を提供した事は云ふ迄もない。

『ギルベレス』氏は常に煉瓦積なる仕事は、古き時代より行はれ來たものなれども、仕事に要する工具類には、何等改良せらるゝことなく、且又煉瓦積の方式に於ても、舊來の習慣を墨踏し其間何等目新しき方式の案出せられざりしを、遺憾に考へて居つた、幸に氏は建築請負業者でありし事は、大に其研究改良の必要を促し、而かも氏は屢入れ

たる煉瓦工に就て詳細なる實驗を試みるに誠に好都合であつたのである。

氏の煉瓦積の方式に一大改良を施こさんと企劃した發意に就て氏は實に次の如く說明して居る。

體重百三十封度もある煉瓦工は、重量僅かに五封度內外の煉瓦一箇を積むに、舊來の方式にては熟練せる職工と雖も、十二回內外の動作を要するものとせば、壹千箇の煉瓦を終日積み終る爲めには、一萬二千回の動作を繰返し要することになる之れが爲めに煉瓦工は、多大の疲勞を來すべく且つ又多くの動作には、全く不必要なるものをも含まれ爲めに精力の浪費せらるゝことをも目擊した、故に彼れは簡單なる動作にて回數を減ずることに依り、疲勞を少くし多數の煉瓦を積み得らるゝの方式を立案すべく努力したのである。

氏の改良せる煉瓦積の方式によりて、氏の雇入れたる職工の技術を極力養成することに努力し、自己を利益すると同時に職工を優遇するの得策なるを感じた點。

優良なる職工を雇入るゝ爲めには、他よりも一層高率の賃金を仕拂はねばならぬ、而かも他の同業者間の競爭に打勝なねばならぬ高率の賃金は、煉瓦工の疲勞を最少ならしめ、豫定以上の煉瓦を積むことによりて仕拂ひ得べく、之れ氏の新しき煉瓦積の方式改良に、直接の利害關係を及ぼす重要事項でなければならぬ、卽ち以上の三條件は氏の研究に一層の熱心と努力を傾注したものであらう。

次に一言御斷りを申述べて置きたい『ギルベレス』氏の動作研究は過去の實驗であることは、前述の通りであるが、米國に於ては煉瓦積の實施方法として、之れ又既に應用されて居るから、之れを記述することは寧ろ時代後れの嫌はある、只吾が國の建築施工法に一層の改良と、進歩を期待すると俱に、職工の訓練又は能率增進の參考に資する爲め、氏の研究實驗の概要を摘記して見やうと思ひ付たのである。

(一)職工の研究ト訓練

『ギルベレス』氏は、氏の使用する煉瓦工を指導

訓練して優良なる成功を擧げんが爲め、左の條項を基礎として研究を進めたのである。

一、職工に彼等の職務觀念を充分に理解せしむる事

一、尤も敏活に動作をなさしむる事

一、一定の成果を擧ぐべき仕事に要する動作は出來得る限り其數を僅少ならしむる事

以上は氏が煉瓦積の方法を、科學的に應用した職工訓練の根本となるべきものである。

元來雇主が要求する一定の仕事を定められたる時間に、成就する職工は何れも動作機敏なる、優良職工である、彼等は何れも僅少の動作によりて一定の仕事を成し遂げ得る技倆及び天性を具備するものである、然れども斯の如き職工は頗る稀に求め得らるゝものであるから、雇主にありては一般に放縱なる作業を改善し、彼等の技倆を向上せしむる爲めの養成訓練は、尤も必要なる條件でなければならぬ、『ギルベレス』氏は以上の目的を到達せんが爲め、氏多年の研究と實驗とによりて案出した新らしき煉瓦積の方式によりて、熱心に彼等を指導訓練した此方法によりて作業せる職工は何れも彼等の疲勞を著るしく減じ、且つ多數の煉瓦を積み得た即ち雇主と職工は、相互の便宜と利益を收むる事は出來た、此點に氏の研究と實驗は價値あるものでなければならぬ。

更らに氏獨特の職工養成法の要點を概記すれば一般に煉瓦工は次ぎの二つの作業方法を原則として、煉瓦積みを練習せねばならぬ、即ち團體作業と個人作業の二つの場合である、團體作業にありては仲間の職工の仕事の速度を、乘超さんとする場合の動作の練習で、他は個人作業の場合の動作の練習である、職工は何れも此二つの異れる作業に要する各壹組の動作を習得し、之れを臨機に應用する事を練習せねばならぬ。

未熟職工は煉瓦積の方式を敎へらるゝ場合には先づ第一に正しき位置に適量の『モルタル』を以て、煉瓦積みの方法を練習せねばならぬ、而して彼等の技倆の次第に上達するに及んで、第一に此等の遲緩なる動作より脫出すべく、且つ又不必要なる動作を出來得る限り省畧すべく、最大の努力

を拂はねばならぬ。此等の秩序的作業に依る訓練は活動力ある、而しも必要なるべき動作の應用に對して未熟職工の課業を著るしく縮少するものであらう。

職工長は未熟職工に煉瓦積の方法を敎へるに當り、特に留意すべき點は彼等の作業に要する動作の數並に疲勞の程度を明示せる、統計圖表を作製し自己の動作と比較研究し、彼等の技倆の向上進歩を企て、其技倆及び動作の漸次上達するに及んで、更らに標準動作數と比較し、彼等の煉瓦積に要する必要なる動作を更らに、機敏ならしむる樣努力訓練せねばならぬ。

「ギルベレス」氏は以上の如き訓練方法によりて急速に煉瓦工を養成したのである、氏によりて養成された職工は、何れも作業能率を著しく增進し得たのである、而して氏は一般の雇職工よりも、自己の養成せる職工に高率の賃金を給與する事が出來た。

即ち氏の使用する煉瓦工を左の四階級に區別し夫れ〳〵規定の賃金を仕拂つたのである。

一、氏の改良煉瓦積の方式を習得し其方式に從て完全に作業し得る職工には最小率の賃金以外に相當の割增しを給與した。

二、氏の改良煉瓦積の方式を習得し其一部を作業に應用し得る職工には最小率以上の賃金を給與した。

三、氏の改良煉瓦積の方式に依らざる職工にして技術優良作業努力が最善と見認むる場合而して仕事の量は(一)(二)の場合に於ける職工以上なる者には最小率の賃金を仕拂ふた。

四、前述の三條項に適合せざる一般職工は氏の煉瓦工配給困難又は不得止場合の外は使用せぬ事となし而も此種の職工には最小率以下の賃金を給與した

以上の如き氏の煉瓦工階級區別より見て、改良煉瓦積の方式を習得せざる一般の舊式作業に依る、煉瓦工を使用する事は、大に不利益であつた事を想像し得らるゝ、之れは雇主に限らず、職工等に取りても又不利益で、他よりも高率の賃金又は物質恩的惠の給與を受ける事は、殆んど望まれ

ない事であつた、故に氏は改良煉瓦積の方式によりて、極力職工を訓練し、自己の各工場に配置し作業せしむる事は、氏は勿論職工等にも大に便宜と利益を與ふる事は出來た、之れは別に說明を要しない自明の理である、けれども氏が公表する要點を摘記するならば、一般に廣く募集せる煉瓦工に關して、氏が之等の職工を取扱事に甚だ氣の毒なる問題を經驗した事である、卽ち彼等と雖も善良なる意志並に技倆を持ちながら、舊式の煉瓦積方式によりて、一個の煉瓦を積むに少く共、十二回以上の動作を繰返す樣習慣付けられた、彼等は其習慣より離脫する事は甚だしく困難である許りでなく、氏の訓練せる職工等の得る賃金と同等なる賃金を得る爲め、終日過勞なる作業を繼續し、殆んど休息の時間も許さぬ、斯かる狀態の下に作業する事は却て能率增進生産過剩の原則に反し、尙氏の經營法の根本趣意に戻るものであると說明を加へて居る。

氏の請負ひたる工事に於て、一時に多數の煉瓦工を必要とする場合は、新たに募集した職工を使用する事は、前述の通りであるが、此の場合は氏一流の考察に依て、最良の仕事の成果を擧ぐる爲め、職工の配給並に作業方法は、凡べて仕事の能率を根本問題として企劃されて居る、之れは餘程興味ある問題であらう、故に熟練せる職工にして舊來の方式によりて、煉瓦を積み得る職工は、寧ろ急速に彼等を訓練養成するの不利を考慮し、却て彼等特有の方式により、自由に作業せしめたのである、尙一方に於て彼等が仕事に對する進取的努力に乏しく又技倆にありても、普通なる職工は却て氏の改良煉瓦積の方式によりて、作業せしめ氏の訓練せる優良なる職工間に配給して、彼等より受くる刺戟並に統一作業により、未熟職工に特に、奮發心を起さしめ彼等を養成する方式を取つた、之れ卽ち氏の迅速なる訓練法であつた。

以上斷片的に書き綴た事によりて『ギルベレス』氏が、熱心なる努力によりて、煉瓦工を訓練するの目的並に氏の詳細なる職工心理の分析により、相互の能率增進、相互の利益を計りて氏の事業經營上に專ら之れを應用して成功を擧げた、概要を

述べたのである、次ぎに氏の煉瓦上の動作改良に關する研究と實驗の大略を述て見よう。

(二)動作の研究

『ギルベレス』氏は煉瓦積に於ける、職工の動作を詳細に測定する爲め、十二種の異なる作業に就て、之れを統計的に調査した、今其等の作業種別を記述する事を省略し、單に重要なる動作の比較側定を圖表に示し記述する事に止める、圖表を示すに先ち其内容を一層明瞭にする爲め、動作の改良を施こしたる部分の概要を說明して見よう。

(一)、煉瓦を積む位置と、煉瓦を貯藏又は積置しある場所との關係は、尤も近距離に而かも中間何等支障物なく、一直線に之等を運び得る樣豫め、配置する事は尤も必要の事である。從て煉瓦の積置距離を何程に定むるかも必要事項である、氏の說に從へば最大距離を四呎となすを尤も適當として居る、特に煉瓦積の方法は右方より左方に進みて積まるゝ場合は煉瓦及び『モルタル』を急速に運ぶ爲めに上述の點は尤も重要なる條件である。

(二)、表積の場合に於て煉瓦工は、左手に一個の煉瓦を取り、之れを積む場合に於て、右手の鏝にて其次ぎの煉瓦を積むに要する『モルタル』を掬ひ取り、煉瓦を積むと同時に以上の『モルタル』を適所に敷き均らすべき事、卽ち此等の二つの仕事は一回の同一動作にて、必ず行はねばならぬこと。

(三)、舊來の方法にありては煉瓦積に要する『モルタル』は先づ鏝にて運ばれ、而る後之れを鏝先きにて平均に敷き均らす爲め、多くの動作を繰返さねばならぬ、而るに氏の改良方式に依れば、先づ一個の煉瓦を積むに必要なる『モルタル』を掬ひ取り之れを適當の場所に鏝にて敷き込み置き、而して煉瓦を積む動作の運動量(Momentum of the Brick)によりて『モルタル』を充會に分布壓縮し、目地を充埋せしむるの方法は、遙かに優良なる事を認めた、且つ此方法に職工の熟練によりて容易になし得る事を經驗した。

(四)、壁体の煉瓦積に於て表側積み以外の中伏せは、之れに要する『モルタル』を鏝にて敷き均ら

し餘分の『モルタル』を鏝にて掬ひ取り『モルタル』箱に投げ入るゝの方法を付け、第三の場合の如く分布する樣敷き込み『モルタル』上に煉瓦を押壓し置渡し煉瓦の上端に『モルタル』を充分に壓出せしめ、而して壓出したる『モルタル』は煉瓦十個を積み伏せたる後一回に之れを鏝にて切り取るの方法を案出した、此の方法は舊來の方式に比し大に動作の數を減じ得るものである。

(五)、前項の場合に於ける煉瓦積みは、左方より右方に進みて積む場合は、此の動作は一層簡單に行はるゝものである。即ち煉瓦と『モルタル』は一回の同一動作にて運ばれ『モルタル』の敷込み及び煉瓦の伏せ方は同樣一回の動作にて容易に爲し得るものである。

(六)一般に前述の場合に於て、煉瓦は積置場所より一直線に而かも急速に運ばれ、積まるゝ時は『モルタル』は目地間に完全に充埋さるゝものである、此理由は急速に積み上げらるれば、其れ丈け煉瓦に及ぼす動作の運動量は、增加するからである、此原理を利用し得る事によりて『モルタル』を敷き均らし又は目地間に『モルタル』を事更らに流し込むが如き動作を省略し得らるゝものである。

以上は『ギルベレス』氏の改良煉瓦積方式の舊來の方法に比較して特に改良を施こたる點に就て、概略を説明したものであるが、尙左に詳細なる動作の比較を表示して見よう。

(一)撰掬式煉瓦積法

(Pick and Dip Method)

撰掬式煉瓦積方式は普通一般に行はるゝ、煉瓦積の方法で最初一個の煉瓦を積むに必要なる『モルタル』を鏝にて掬ひ取り、之れを壁面に敷き均らすと同時に、撰別したる煉瓦を積む方法である此方式は米國に於ては、一般に東部方面に於て行はれて居る、第一表は此方法に依る煉瓦壁の表積半枚の煉瓦積の場合に於ける、舊式の方法に依る動作の表示にして、一個の煉瓦を積むに要する、動作を單純なる一つの動作に區別したものである

第壹表示

第一、煉瓦積に要する『モルタル』を掬ひ取る爲め『モルタル』箱の方向に進まんとする動作
第二、『モルタル』箱に接近する動作
第三、『モルタル』を『モルタル』箱より掬ひ取り又は「モルタル」の「コンシステンシー」を加減する動作
第四、足代の上に積置かれたる煉瓦を摑み取らんが爲め其方向に進まんとする動作
第五、煉瓦に接近せんとする動作
第六、積置されたる煉瓦の内より適當品を撰別する動作
第七、『モルタル』箱より鏝にて掬ひ取りたる『モルタル』を壁面適當の箇所へ運ぶ動作
第八、煉瓦を積置場所より積むべき箇所へ運ぶ動作
第九、壁面の上に『モルタル』を積載する動作
第十、『モルタル』を鏝にて適當の厚さに敷き均らす動作
第十一、『モルタル』が壁面より食み出したる部分を鏝にて切り取る動作
第十二、切り取りたる『モルタル』を『モルタル』箱に移投する動作
第十三、煉瓦を積む動作
第十四、煉瓦を積みたる後壓縮されたる『モルタル』の壁面より食み出したる部分を鏝にて切り取る動作
第十五、切り取りたる『モルタル』を再び『モルタル』箱に移投する動作
第十六、煉瓦の上端を鏝柄にて數回叩き目地巾並に煉瓦の通りを正確ならしむる動作
第十七、再び壓縮により食み出したる『モルタル』を切り取る動作
第十八、切り取りたる『モルタル』を再び『モルタル』箱に移投する動作
『ギルベレス』氏は以上舊來の煉瓦積に依る、十八回の單純動作を出來得る限り少なき動作に改良せんと努力し、實驗と研究の結果之れを僅々四回半に縮少し、第二表示の如く改良した之れを第一表示に比較して掲載せば即ち次の如くなる。

第貳表示

第一の動作を廢す

之れを廢止する方法として『モルタル』箱と煉瓦壁との距離を二十一吋に定め『モルタル』箱の距離を四呎以下に定め夫れ夫れ足代の上に配置した。

第二の動作

舊來の通りとす而れども此動作は舊來の如く緩慢に行はれず特に上肢を一直線に敏活に動かし疲勞を尠からしむること。

第三の動作を廢す

比較的賃金の安價なる煉瓦工の手元人夫（ヒラヒ）を養成訓練し此等の人夫により『モルタル』の『コンシステンシー』を始終加減せしむるの方法を案出した故に煉瓦工は此動作を爲すの必要は全然省かれた。

第四の動作を廢す

此場合に於て『モルタル』箱は四呎の距離に配置され同時に煉瓦は『モルタル』箱の間に近きは一呎遠きは四呎六吋の間に積置さるゝにより事更らに此動作の必要を見認めた。

第五の動作は第二の動作と同時に行はるゝ方法を案出した即ち『モルタル』に接近して鏝にて『モルタル』を掬ひ取ると同時に煉瓦をも摑み取るの方法にして二つの異れる仕事は一回の動作によりて行はるゝものである。

第六の動作を廢す

此場合は第三の場合と同樣煉瓦工の手元人夫を養成訓練し豫め適當品を撰別し煉瓦の方向表裏を適宜に定め配置するの方法を案出した故に煉瓦工は煉瓦の撰別を爲すの必要なく自由に摑み取り積む事が出來た。

第七の動作

舊來の通りとす而れども此動作は『モルタル』を運ぶに其間躊躇又は停息等なく一直線に敏活に行ふべきものとす。

第八の動作は第七の動作と同時に行はるゝ方法を案出した即ち右の手に鏝にて『モルタル』を掬ひ取り同時に左の手にて煉瓦を摑み取るに依て二つの仕事は一回の動作にて行はるゝ事になる。

第九の動作も第七の動作と同時に行はるゝ方法を

案出した即ち『モルタル』と煉瓦を同時に同一の動作にて運び而かも此動作にて『モルタル』を壁面に投布する事が出來得る事を實驗した若し此際更らに他の動作を要するならば之れは『モルタル』箱の位置の不適當に基因する事を發見した。

第十の動作を廢す

此動作は職工を訓練することによりて目的を達することが出來た、即ち未熟職工は壁面に運びたる『モルタル』を鏝にて適當の厚さに敷き均らす必要あれども熟練せる職工は單に『モルタル』を壁面に投布するのみにて完全に煉瓦目地を作り出すことの容易に出來得る許りでなく此『モルタル』は順次に積まるゝ煉瓦の間に押し込められて完全に目地を造り出すことをも見認めた。

第十一の動作を廢す

熟練せる職工は、一個の煉瓦を積むに必要なる「モルタル」を壁面に投敷し得る事困難でない故に目地より食み出したる『モルタル』鏝にて切り取るの動作を省く事が出來得る。

第十二の動作を廢す

此場合に若し『モルタル』を切り取る必要なければ切り取りたる『モルタル』を『モルタル』箱に移投するの動作は不必要となる、若し食み出したる『モルタル』を鏝にて切り取る場合は次ぎの煉瓦を積むに必要なる『モルタル』を掬ひ取るまで鏝の上に保たしむる事により此動作を省く事は出來得る。

第十三の動作

舊來の通りとす

第十四の動作

舊來の動作を二分の一に減ず舊來の方式にありては煉瓦一個毎に食み出したる『モルタル』を鏝にて切り取り『モルタル』箱に移投したれども此場合は必ず二個の煉瓦を積みたる後切り取れば舊來の動作ゞ半減する事が出來得る。

第十五の動作

舊來の通りとす

第十六の動作を廢す

若し『モルタル』は適當なる『コンシステンシイ』にありて適量を鏝にて掬ひ取り壁面に投布すれば煉瓦を叩き目地巾を揃へ又は煉瓦の通りを正確にする爲め特殊の動作を爲すの必要はない尤も此場合に煉瓦は適當に水分を吸收し居ることが必要なることを見認めた。

第十七の動作を廢す

前項に依りて此動作の必要を見認めぬ。

第十八の動作を廢す

此場合に煉瓦を叩く必要あるときは可成重量の大なる鎚を以て一回叩く程度に止め、尙壓押によりて食み出したる『モルタル』は前述の通り切り取り鏝の上に保ち次ぎの煉瓦を積むに必要なる『モルタル』を掬ひ取る際之れを『モルタル』箱に移投すべきものである。即ち此動作は全然省く事は出來得る。即ち以上第一第二表示の比較の如く『ギルベレス』氏は十八回の動作を四回半に減じ、而かも實際に之れを應用し煉瓦積の方式に一大改良を施こしたのである。

（未了）

佛國の住宅政策

政府は一五一九年四月廿四日の法律を以て、借家人に對し、一九一四年八月一日以後家賃の騰貴したる部分に就いては、休戰條約後六ケ月間（戰爭のため破壞せられた家屋については一ケ年）家賃の支拂を中止し得ることを認め、是より生ずる家主の損失に就いては、政府に於て全部之を負擔することゝし、更に同年十月廿四日の法律を以て　小住宅の家賃について制限を設けた。之と同時に、小住宅建築奬勵資金の提供、建築組合の督勵等の政策を採つた。

建築物の内外に於ける日射關係幷に『サナトリウム』建築上の應用に就いて（承前）

醫學士　富永　孟

第九章　室内に於ける日射時間短縮の主なる原因

31. 今迄述べ來れる室内の照射關係は四方廣漠たる平野にして周圍に何等日射を遮る物體の存する事無く、且終日快晴なる場合に限り事實として認め得べきも實際にありては或は雲の日射を遮るあり。或は遠近に起伏せる山岳、附近に於ける地形、森林、樹木、他の建築物等諸般の複雜なる條件の關係するあり、爲に事實上の日射時間並に室内照射の有樣は著しく是等の影響を蒙る事明なり。故に實際上の日射關係を知らんと欲するには是等の影響をも考慮せざるべからず。殊に『サナトリウム』を建設せんとするには該地に於ける是等の條件を仔細に觀察し之に應ずる建築設計を爲さゞるべからず。就中最重要にして且何處にも共通なる日射時間短縮の原因を

一　雲

二　地勢

なりとす。

故に是等の關係に就て考ふべし。

第一節　雲量の多少に因る室内照射時間の短縮

22. 今迄論じ來りし日射時間は或る日或る方向の窓を通じて日光が射入し始め得る時刻より射入

し終る迄の時間を謂へり。即ち終日快晴なる場合の日射時間なり。若し天候の模様をも併せ考ふる時は事實上有り得べき室内照射時間果して如何。

今某地某日に於ける晝間時間をT日照時百分率をPその日於て或る方向の窓に可能なる日射時間(Mögliche Bestrahlungsdauer)をtとすれば

t　は快晴日の日射時間

p　は晴雨を略平均しての日射時、即ち大概實際に有り得る日射時間（Wahrscheinliche Bestrahlungsdauer）

$\frac{t}{T}$　は快晴日の日射時間と晝夜時數との比

假に快晴日の日射百分率と呼ばん

$P\frac{t}{T}$　は晴雨平均の日射時間と晝間時數との百分率の假に晴雨平均しての日射百分率と呼ばん

茲には日照時百分率と日射時百分率とを區別せり。日之出より日沒に至る迄の日照時間と呼び、日光が或窓を通じて射入し得る時間を日射時間と呼ぶが如し。

日照時百分率は同緯度の土地にありても雲量の多寡により頗る大なる相違あり。例へば彦根に於ける二十箇年の平均に據れば、平分前後の月に於て大概45%夏至前後43%冬至前後36%に當る。從て同地附近に在る窓の平均日射時間及び晝間時數に對する百分率等を示せば次の如し。

第十七表　日射時間及日照時百分率

I　平分日 {晝間時間T＝12時 / 日照時百分率P＝45%}

窓	快晴日ノ日射時間 t	晴雨天平均ノ日射時間 tP	快晴日ノ日射時間百分率 $\frac{t}{T}$	晴雨天平均ノ日射時百分率 $P\frac{t}{T}$
	時 分	時 分	(%)	(%)
N	0	0	0	0
NE	3.17	1.28	27	12
E	5.34	2.30	46	24
SE	7.23	3.19	61	27
S	9.26	4.14	79	35

II　夏至 {T＝14時22分 / P＝36%}

N	2.17	.59	16	7
NE	6.4	2.36	42	18
E	7.1	3.1	49	21
SE	7.43	3.19	54	25
S	4.40	2.0	32	14

III 冬至（T＝9時38分 P＝36%）

N	.0	.0	0	0
NE	.3	.11	5	2
E	4.7	1.26	43	15
SE	7.4	2.32	73	26
S	9.38	3.28	100	36

各窓の有する日射時間を比較するには上表の左半に示す如く時數を列記することも可なり。されど其右半に示すが如く日射時百分率に據るも亦明瞭なる觀念を與ふ。即終日快晴なる日にありては日射時間は平分日南窓に於て晝間時數の80%東南窓60%あり。されど曇雨天等を差引く時は結局南窓と雖も35%に過ぎず。冬至の南窓にありては終日日照を受くべき筈なれども（100%）雲の爲に平均以上平日分に於ける際と異ならすして36%に過ぎず。東南窓にありては何れの日に於ても25%内外に過ぎず。

（イ）

33. 一日中に於ける雲量の變化は一般晝間に多く夜間に寡し。而して日出前約二時間の頃より急に其量を增し日出時に於て最多に達し、爾後多少の增減ありて日沒前再び多量に達す。而して日沒後約三時間の頃は雲の減少極めて急なり然れども其最少に達する時刻は場所と季節とに依て變向し、一定の規則無きが如し。

今彦根測候所に於ける二十箇年間の觀測成績を

（1）氣象二十年報（自明治二十九年至大正四年）彦根測候所

調査するに、晝間雲量の變化は稍特異なるか如し。即ち五月より九月に至る迄は早朝に於て一日の最多に達し、それより漸次減少し、午後二時前後は晝間の最少にあり、夕方再び增加するを見る。然るに十月より二月に至る迄は午後二時前後に於て寧ろ晝間の最少に達する事之なり（第十八表）こは余が當地に於ける五箇年間の經驗に據るもこの事實を認む。

第十八表　晝間に於ける平均雲量の變化（彦根）

時 / 日	午前 6	10	午後 2	6	日平均
一　月	7.2	7.2	7.5	6.5	6.8
二　月	7.2	7.1	7.4	7.0	6.9
三　月	6.9	7.0	6.9	6.7	6.7
四　月	6.6	6.5	6.4	6.9	6.3
五　月	6.9	6.5	6.5	6.9	6.4
六　月	7.7	7.3	7.3	7.6	7.2
七　月	7.5	6.9	6.5	7.2	6.7
八　月	6.2	5.8	5.6	6.2	5.7
九　月	7.2	6.9	6.7	6.8	6.7
十　月	5.9	5.7	6.1	5.8	5.7
十一月	5.5	5.4	5.8	5.1	5.3
十二月	6.6	6.5	6.8	5.6	6.2

大日本風土編（明治三十年）中央氣象臺發行第十七表に揭ぐる晴雨天平均の日射時間（tP）はかゝる晝間に於ける雲量の變化を顧慮せざりしものなり。從て精密ならんと欲するには是等の關係も亦無視する事能はず。換言すれば東窓は冬季は前に揭げたる平均日射時間以上となり、南窓は平均以下となり、四月より九月迄の期間にありては之に反すべし。然れども其差たるや平均上著しく大なるもの非ざるを以て計算上にありては晝間に於ける雲量の變化を考へざるも大差なきものと謂ふべし。

第二節　地勢に因る日射時間の短縮

34. 地上に於て日射を遮る物體中最大の影響を與ふるものは山岳なり。

其他森林、隣接せる家屋等あり。是等は假ひ同一高度を有する際にも建物よりの距離、方向及び季節によりて日射を遮る時刻を異にす。

今西方に當り一地點よりの仰角hを有する物體存するものとすれば太陽が其頂點を過ぎる時刻、方位は次式に據りて算出し得。

$$\left.\begin{aligned} \sin h &= \sin\delta\sin\varphi+\cos\delta\cos\varphi\cos t \\ \therefore \cos t &= \frac{\sin h}{\cos\delta\sin\varphi}-\tan\delta\tan\varphi \\ \sin A &= \frac{\cos\delta\sin t}{\cos h} \end{aligned}\right\} \cdots\cdots(30)$$

若しhのみを知りて直ちに方位角Aを見出さんとするには

$$\sin\delta=\sin h\sin\varphi-\cos h\cos\varphi\cos A$$
$$\therefore \cos A=\tan h\tan\varphi-\frac{\sin\delta}{\cos h\cos\varphi} \cdots(31)$$

次表は日射を遮ぎる物體の仰角を0°−45°とし季節を異にせる際、日射が之に遮らるゝ時の方位角並に日射時間短縮の割合を示したるものなり。

仰角 h	春 日ノ隱ルヽ際ノ方位	分 日射時間ノ短縮	夏 日ノ隱ルヽ際ノ方位	秋 日射時間ノ短縮	冬 日ノ隱ルヽ際ノ方位	秋 日射時間ノ短縮
		時 .0		時 .0		時 .0
0°	0°	.0	−29°6′	.0	29°6′	.0
5°	3°30′	.24	−25°14′	.28	33°17′	.28
10°	7°5′	.49	−21°42′	.54	38°5′	.58
15°	10°49′	1.13	−18°23′	1.20	43°40′	1.31
20°	14°46′	1.39	−15°12′	1.45	50°30′	2.6
25°	19°2′	2.4	−12°7′	2.11	59°36′	2.49
30°	23°49′	2.30	− 9°3′	2.31	74°52′	3.52
35°	29°21′	2.57	− 5°57	3.1	—	—
40°	36°1′	3.27	− 2°58′	3.25	—	—
45°	44°26′	3.58	− 1°28′	3.50	—	—

東或西より南への方位を（＋）とし、北への方位を（−）とす。

上表に據れば山の高度 25° 以內の時は高度 5° 毎に平分並に夏至日沒方位より約 4° 宛の日射時間は約 25 分宛の差あり。冬至にありては其差一般に大にして方位角 5°−9° 宛日射時間 30−40分宛短縮するを見る。



獨逸に於ける住宅組合としてのアパートメントとビルディング

一記者

ハンブルクの組合アパートメント

ハンブルグで私が最初に訪問した、住宅區は十三萬の會員を有する、分配組合『プロヅクチオーン』の會員が建て且つ住んでゐるものであつた。大きな組合、共同住宅の幾棟は此大工業都市の到る所に見出される。是等は總て組合員に貸付けて居るもので、組合員は其管理に與るが、併し三百マルクの入會金を出す外、創業資金の供給には餘り關係がない、三室アパートメントの家賃は、一年三百マルクである。是等のアパートメントを建てる金は、組合商店に於ける組合員の日常取引から、蓄積した剩餘金から得られる。この利益は米國では肉屋や麵麭屋や小間物屋へ行つてしまふものである。

七千の會員を有する別の住宅組合の會員で、愛想の善い一人の主婦は、庭内にある彼女の小さな

花園を私に見せる爲めに、其の日當りの良いアパートメントから階下へ私を案内しながら、つましい話をした。此處は空地を一般の娯樂に用ふる代りに、小さく仕切つて家々の菜園にしてあつた。彼女は夏中この菜園にラズベリーを作つて、それを賣つて一年中の家賃を拂ふだけの金を得たといふ。それから上り口正面の花園を見せてくれたが其處には花や灌木が植えてある。組合では花園の栽培を奬勵する爲めに園丁を雇つてあつて、それが栽培法や手入れ方に付いて、會員に助言を與へる、そして花園が最も體裁良く又最も手入の行屆いて居る地方組合に、毎年賞與を提供するそうである。

彼女の話に依ると、一般修繕費、例へば屋根換鉛管工事、塗換等の費用は、家賃から支出するが小さな修繕や裝飾及び床の手入は、借家人の負擔である。又電氣、瓦斯、石炭代は借家人が拂ふのであるが、組合が電氣會社と二十ケ年の有利な契約を結んでゐる爲めに料金の値上を免れ、今も戰前と同じく百キロワット、六十ペンニッヒを拂つて居る。個人家主のアパートメントに居る者は、今百キロワット二百六十ペンニッヒに値上げされたそうである。

彼女の組合は一九二一年に、三百萬マルクの費用で、五十五棟の新アパートメントを建築中であつた。戰爭前は種々の金融機關から、資金を借入れなければならなかつたが、今は非營利の目的で住宅を建てる建築組合には、市で借入の便宜を與へる。この貸付金は無利息で、ハンブルグの市と州との聯合で貸出して居る。總て新築のアパートメントは、法律に依つて庭園を中にして、其の續りに建てられる。一年一萬五千マルクの賃金を受ける勞働者は、一年八百マルク彼等の收入の二十分の一で、四室のアパートメントを借りて居る。

米國では今日普通の勞働者は、其の收入の五分の一以上を家賃に支出して居る。最近紐育市の建築が漸く盛になつて來たが、併し是れは決して共同貸家住民の密集を緩和する問題に對して、解決を與ふるものではない。それは一時高給勞働者の需要を滿たし、又疑も無く建築業者と不動產賣買

業者を富ますであらう。私が紐育に歸つて見て、この建築の活氣は主として、一九二〇年ロックウッド委員會の刺戟に依つて、通過した法律に基因することを見出した。それは一九二二年四月一日前に始めた、總ての住宅及び一九二四年四月までに完成したものは、十年間免稅の特典がある。免稅は一室價額一千弗以下の住宅、又はアパートメントに適用されるのである。私は又紐育市に付いて數字上の研究から、家族住宅の平均建築費は土地を除いて、本年に入つて四千七百弗强に低下したことを見出した。勞働者の平均賃金は勞働統計局に從へば、僅かに二千百五十弗である。してみれば何を以て、住宅飢饉が緩和されて居るといふことが出來やう。全體の事情に伏在する弊害の斯かる不十分なる解決を以て何人が滿足し得るであらうか。

伯林の美しいビルヂング

私が伯林に着いた時直ぐに『イデアール、バウケーツセンシャフト』と名くる建築組合を訪ねて其處の熱心な支配人と會談した。彼は神經質の理想家肌の男である。貧民の絶叫的要求が彼の心に重く横はつて居る。

『伯林には住宅を要求する十萬の家族がある』と彼は言つた。

暴利者の總ての罪惡は伯林に於て、殊に露骨に見せ付けられて居る樣に見える。支配人が私に話した一つの頼もしい事は、政府が個人所有の現在家屋に對して、家賃の增加を四割に制限したに拘らず、組合には支出と租稅の割合に應じて、家賃の引上を許して居ることで、是れは組合の支出は適法で、人民の需要を搾取する目的でないと信ずる故である。新しい組合住宅企業を補助し、財政を援助する中央行政機關があるにも拘らず、組合は其の會員の住宅の需要に應ずることが出來ない今日伯林に於て資金を集めることは、勞働者に取つて頗る困難である。

私が見た新しい家屋及びアパートメントは、併し氣持の良いものであつた、その美しさが將來經濟上の安定を得て、一層大なる資源が發展する時に

倍加されん事を私は望むものである。

伯林の勞働者郊外ビッツには、驚嘆すべき住宅區がある。二百十戸の珍しく變化のある漆喰、瓦屋根の住宅が庭園の列を繞つて集つて居る。花の豊富なること——薔薇、虞美人草、燦然たるホリーホックや、香の高いヘリオトロープが到る所に咲いて居る。よく繁つた葡萄蔓は壁や、屋根を這ひ上り、噴水までも這ひ薔薇や常春藤で蔽はれてゐる。その平和と美とは、實に伯林の中心に於ける街路の騒々しさの對照である。疲れた職工達は工場の勞働から歸つて、少くとも此處に喜悦と解放とを見出すであらう。私が花園を横切つてゐると、女達は窓から顔を出したり、不審さうに戸口に立つてゐた『お這りになりませんか』といふ。『這入つても好いですか、それは誠に有難い』と私は言つた。灌木や花に包まれた其住宅は、それ程氣持好く私を引付けたのである『此處の住宅は戰爭前に建てたのです』と女達は語る『其頃、一九一二年に、此樣な家で三室に臺所、屋根部屋と地下室の洗濯場が附いて、九千マルクで建ちました。そして一年千二百マルクで、私達は組合から借りてゐたのです。今其處に私共の建てゝゐる家は（隣接地に於ける數戸の半建の住宅を指し）建築費だけで十萬マルク以上掛ります。十倍以上でそれで些とも良いことはありません。それに近頃は、建築が捗々しく進まないのです』と彼等は嘆息した『金が中々手に入らないので、戰爭前は銀行は住宅價額の六割、政府が二割貸してくれましたが、今は伯林では皆自分達が出さねばなりません。』

伯林の密集區域の眞中に、一群の組合アパートメントがあつて、其處に三百三十五家族が住んでゐる。これは建築技術に於ても風致に於ても、他に類が無い、外の通りは混亂と騒音とに滿たされてゐるが、而も一歩拱道を通つて庭内に入ると、花や葡萄が兩側から、私の目に出逢つた。そして噴水から流るゝ水の音が私の耳を樂ました。少くとも三百の家族が、彼等の住宅組合を通じて確言してゐる通り、是は全く理想的である。

奇態な金色の日、時計が壁の上に影を投げてゐ

る。面白い中世式バルコニーには、花壇から花を著けた葡萄が這ひ懸つて居る。瓦屋根の規則正しい線を破つて、奇妙な小塔が此處彼處に突立つてゐる。ビルヂングの側面にあるステンドグラスの窓は、内部の廻階段の方位を示して居る。

總てが色彩に富んで、秩序よく又美麗である、そして尚其上に公衆の便益に對する設備がある。庭の兩隅には『一般疾病保險會社』の事務所があつて、其處には各一人の醫師と眼科醫と齒科醫とが居て、組合員の診療に從事して居る。其處には又矯正及び按摩施術所並に藥局がある。子供の幸福と健康の爲めの工夫もある。壁の輝かしいポスターが私の注意を惹いた。それは遊歩場に於て子供の音樂會を開くことを、組合の總ての子供等に報らせるものであつた。大人も無論行ける。『總ての音樂の友を歡迎する』とある。九月の其音樂會まで、私も留つてゐたかつた。イデアール音樂隊(Männerchor Ideal)の練習は毎金曜日の夜、組合會館で行はれたが、私は南方ドレスデンへ急がねばならなかつた。併し私が花園を去る前に、組合員は私に慫ういつた。是等の愛すべきビルヂング——伯林の貧民窟に於ける美のオーシス——は、建築費各二千三百萬マルクを要したもので、會員は三百マルクの出資を必要とし、二乃至四室アパートメントに對して、一年六百乃致千二百マルクの家賃を拂つて居る。建築は組合の委員會に依つて民主的に管理せられ、全く眞正の共同住宅である。

ドレスデンからニユールンベルグまでの實物教訓

ドレスデンには盛大なる住宅組合、クラインウオーヌングス、バウフエライン(小住宅組合)がある。八百八十八人の會員を有し、二百萬マルク以上の價額ある土地を所有して、最近數年間に四百二十八戸の住宅を建てた。伯林と違つて此處には各百家族以上の大共同住宅の多數と、多くの小住宅とが今建築中である。圖の如きアパートメントの費用は二百五十萬マルクで、内二百萬マルクはドレスデン市から無利息で貸付け、五十萬マル

クは組合員が六分の利率で出資したものである。

伯林の銷沈に引換へて、此處の組合は先頭に立つて、其計畫を進めてゐる。私のこの驚きに對して、幹事は恁う言つた『いや、我々にも困難があります。例へば一棟のアパートメントを建てゝ居る內に、ビルヂングの一部の建築費が、四箇月間に豫算の三萬五千マルクから、六萬三千マルクに騰貴しました。併しそれでも我々は伯林の組合よりは安い家賃で、アパートメントを貸すことが出來ます、土地價格の相違の爲めと、市が組合に對しては必要なる、資金の大部分を無利息で貸付ける爲めです。我々の五室住宅は、瓦斯、電氣料を含めて年九百マルクで貸して居るが、是は個人家主から借り得て、同樣のアパートメントより三分の一だけ安い、そして美しさと質と便利とに於て此方が優つて居る』と。

ニユールンベルグの組合田園都市は、誰でもニユールンベルグに一度行つたことのある人は、能く想像し得る通り、その美觀に於て正に非常である。道路は環狀をなし、屋根と破風とは奇想的で壁は華やかな色彩に色取られてゐる。橙黃色の化粧漆喰のビルヂングは碧藍色のそれと相倚り、サルヒヤ色は薔薇色と相對し、總てが葡萄蔓と花とに蔽はれてゐる。一般の建築風と庭園の美しさは全く恍惚たらしむるものがある。庭園の中には、各住宅の後ろに野菜畑や梨、李、葡萄などがあつて、美觀に實用の價値を附加へて居る。住宅と敷地とは一點の汚もなく淸潔で此處の人達は塵芥や廢物などゝいふものを有たない樣に見える。而して住宅の家賃は居住者の賃金の僅かに十五分の一に過ぎない。

其處で愛想好く私を迎へた鐵道の一勞働者は、彼の小さな花園から私の方へ出て來た。そして丁寧に而も意義のある態度で、門に近い灌木叢から美しい淡紅色の薔薇を切つて私に呉れた。私は常に此男を記憶するであらう、彼は一年僅に一萬五千マルクの賃金を得てゐるが、その堂々たる風貌は私の印象に殘つた。斯る勞働階級に通じて毫も怠惰な破壞的の不滿足といふものは見えない。是等の組合住宅の建築者であり、花園の愛好者であ

る人達は、自助と自尊から來る所の力と重さとを持つてゐる。

ニユールンベルグの郊外にある、今一つの住宅地は、一九一九年から一九二〇年の間に建築せられ、全都市の經營に係るもので、三百家族に對する住宅を供給し、總計四千萬マルクの費用を計上した。四室住宅は總て赤瓦屋根の白壁で、各戸を繞る茂つた庭園がある。清潔でもあり新しくもあるが、併し何處となく全體の住宅地が私には、個性とチヤームとを缺いてゐる樣に見えた、住宅の畫一的なることは、此處に住む人々が此住宅の建設に對して、何等の熱心も奉仕もなかつたといふことを感じさせる。其後是に付いてバイエルンの一代議士と話をした時に、其の事實たることが解つた。彼は曰ふ、革命以來不安と不平があつて、地方政廳の安固は多く、危險になつた。人民は『一體政廳は何の爲めになるのか、我々の爲めに何をしてゐるのか』と呟いた。そこで民心緩和策として、この住宅を拵へたのである。それは僅に三百の家族に便利を與へただけであるが、それでも人民に對する相當の效果はあつたそうである。

瑞西は何をしたか

私が獨逸から瑞西へ國境を越えて、旅行した時に共同組合が瑞西政府から、是程重く見られてゐやうとは殆んど考へなかつた。大統領シュルテス氏は、國際組合同盟の會議に出席し、演說する爲めに、又バスルに近いフライドルフの瑞西組合村の開始式に演說する爲めに、一日一晩彼の職務を拍擲しなければならなかつた程であつた。それでも彼は實際非當なる熱心を以て之に臨んだのである。

このフライドルフの村が、如何にして出來たかといふ物語は、瑞西組合聯合會のウルリッヒ、マイヤー氏が私に話した『我々は戰爭中の大きな取引から、蓄積した組合の剩餘貯蓄を、全部過剩利得稅法に依つて、政府に納めなければならないことになりました。其れをしたくないので、組合長エッギー氏の發案で、一つの大計畫が出來上つたのです。氏の考では、この資金を國庫の底の無い

深淵に投込む代りに、住宅資金に用ひたらよからう。政府は有らゆる住宅難を緩和する樣に、各方面から嘆願されて居るから、必要な人民の要求に處する資金の利用を、許可しない譯には行くまいといふのです。それでエッギー氏は委員會や議會に極力運動した、其の結果終に聯邦當局者は、一つの法律を通過して、勞働者住宅を供給する目的の營造物に出資するものは、戰時利得稅の目的としないことになりました。其れからしてフライドルフが生れて、七百五十萬法は國庫へ納める代りに住宅建築の仕事に向けられたのです、一九一九年十一月一日に、我々は二十エーカーの他所に百五十戸の住宅建築に着手しました。我々は果樹、しなのき、桃、胡樹などを路傍に植えて、先づ、第一に各住宅の前後に、花園を作る設計をしました。』

私はマイヤー氏と共にフライドルフ村の、青葉に沿うて歩いた。彼の家に著くと、住宅が如何に良く出來てゐるかを、實地に見てくれといふので自分の家に案内した。それは恰度フライドルフ開始式の日の午後にあつた。群衆は總ての近村から出て來た、又パスルの會議から知名の委員連も見えた。旗は翻り、花環や花綵は住宅の壁に張渡されてゐる。少女は來客に花束を配つた。殊に面白そうなのは餘興場である。二階の窓か　私は祝典を眺め、音樂を聽き、又芝生の上の舞踏や體育會の輕業を見物した。菓子は自由である話が自由、踏りが自由、サンドウイッチも酒も自由で、觀樂の氣分が盛であつた。

マイヤー氏が彼の住宅内をすつかり見せた時、彼は電氣、石炭兩方の煮沸器具を備附けた臺所や面白いタイル貼のストーブと竈のある食堂を示して『私が遲くまで、會議に居殘つた時は、家内が此處で食物を温くして置きます』と云つた。食堂から二重の硝子戸を通れば、輸快な花園へ出る、總ての室には電燈が取附けてある。床は足の冷えるのを防ぐ爲めに、室のホロータイルの天井の上に木の床を張つて、其上にフエルトを敷き、又其上にリノリウムと三段の材料で最も念入りに拵へてある。各室を見廻つて、私は是が眞の住宅であ

ると感じた。マイヤー氏の言ふ所に依れば、會員は少なくとも、一口百法を出資しなければならない。彼等は永借權を得るので死んだ時は、相續人が繼承することが出來る。家賃は瑞西の他の場所に比べても安い、四室乃至六室住宅が一年八百五十法乃至千六百法、以前の爲替相場で百七十弗から、三百二十弗である。米國人には此家賃は喫驚すべきものである。

端西大統領は彼の演說中に、此共同村に於ける活動の源泉である所の、相互扶助の理想を高調した。彼は各會員は自治團體の、献身的一員となり公共の利益の要求する所を寄與すること——即ち其の隣人と一親切に助け合ふこと、團體全體の幸福繁榮の爲めになる、義務の遂行に誠實なること——を誓約する所の會員條件に說及ほした。會員の義務は家族の總ての用品を、組合の店から買ふこと、色々の委員會に働くことも含まれてゐる。私が組合員と話をして見ると、彼等は彼等の特殊技能を團體の爲めに、役立てることを名譽と義務と感じて居るらしく見えた。彼等の誓約に云ふ『我等フライドルフの住民は、新しい經濟狀態に眞の社會的方面を與へんとするものである』と。

大統領に依つて置かれた礎石は、村の青葉に面する、新築中央ビルヂングのそれであつた。土臺は大きなポスターを支へて居る。曰く『此處には娛樂、球戲、舞踏、音樂及び活動寫眞用の社會館が建てられる、尙ほ附屬として圖書館ペスタロッヂ式小學校、組合料理店並に各種の商店が出來る』と。個人利得の爲にする代りに、相互の爲めに働くロックデール組合主義の精神と、其具體的表現は確かにフライドルフの、この小自治體に於けるより完全に實行されてゐる處はあるまい。

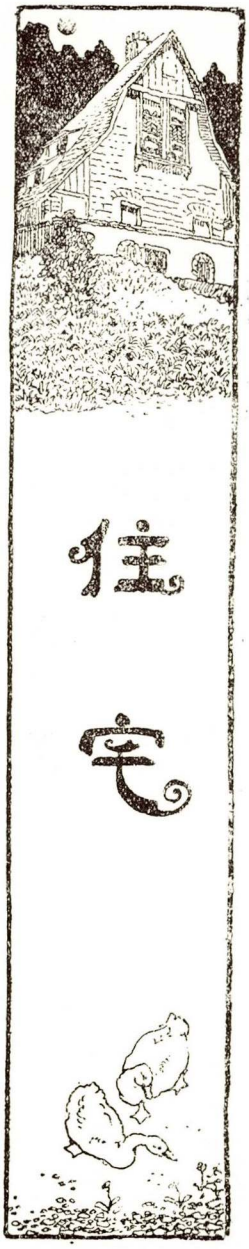
吾人は合衆國に於て、之と同樣に行ふことは出來ないのか——當局者の懈怠を罵る代りに、法律上からの改良を要求する代りに、又ゆすりや徒黨の罪を罰する代りに、私は信ずる吾人は歐洲同胞の例を學ぶことが出來る、適當なる住宅供給の問題は、唯人民自身が彼等の力、彼等の義務を實感し、而して彼等め資源と彼等の才能とを、彼等自身の住宅建築組合に結合する時にのみ、解決せら

れ得ることを、然る後彼等自身の需用を自ら供給し、賄賂や、暴利や、掠奪的地主や、無能なる政府から免れ得るのである。

組合の方法は七十五年の實地經驗に依つて、作り上げられ又標準を定められたものである。定められた方法に從へば、吃度成功した。我か米國に於ても永久に救ふ可らざる、運命に束縛されてゐる必要はない。吾人は歐洲の人民と同じく、唯それを知りさへすれば、吾人の内に共同する力を持つてゐるのである。

地價と高層建築

都會の地價を高からしむる主な原因の一つとして普通擧げられてゐるのは、都會に於ける高層建築である、この說を主張する人の言に依れば、一般に平屋建若くは二階建の行はるゝ田舍の町では、地價が極めて安いのに反して、三階四階の家屋を普通とする都會では地價が高い。伯林を倫敦や「ブラッセル」に較べて見ると、後の二者が人口の稠密なること伯林を凌いでゐるにも拘はらず、その二市の郊外に於ける地價は、伯林の郊外の地價の殆んど十分の一にも値しない。是は何んのためであるかといふに、倫敦や「ブラッセル」の郊外では二階乃至二階半建の獨立家屋を普通とするのに、伯林の郊外では無暗と兵營式の高層建築を建て、之に因つて人爲的に地價を高めるからである。

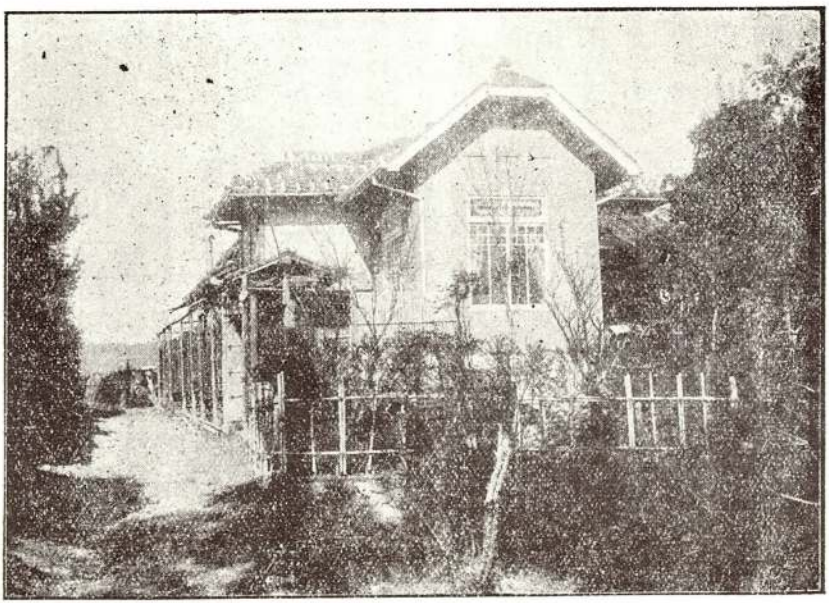


M氏の新邸

それがし

最も好ましい傾向だ

日本建築協會主催の住宅博に出た實物住宅の、最も洗練されし理想的なものであることは格別として、近來中産階級の人達の中に、生活樣式を革新せむとする一種の衝動を與へられて、自己の理想を、住宅建築に造らむとする作物、即ち住宅建築が所在に現はれるようになつたのは、確に、時代傾向としての好ましい現象である。斯ういふものが殷に隨所實現することは、それ等から歸納される或ものが、軈て、日本に於ける住宅建築の權威的な一大歸向を創造することゝなるであらう。記者は、曾て本誌に、それ等創作的な新住宅の二三を紹介したのだが、今亦、M氏の新邸を目附けたことは、——即ち、氏の理想的作物を得たことは、なにほどか會心に禁へない。わたくしは、以下、それの概要を紹介することゝしよう。



M氏邸外景

住宅建築に就いての理想

M氏の新邸は、北攝の某地點、奈何にも古閑な氣分に富める一小村落の南端に位置して、西に一大展開を成せる平野を斜に懐き風物の勝景最も佳き環境に在る

氏は語つて曰ふ、『私が此處を選びましたのは、居を黄塵の市に卜するとの、とても耐へ得ないので、怎うかして家族に、今少しく自然そのものに親しませたい、といふのが先づ第一の考へであつたのでムいます。今一とつは、家族の人數と地積とに相當取り詰めた標準がありますので、地所選定に多少困難を覺へたのでムいます。家族は私共夫妻と子供二人に、女中一人、斯の五人標準でムいますから、是から割出して、地面も先づ六七十坪位、といふ標準で、主もに阪神、それから南海、阪堺、大軌といふ風に、その沿道を探したのですが、適當な處を却々見附からなかつたので……』と、現在の場所を獲られたまでの、住宅建築に自家の理想を遺る困難を語られた。そして氏は、理想の第二に就いて曰く『地面は彼樣にして

やッと出來ましたが、次には、建築費そのものゝ關係でムいます。私は、自分の職業柄でもあり、從來諸所の建築設計を遣つたり、又實際に手掛けて來ましたが、それ等には、皆な豫算に充分な餘裕があるのに反して、私のは、極端に是以上節約し得ない、といふ程度で、而も屋根と疊と物置があるといふ極端なものでなくして、斯の切り詰めた經費から、謂はゞ文化的な生活をなし得る住宅——快適なる生活をなし得る住宅——それを獲ようといふのですから、先づ第二の多少な困難を覺へざるを得なかつたのでムいます』

氏は、更らに今一つの理想を語つた、曰く『次は氣候との關係でムいます。それは夏冬を通して十分に住み心地の佳いように、といふことに幾らか注意致しました。夏には幾らか凉いように、冬はすッと暖いように。』

斯う書き來つた三ツ即ち閑寂な場所と切り詰めた經費で理想のものを獲ること、今一つは氣温の調和、是がM氏の新邸を築く一種の Foundation になつたのである。



M氏邸ベランダ

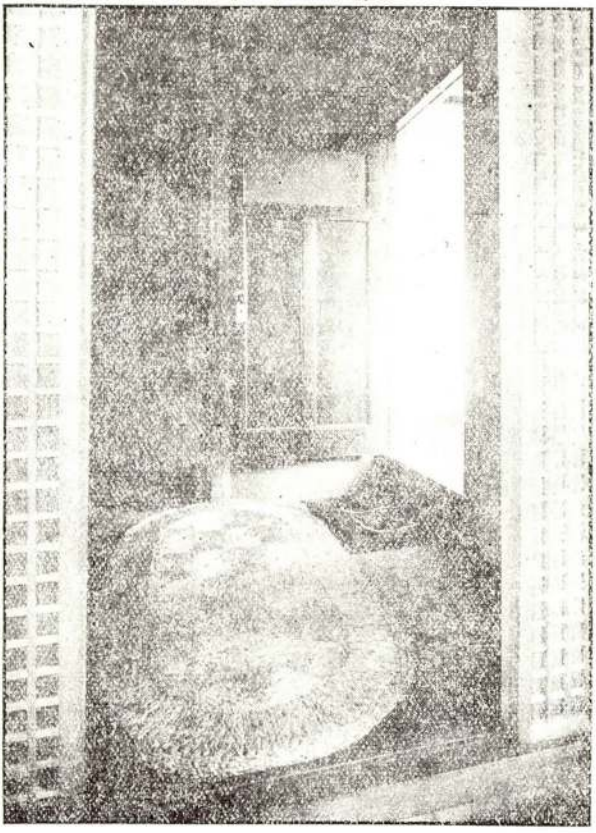
理想の實現するまで

斯くして出來上つたものは、建坪二十四坪五合、隨分と引き締められてゐるが、實際に必要な室は孰も可成りな廣袤を有つて巧にこなされてゐる處が、流石にと思はれる。

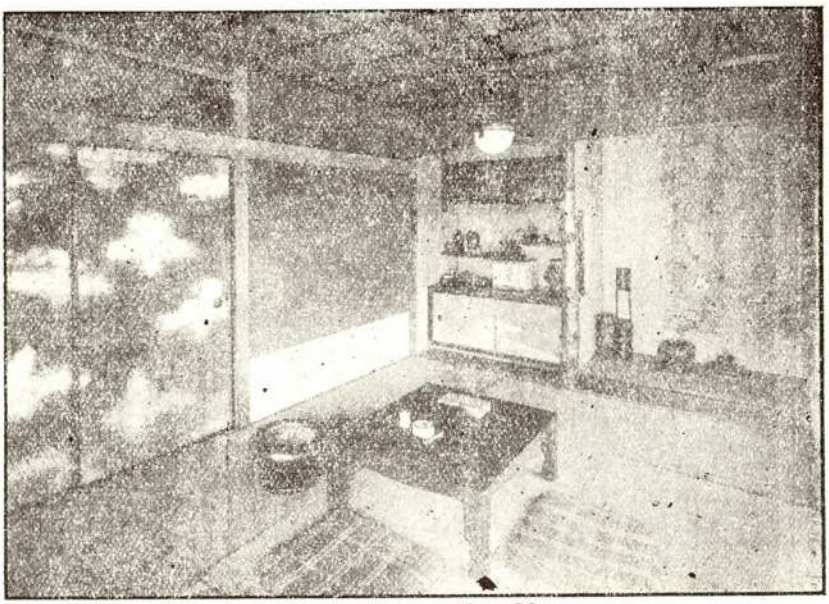
氏は重ねて云ふ『實は、何處迄も私の思ふ通りに遣つてみようといふ覺悟だツたのでムいますが、其處に、家族の希望としても、斯ういふ郊外で少し暢んびりとした生活を爲すには、怎うしても在來の日本式に立脚して、それに幾らかの改善を加へる——斯ういふ要求もあつた爲、多少私の理想に制限を受けた形ちと成つて、先づ日本住宅を標準とし、それに洋館を附け加へた、といふ風になつたのでムいます。』

如何にも、斯ういふように見受けられるが、各部屋の獨立して居り、餘程便宜に出來てゐるように思はれるが、何しろ斯ういふ關係上、住む者の氣分の轉換といふ事にはよいと思ふ。

M氏邸ベルコニイド床帝間



殊に、切り詰めた經費で成るべく理想のものを獲ようとする關係上、經濟的な面白い一つの試みは、材料を耐力本位に取つて、謂はゞ、極端に廉價



M氏邸日本風居間

なものを使用された事である。勿論、それは餘り外觀に觸れない處へ主もに用ひられたのであるが經費の大なる節約を爲し得られたようである。

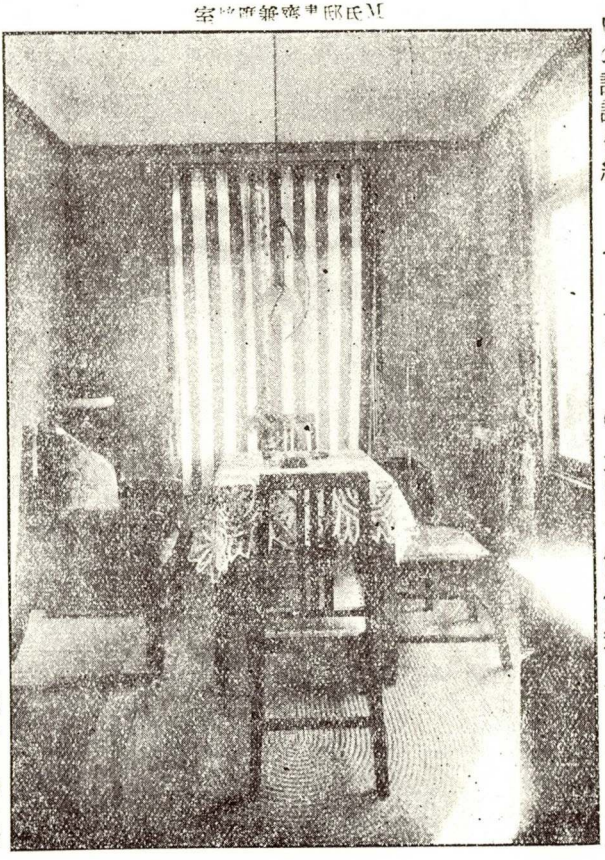
今一つは、大工の手間賃等即ち工事費を緊縮する方法として、從來の大概な遣り方である續手仕口を避けて、只、鋸と玄能の應用だけに俟つ處の例の金物締めにした事である。氏は語る『斯ういふ風ですから、普通用一坪に對して、十人以上を要する手間が、僅に六人五分といふような節約が出來ました。けれども、一般素人の方には普通のものと見分けが附かぬようでムいます。それに自分としては、其後何等か狂ひが來ないかと、一種の興味を以て注意して居りますが、今の所、斯ういふ樣には見受ませぬ。耐久力は在來の遣方以上にある積りでムいます。』

更らに一つの特異點は、便所や風呂場の換氣裝置に注意を拂はれた事である。在來の建築では得て、風呂場や便所のそれを、如何ほどか閑却された傾きがある。斯の點に注意して、窓を二段に取つてある事は、何んでもないようで、實は餘程創

意的なものである、と記者は思ふた。

記者は、尚ほ多くの事を書き度い、けれども、今はその餘裕がない、此處に、以下氏の談話を紹介して、責めを塞ぐことにしよう——話は地形と斯の建物との關係に戻る。

『大體、敷地が撥形に成つてゐるため、それに協ふように、敷地を巧みに活し度い、といふ考からPlan に於ては幾等か頭を使ひました。仍で成るたけ『自然』に親みたい、といふものゝ、敷地が狹いため實は二階建にしたいのですが、幾らか寛ぐため平屋に試みたのでムいます。邸の周圍は丘に成つて居りまして、小さい瀧も掛つてありますから、家族の居間からも、居間兼客間として居る室からも、それが見へるように、その瀧を取り入れ得るように試みたのでムいます。』



『次に、物置を洋館の Basement に設けたのですが、是は無論、借家建抔にはない事で、洋館はベースメントの上だけで使用が利き下を少々注意して、六尺位の高さにして置かば、完全な物置が出來ますから、斯うしたのでムいます。而も其處へは、日本屋と洋館の孰れからでも往けるように

致しました。約り場所の經濟旁々洋舘だけ日本舘に接續させまして、幾らか調和を得るために丈けを高くする關係からも、下を高くして納屋に拵へ上を自分の書齋兼客間としたのでムいます。』

『斯うして出來てみたものゝ、後から種々な短所も見附かります上、新に希望も出て來る、といふ風でムいますが、家族も幾らか理解して呉たようでムいますから、何れ最近に、自分の理想に立脚した小さい家を試みようと思ふて居ります。』

記者は、書き度い事を、まだ大分有つてゐる、けれども、氏の談話は、確にその新邸の、少くとも大樣を語つて剩りあると思ふ。記者は、斯ういふ新しい試みの今一つ實現したことが、なんぼうか嬉しいのである。竭さゞる事と、誤れる點は記者の篤く謝する處である。

智識なき
熱心は暗
中に遠征
するが如
し。



古代希臘の城邑計畫

ブリストン大學　Z　Y　生

ヘロダスのバビロン市

古代希臘の都邑計畫は先づ紀元前四五世紀頃に起つたものと思はれる。而して希臘は此れを何處に求めたか、換言すれば、この城邑計畫の起源を成すものは何處であるか。

都邑の如き形をとつた最も古い定民地は、今日知られて居る限りでは埃及のカフンであつて、凡そ紀元前二千五百年頃の存在と思はれる。こゝを發掘して探究したる結果によると、此附近にあるイルラハンのピラミツドを建てるために働いた勞働者や、その監督等の住宅であつたらしく思はる。平行せる長方形の丸太で密着して居り、四室を備ふる小屋やゝ少しく、それよりも大きい長方形の家々が多く發見された。併しその群屋の位置は狹く、廿エーカー位に過ぎぬ。しかも都邑計畫に必要な組織も均齊もなく、都邑といふに足りぬものである。

併し西部亞細亞であるバビロンや、アッシリヤに行けば、都邑計畫の痕跡をうかゞひ得る。それは凡そ紀元前八世紀頃又はそれに續いた世紀のものである。此等の都市に關する我等の智識は僅少ではあるが、その廢趾よりせる考古學上の考察と古代希臘の文書、就中ヘロドタスによつて、推測し得られる。

ヘロドタスがバビロンに就いて記してゐる箇所は有名なもので、單に今日に爾かあるのみでなく彼の時代にも同樣であつたと思はれるのは、當時アゼンスの劇場で、喜劇役者がこれをもぢりかへて演出してゐる事でも判る。ヘロドタス自らは一は彼が紀元前四五〇年頃にした漂泊の旅の際に於けるバビロンへの訪問と他人からの傳聞によつて記述したものと思はれる。彼の記す處に據ると其頃のバビロンは大体左の如く思はれる。

その城邑は打開いた平原に位置を占め——四方各々十二スタデス(即ち十四哩位)宛を射出し、全周圍哩數五十五哩に達し、正確な四方形を成してゐた。而の周圍は、高さ三百四十呎、厚さ殆ど九十呎の、厚い無數の煉瓦壁と、水の一杯滿ちた廣い深い壕が取卷いてゐた。そして都中に入る百の門がある。思ふに各甘五哩つゝ均齊的に此門は配列せられてゐたらしく見える。ユーフラティス河が市の隅から隅に市中を斜に切つてゐる。二つのあらく平均した三角形に二分してゐる。河の堤防は、外壁位の厚さの煉瓦防壁より守られて、市の隅から隅まで、河に沿ふて走つてゐる。陸に向いた方には又內壁がある。市街が又著しいものであつた。

『その都市は三四階の家々に滿ち、その家々が際立つて直角に走る、即ち河に導く處の眞直ぐなる街に沿ふて立つてゐる。各道は煉瓦の河壁にある小門に走つてゐる。小道があれば、必ず門がある程門は多い』(ヘロドタス一〇章百八十節)

ユーフラティス河を中心にした市の兩部分には特別に大きい建物がある。卽ち一方には王宮、他方にはゼウス・ベロスの神殿がある。その神殿は長さ幅とも各四百ヤードを占め、その輪廓に於て正方形であり、銅の門を有してゐる。

ヘロドタスの記述する處は簡單であつて、且つ正確であるとも思へぬ。市の廣袤殆ど二百平方哩壁の長さ五十哩、その厚さ三十ヤード、高さ百廿ヤードと言へども、今から十年前の倫敦市はその廣袤百卅平方哩、聖ペテロ教會の頂點が百卅ヤードに過ぎぬ。又支那の南京はバビロンよりも、大なる帝國の都であつたが、その市壁の長さは廿四哩、厚さ卅フート、高さ七十フートを超さない。して見ると彼の記述も疑はしく思へる。併しその中に都邑計畫に對する暗示を示してゐる。或街路は眞直に走り或街路は直角に走つてゐると、ある點である。

廢趾より見たるバビロン

然らば現在發掘されてゐるバビロンの廢趾から觀察すれば如何であるか、これを見るにユーフラティスの兩岸に廣大な區域が擴がつてゐて、そこは、多い建物の廢趾の塚が、不規則におほふてゐる。その中注意す可き二つの遺趾がある。一は南の端にある、ビルス・ニムルウド（Birs Nimrud）と、それに隣した、諸々の塚（古昔はボルシッパ（Borsippa）であつたらうと思はれる）とがある。こゝに、ネブロ神の巨大なる神殿が立つてゐる。市の北の端近く、即ち右のボルシッパから、十哩又は十一哩、北に寄り、大なる廢趾の荒跡がある。その長さ三哩に達してゐる。こゝに市の壁や王宮バビロン諸神の諸神殿街路、普通人の住宅等を認むることが出來る。又こゝに未發掘の住人地域の跡を認むることが出來る。或學者は右の全體の範圍が古代のバビロンを現はせるもの、ヘロドタスの記述に相當する範圍であると言つてゐるが、併し、右の考へから離れて、問題となる範圍を見るに、それは正方形よりも、寧ろ三角形を成してゐる又それを取卷いてゐたらしく思へる市壁や壕跡がない。尤も市壁の跡は此附近の或塲に、其跡を止め、殘存してはゐるが、要するに如何に考へてもバビロンが此廣袤を有つてゐたとは思へぬ。

之に反してバビル（Babil）カスル（Kasr）と其附近の特殊の塚はこれが眞のバビロンの跡であらうと思はれる。ユーフラティス河の左岸には、曾

て、五六哩の長さを有てる廣い市壁があつた。此市壁を考に入るれば、ヘロドタスが記述してゐる樣に、河によつて斜に兩分さるゝ四方形の半ばのものであらう、ざツと考へればさうも思はれる。此左の市壁に對應する小市壁が河岸の右側にあつたと思はるゝ十分の理由がある。此兩壁の中にバビロンのナボポラッサルや、ネブカドネエザル（紀元六二五——五六一）の如き、諸王の宮殿があつた。國民的の神マルドク、メロダフ又はその他の神々の神殿も此中にあつた。北から南、即ち王宮から神殿に走る廣い眞直な道路アイブルシャブウ Aiburschabu もあつた。メルケスに於ける多くの私邸も、恐らく初代の內壁もあつたと思はれる街路や門はネブカドネエザルによつて建增をせられた。樣々の碑銘によつて知らるゝ如く、彼は偉大なる主マルドク神の行列の爲に、石灰石の舖床をもてる堤道をつくつた。又た煌めく煉瓦石で、イスタル門を造り、門の入口には巨大な銅の牛と、恐ろしい龍とが、おかれてゐた。王は自國の國神であるマルドクに新年になると年々禮拜す可く詣でるが、その時には斯うして建てられた街路に沿ふて通る嚴肅な祭の行進の中に、マルドクの像が、姿を見せる。かうした光景が、今日に知られてゐる、古代バビロン市の輪廓である。こゝに注意す可きは聖行列國道（Sacred Processional Avenue）の觀念が現はれてゐる點で、これ都邑計畫の芽生である。この觀念は紀元前第五世紀の希臘に現はれた。希臘人はバビロンに旅行し、そこからかゝる觀念を學むだのであらう。

希臘の都邑計畫は、その國の偉大なる時代である紀元前五世紀に始まつた。それも、始めはかういふ運動に同情は尠く、極めて未熟なものであつた。第五世紀の中葉となつて、行列大道を造るといふ考へが起り始めた。併し、街路を直角に交叉せしむることに基く都邑計畫の眞の組織は、更に後期になつてから實行せられたのである。第四世紀の始めになれば、既に都會生活に對する諸々の注意配慮が法律によつてせられ、これを實行する特別なる長官もあつた。今日の我々には希臘そのものゝ如く思はるアゼンスとその歷史に、被入冠

の汚辱のないスパルタ、斯の希臘の二代表者は、その運動には觸れてゐない。テミストクレスやペリクレスの時代でも、アゼンスは實に立派な公の建物とみすぼらしい私宅とが入り混つてゐた。街路は狹く扭れ、舖床なく燈火なく泥濘だらけで、下水には汚物が滿ちてゐた。スパルタはアゼンスよりも一層惡く、感心する樣な建物は、公の建物にも私の建物にも見ることが出來ぬ。

併し都邑計畫の技術は、恐らくアゼンスに始まつたと思れる。此計畫の第一歩を踏み出した建築家は、古代の記者等の文書に據れば、ミレトスのヒツポダアス(Hippodamus of Miletos)であつた彼は紀元前四八〇年に生れペリクレスの庇護の下にアゼンスの諸都市と關係した。彼の理論を正確に知る道はないが、アリストートルの記す處に據ると、彼は始めて廣い平直な街路の原理を輸入し住宅を適當に集合し、而して市場を中心にして市の各部分を結び合せ、調和的統一の計畫を立てた彼は建築家中第一流の人物であつた。

ピラウエス (Piraeus)

アリストートルの語る處に據ればヒツポダマスはピラエウス即ちアゼンスの海港を計畫した。この市街に廣い眞直な街路をおいた。それ等の街路相互な正確な關係は加へてゐないが、併し諸街は並行して走り、即ち相互に直角をなしてゐる。長いより重要な諸街路が海岸に向つて並行して走つてゐるに對し、より頭から街路が埠頭に向つて走つて街路を三角形にしてゐる。

スリイス (Filiurii)

南伊太利のスリィイに紀元前四百三年アゼンス人その他の者等によつて設けられた植民地も又ヒツポダアマスが考案したものとせられてゐる。此れはヘロドタスに據れば最も最初の植民地の一であるといふことである。その位置は未だ發掘されない。併し發掘されてもその街路計畫が紀元前四四三年のものであるか。又はその後の時代ロマ人によつて再植民をせられロマ組織になつた頃のも

のであるか容易にわからぬ。併し歴史家デオドラスは、紀元前第一世紀の始め此處の事に關して書いてゐる。確に彼の記述は古い時代の材料によつたものである。彼に據れば此都邑は縱に四條の街路が走り、橫に三條の街路がそれを橫切つてゐる故に、明かにちやんとした直角の都邑計畫を有してゐたことがわかる、尤も此七箇の主道を、どれ程の小なる街路が均齊的にしてゐたかはわからぬが。

ロホーデス (Rhodes)

斯の市も又ヒツポダマスが考案したものとして傳はつてゐる。或古代の記者の文書に據れば、斯の市は恰もオーケストラを圍く座席が取り圍んでゐる。古代希臘の劇場の樣に、市街は港を圍く取圍んで建てられてゐたとある。併し是は疑はしい斯の市は多分ヒツポリデスの誕生の年と思はる年より計算して七十年後に當る。斯る老境に入つて尙ほかゝる考案をなしたかといふ事を、疑ふことも出來るし、又ありさうなことでもあるが、併し何れとも判然しない。元來彼の生れた年が確實でないから、彼の此市に施いた計畫案の、如何なるものであるかは明かでないが、兎も角右の二都邑で見れば、彼の生前、確に第四世紀の中葉前彼の考案或は他の者の考案が何れ程迄一般に採用せられてゐたかゞこれによつてわかる。

尙ほヒツポリデスの時代に屬するもので、シシリイ島のセリナスとアフリカ北岸のクレネの計畫はこゝに記述する價値がある。

セリナス (Selinus)

所謂アクロポリスに於て十幾年前に伊太利の考古學者が發掘した處からセリナスの都邑は明になつたが、不規則な無造作な梨子形の都邑であつた。二條の大通が端から端に走つてゐて直角をなしてゐる。此二つの大通の長い方は、長さ一哩、の四分の一幅卅呎である。此二つの大通から他の狹い道（十二呎から十八呎）直角を成して分岐してゐる。その結果は碁盤形ではないが短形的都邑計畫を示してゐる。斯の市は紀元前六四

八年に建てられ、同四〇九年に破壊せられた。そしてその後更に再建せられ、紀元前二四九年遂に破壊せられ終つた。夫れ故に此都邑計畫は紀元前七世紀頃かとも思はれる。或は又紀元前四〇九年セリナンチヲが繁榮し、東端の岡の上にゼウスやアポロの大神殿が建つた頃かとも思はれる。併し正確なことは知り難いが、兎も角もこゝに明白なる都邑計畫の跡が現はれてゐる。

クレネ (Cyrene)

クレヲは一八六〇年二人の英國の考古學者によつて發掘せられた。此都邑もセリナスの如く二條の大通が直角を成して交叉してゐる。併し他の多くの小街路は此二條の大通に對し正確に直角を保つて交叉してをらぬ。故に直角の組織はセリナスよりも一層不完全ではある。他の點に於ては凡てセリナスと類似してゐる。

何時頃此大通が設けられたのか明かではないが、紀元前七世紀の頃かと思はれる。

クレヲに就いてはこゝに略するが、要するに右の諸種の例から推測し得る如く、嚴密には碁盤形には似てゐないが、短形的要素を含む都邑形畫が行はれてゐた。右の何れの市街にも見られる長い廣い、眞直な立派な街路は、都の重なる動脈としてよりも、寧ろ大建築物の地先とし、て又祭禮の行列のために設けられてゐたのではあるが、併し兎に角、その頃の當面の必要に應じ、又その頃の建築家が、建築に對する愛好を示すに足るものである。而して街路には立派な建物と、又曲つたみすぼらしい建物とが混合してゐることは、亞細亞や南歐洲に於て今日見るのと、同樣の狀態を示してゐる。

恐らく紀元前三百七八十年頃と思はれるが、希臘の諸都市はその市場や市街の一般の清潔や秩序を保つ可き法律を通過し、市場を支配する役人であるアゴラノミ、市街を支配する役人であるアステノミを設けた。プラトーがその死する少し前即ち三四七年に書いた『法律』には、此等の役人の職務に少しく言及してゐる。私の建物が法律の規定の下に建てらるゝこと、街路や水道や市の內外の清潔と治安を監督し保持した。又公の街路はバルユニーが傾いたり、ヴエランダを設くる如きことを禁じた。

（右はエフ・バーヴーフイルドの「古代の都邑計畫」の三四四に亘る紹介第一である）



東京建築だより

建築群の美觀——其の三條件——高さ——樣式——色彩——東京會館——日本石油の新築

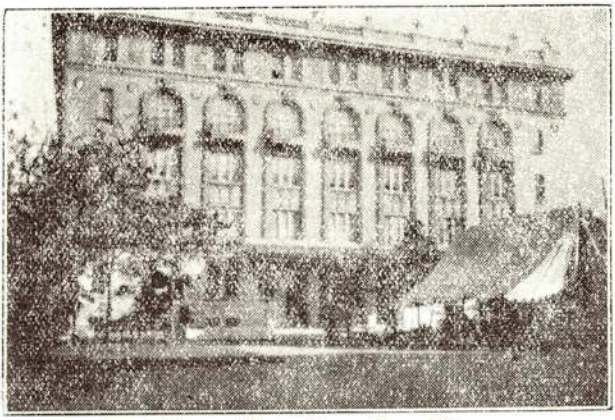
文學士　黑田鵬心

□近頃五階六階の高層建築が增加するに從つて、强く感せられるのは、それと建築群との美觀の關係である。都市の建築が都市の美觀に役立つには獨立せる建築としてと、建築群としてとの二樣あるが、建築群としての美觀の方が分量に於いては非常に多い。

□都市に於いて全然獨立して觀られる建築は比較的少い。東京の實例によつて見ても、ニコライ會堂、帝室博物館　參謀本部、赤坂離宮等少數あるに過ぎない。多くは建築群として觀らるべきもので、其の間に多少獨立的に觀られるものがある位である。

□建築群に於いては、第一に高さに於いて、第二に樣式に於いて、第三に色彩に於いて、一致するか、調和するか、少くとも統一する事が美觀をなす條件である。

口第一に高さであるが、一群の建築は必しも同一の高さである事を要しないけれども、二三突飛に低い場合、又は高い場合には美觀を呈しない。例へば京橋附近に於いて星製藥一軒丈け七階建で、其の東通りの建築が總べて二階か三階では誠に不調和である。反對に周圍が五階六階の並んぞ處へ一軒二階か三階が挾まつても齒が缺げた樣で美しくない。



(その一)

同じ高さの建築が並んでゐる場合は、それが低くて、一つ〳〵は平凡な建築でも、建築群として

の美を發揮する事が出來る。例へは昔の日本橋通りの樣に、二階の土藏造が並んでゐても美しい、濠割に添うた二階の土藏倉の並んだのなどは今もその美しさを保つてゐる。橫濱の舊居留地あたりにも二階の煉瓦造が並んで、一種の美しさを見せてゐる通りがある。馬場先門外の三菱の貸事務所建築の初期のものも、三階か二階の煉瓦造が並んで美觀を呈してゐる。

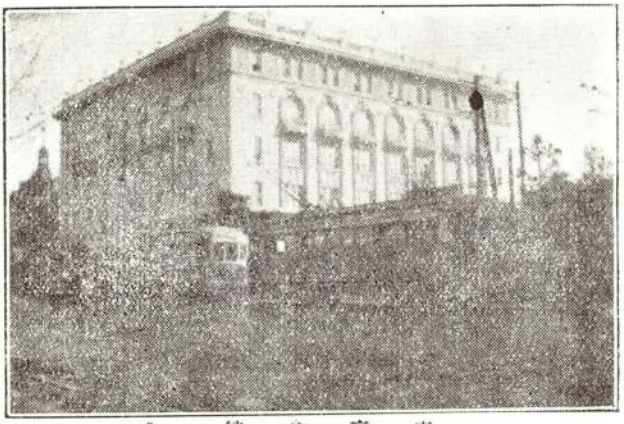
口大體は高さの一致したのが美しいが、角は一二階高い方が變化もあり、落付もあつて一層美しい一區劃の建築が三階か四階の場合に、四方の角は五階か六階だと其の一區劃の建築群が、落付よく調和も保つて美しい。

口此の點から東京驛前の日本郵船と丸之內ビルディングや、工業俱樂部と其の附近の建築などもほゞ高さが同じで、建築群として美しい。有樂町方面の三菱貸事務所建築も大抵四階か五階で大した不調和を見ない。

口第二に樣式に於いても大體の一致、調和が必要である。近頃の四角な建築の中へ、ゴシック式や

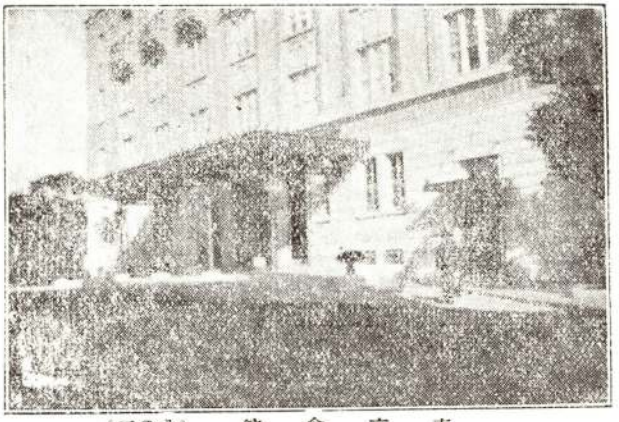
ルチサンス式が交つたのではよくない。これは近頃は大抵同じ樣にやつてゐるから大した不調和のものはない樣である。

口第三に色彩も亦大體一致させて貰ひたいが、大抵は白色に一致して居る。唯クリーム色を用ひる事になると、色の濃淡で調和を破る事がある。工業倶樂部の色は、一つ離して見ても濃すぎる樣である。丸之内ビルデイングの色は薄いが、白色のものが多いのでやゝ調和を破つてゐる。



東京會館（その二）

口之れ等の三條件が大抵うまく行つて居れば、建築群としての美は保つてゆく事が出來る。以上主に一區劃、又はある街路に添ふ建築群について述べたのであるが、東京向き合つてゐる建築とも調和する事が必要である。



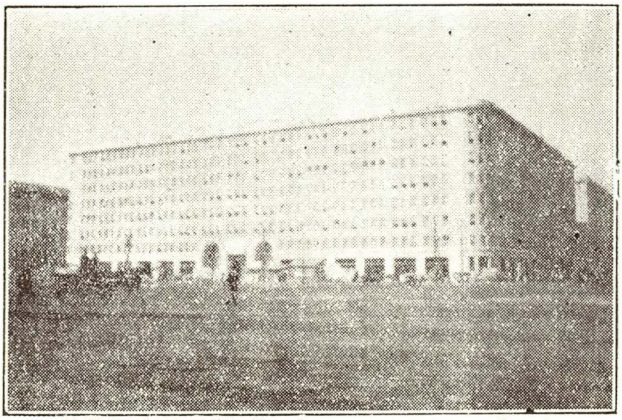
會館（その三）

口例へば東京海上保險と郵船會社とは調和する必要があるが、これは幸ひに設計者も同一でありうまく行つてゐる。馬場先門外は、東京商業會議所と明治生命とであるが、高さに就いても色に於いても調和して居ない

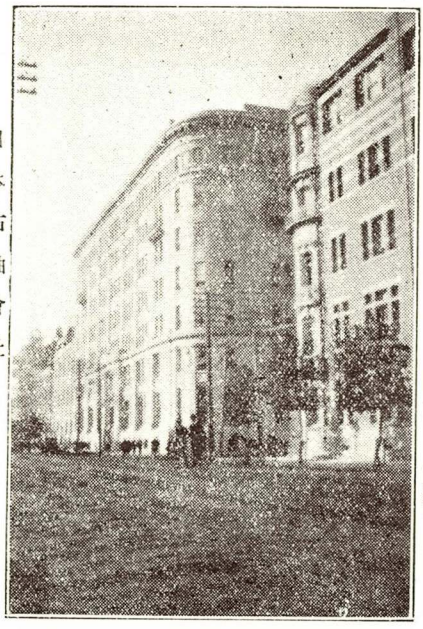
明治生命は一つ變つてゐる。

口從つて馬場先門内に立つて前方を見ると、右の商業會議所側の建築群は相當に美しく、明治生命側の建築群は明治生命の爲めに調和を破られてゐる。此の場合は、後に建てられる建築の設計者が、前の建築と調和を破らない樣、幾分自己の主張を犧牲にする必要も起るのである。

口前に紹介した三菱銀行も、立派な建築ではあるが、前の東京府廳とは調和しない。尤も東京府廳は前庭を有つてゐるし、獨立した建築として見る事が出來るが若し東京府廳が前庭なく直ちに道路に面してゐたならば、不調和は痛感せねばなるまい。幸ひに前庭があるので、獨立した建築として見る事も出來るが、さうしても府廳は可なり醜い建築である。



丸の内ビルヂング　右の後に見ゆるは日本郵船



日本石油會社

三菱銀行がよい建築なので一層惡く感ぜられる。

口近頃竣工した東京會舘は、帝劇の北隣に建てられたが、帝劇と同しやうな樣式と色彩を持つてゐるので、高さは少し違ふが、大體に於いて調和してゐる事は、帝劇と其の南隣の警視廳とを比較す

るとよくわかる。

口東京會館はまだ内部を見ないのでよく批評も出來ないが、外觀は四階にアーチの窓を並べ、建築の性質上穩やかで賑やかな感じを抱かせてゐる。屋根の上に、エレヴエーターの爲め此上に高い廣いものがついてゐるのは何であるかわからないが外觀上あまりよくない。まさか帝劇の屋上に翁の像かあるので、それに對立せしめた譯でもあるまい。帝劇の翁が變である事は定評である。

口丸之内ビルデイングの東に添うて南の方へゆくと、日本石油の建築(有樂館)がある。近頃竣工したが、それもまだ内部を見てゐないので何も云へないが、外觀は四角な建築で、七階建である。五階と三階との間に挾まつてゐるので、少し高さが調和を欠いでゐるが、將來はよくなるてあらう。卽ち三階か五階か六階になるやうな時にはよくなるのである。

口猶述べたい事もあるが、〆切期日も過ぎてゐるし、今年はこれでやめて、新年號には大正十一年の建築界を通覽して少しく述べてみたいと思つてゐる。(十一月二十一日)

おなじくば
汝が古家の
大圖盧裡
かこみて
やきて
ともに食はましを

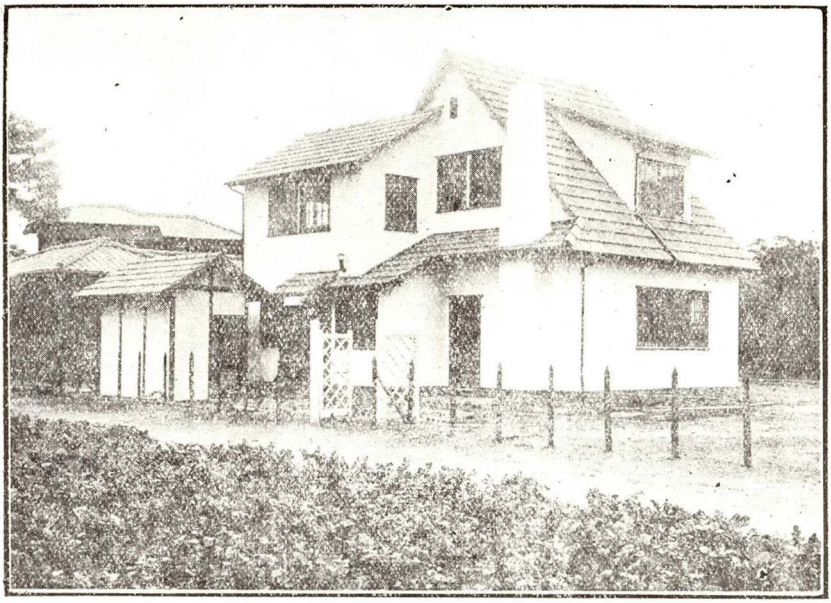
新婚の娘へ贈つた家

高安道成氏夫人　高安やす子

醫學博士高安道成氏令嬢綾子さんが先月末目出度華燭の典を擧げられてから、今は京都下鴨の出町幡附近に小さな家庭を構へて、之から新しい意義ある生活への旅程を創造されやうといふところなのです。それに就いては、母やす子夫人が、温い母としての慈愛と聰明な工夫と注意と、新しい智識とから、いろ〳〵に綾子嬢の爲に盡されたところが尠くありません。即ち夫人は、夫人の新しく進んだ生活改善への理想を、愛嬢のために躊躇なく捧げることに少しの逡巡もありませんでしたですからそのためには今までの在りきたりの無駄な虚飾や習慣や見榮やつまらない杞憂やをさつぱりと捨てゝ夫人は夫人の思ふところを潔よく實行に移しました。以下は夫人の愛嬢のために選んだ結婚に對する理想的な形式とそれからその新家庭であるところの『家』の談話です。——記者——

◇私は私が娘のために選んだ結婚式の形式を別段非常に變つた事とも新しいことゝも、また特別に進んだやり方だとも思つてはゐません。私はたゞ今の私どもの生活から割出して、さうある事が一番に良いことだと信じて、信じたまゝを實行に移したにすぎませんでした。娘を嫁がせるといふことが初めての事ではあり、また世間普通の從來の習慣や形式をその儘に踏むのだとすると、私どものやり方は或は變つて見えるかもしれません。また先輩の方や親戚などの意見を從順にたゞ守ることにすれば、やはり改革とか新しい工夫とかは出來にくい事になるでせう。私はさうした外からの事情にあまりこだはる事をしませんでした。また娘もその氣持をよく解つてゐてくれますから、之は娘の希望だと云つていゝのかもしれません。

◇永い間日本の習慣として傳へられた所謂お嫁入



新婚成り新榮畢る

りの形式は私もまた娘も好まないことゝ思ひますそれはその當人であるところの『格』を外にした無駄な形式と虚飾なのです。結婚に附隨した澤山の『お嫁入道具』といふもの、また當日の非常に形式のみに流れた式服といふもの、それから親戚知己から贈られる祝品とそれの答禮、また結婚披露や招待や廻禮や、一々擧げましたらその他にもまだどれだけの難しい規則があるかしれません。そしてそれの多くは何の點まで人の結婚に對する嚴肅な誠意が披歷されてゐるかは難問なのです。その大抵は大切な結婚を意義づけるといふよりも、それの末の末であるところの形式と虚飾とに多くは流れてゐると斷言してもいゝやうに思はれます。そして新郎と新婦との第一の發足はさうした虚禮で以て始まるといふ事は誠に好ましくない事に思はれてなりません。

◇娘のためには成可くさうした無駄を省きましたですから世間並に派手にしてやるといふ事は、寧ろ娘のために濟まないことに思ふのです。例へばお祝ひの品物を頂くにしてもきつと私は皆樣にさ

う申上げたのです。無論、お嫁入りの道具或は衣服といふやうなものは、只相當に必要なだけといふ標準で、決して一生その人の被るやうな着物などは拵へません。分りきつた事ですが、衣服などいふものは、當人の趣味に依つて、また時々の流行にも依つて、これから先き本人が少しづゝ新調してゆけばいゝと考へるからです。

◇當日の式服は洋裝にしました。別に新しくしやうといふやうな考へからでもありません、只日本髷よりも分髪の方が本人によく似合つてもゐると思ひましたら、自然振袖も不釣合のやうですし、思ひきつて洋裝にしたのでした。本人もその方を好んだのでせう。

◇只今京都に住んでゐる二人の家は、本當に小さなそれはたゞ新婚者のために贈つたほんの玩具のやうな家なのです。只必要なだけで今の二人に相應はしいといふより外取柄はありません。僅かに百五十坪の地面に建坪二十坪、延坪にしても三十坪の小さな住宅なのですが、丁度娘が只自分等二人のために支配してゆく住宅の構へとしてはそれでも精一杯の努力を費さねばならないかもしれません。何にも指驗のない若い主婦の考へに依つてそれでもこの玩具のやうな家が支へられてゆくであらう事を思ひますと、微笑まずにはゐられません。——私は娘自身の獨創に依つて、これから先きも彼の人達の生活がよく築かれてゆくことを希ふ者ですから、この家なども、ほんの娘の力に添ふものをと思つて建てたのでございました

◇設計は全部西村伊作氏のお考へに委せたものでありました。階下が食堂兼居間と、小さな書齋と臺所と女中室と風呂場位のに過ぎないほんの狹いものなんです。それに二階を寢室に客間位のものですが、それも澤山は到底お客樣が出來兼ねると云つて笑つた位のでした。

◇西村氏は御自分のお好みから、この家なども餘程素朴に簡單にお建てになつてをります。飾りなども殆んどありません。まるで田舍の百姓家に見るやうな、家の廻りなどさへ簡單に杭を打つて圍つた本當の露き出しな正直な感じの家なのですつ白い壁と、栗色の窓椽と、スレートの黒い屋根

瓦とがごんなに簡單に淡白として見えるでせう。寧ろ愛すべき若い新婚者のホームが餘りに地味であるのを氣の毒に思ふ位ゐですが。——私はせめて赤瓦にグリーンの窓椽でも採つてやつたらと思つた位ゐでした。

◇けれども追々に必要を感すれば、この二人が更に新しい工夫を足してゆくことでせう。只今は良人と云つてもまだ學生の自分ですから無駄な餘裕なども要りません。それでこの小さな家庭は、兎も角も所謂文明的ではないかもしれません。けれども野趣に富んだ、また魂の慰安所としては反つて長閑な趣きを添へるものかもしれないと思ひます。それは丁度娘達二人の生活にはよく適當してゐるやうですから。

◇家の周圍にめぐらした柵には薔薇の花でもまつはらせたいと考へてゐます。また成長の遲い日本の常磐本や手のかゝる植木などを大變ですから、庭には極く手のかゝらないアカシヤ等を澤山に植えてやりたいと考へます。又、南の窓外には藤棚などを拵へたいのです。さうして若しもつと家族でも殖えた場合には、庭の空地へ更に建て增すことも出來るでせうから。

秋の日はまさしくさして
籠りゐの緣の板さへ
そりてぞあらむ

樽の家

M婦人記者

次の一篇は或る夫人の談話になるもの、そしてわたくしの見る處では、夫人は丁度この記事の『樽の家』を空想した少年のやうな、尠くともその少年に同感し得る素質――或は表情で以てわたくしに語つた事なのであるが、してみると人間には誰れでも、何時でも、若し出來さへしたら本當に孤獨の生活に浸りたいといふわが儘な夢のやうな憧れを持つてゐるものと思はれる夫人の、平常の生活が至つて多忙な、また社交的な美々しい色彩に富んでゐるものだけに、私には耳よりな珍らしい感じの話であつた。しかし、それも考へてみると當りまへなはなしかもしれない。何故と云つて、近代人の、殊に文明人といふものゝ今の生活は、餘りに多忙で複雜すぎる。神經過敏で總べての世の中の節度なり樣式が息苦しい位ゐだからである。私は、だからこの樽の家のやうな思ひきつて浮世離れた獨逸的な家の住ゐ方は自分もまた贊成である。だが悲しいことには、それがたゞ一片の空想の家で一寸普通凡人には直ちに實行するといふわけにもゆかない事であつて、從つて要するにこの記事もまた煙のやうな空想の一文であることを免れない。（美代子）

◆

私？でございますか。まだ博覽會の方には參りません。終りになる迄には一度觀に行きたいと考へてをります。けれども本當は、私の本心は、どちらかと云へばあの住宅博覽會に出品されてゐるやうな、そんな美しくよく整つた文明的の家なるものは好まないのでございます。私はいつもよく細工された高踏的なあの『お料理』なるものを見る時に一種の悲哀（？）を覺えるやうに、――何故な

らそれは單なる趣味と贅澤で以て私どもの味覺を欺いてゐるからです。『家』に限らず其他の衣服でも調度でも何んでもが、人間の智惠の油斷なく應用され節理されてゐることを識ることは、何故かしら哀感を覺えてなりません。出來ることなら人間はまたその他の自然物も、赤ん坊のやうに、或は大昔の原始時代のその時の男女のやうに、眞白な、空な、何にも知らないたゞ放り出された魂のまゝの生きものに還れたらなあと思ふことなのでございます。

さあ何故でございませうか、そしてその上に怎うしやうといふのでございませうか、私はたゞその氣持ちが懷しくてならないのでございますよ。第一にあなた、卸覽遊ばせ。現在だつたら、私どもの母とか、或は祖母とか云つた年配の女性だつれら、恐らく氣の善いそれは殆んど罪のない正直者ばかりだといふ事が、あの莊やりとした表情でも知る事が出來ませう。それだのに私はいつも考へて情けないやうに思ふ事ですが、今の中年から以下の女性達が、若しお祖母さんの年頃に成る時には、まあどんなにか賢こい油斷のない顏付きになる事でせうね。年寄が——でございますよ、若しその人が人生の經驗などを唯一の語り草に演說でもされる事を想像したら、私は悲しい氣持がせずにはゐられません。何故と云つて、理論で攻められたら困りますけれど。

◆

ですけれど私のお話する事は太變矛盾してゐるやうでございますね、私自身、この現在の生活を事實今の世の中の習慣通りに調子を合せて暮してゐるのですから。

ですが、先日でした、家の親戚の少年が遊びに來ての話に面白い家の懸案を殘してゆきました、それは自分獨りの住ひに大きな二つの樽を應用した住ゐ——つまり穩れ家を拵へてみたいと云ふのです。そしてそれは大聲に眞劍な調子で、……尤もその子供は平常から隨分詩や夢の多い云はゞ藝術家氣取りの空想家ですから、そんな變つた家などを思ひついたのでせうけれども、しかも、或一面に於てさうした現代の文明に逆行した或る憧れ

の心持を持つことは此頃漸く若い青年や何かの、精神にかなりに敏く芽を吹き出したのではないかと思ふのですが如何でせうか。此頃の尠くとも大多數の青年達は、二昔前の青年の如うに、大臣や陸軍大將を以て出世の目的としてゐない事だけは事實ですものね

◆

私のお話はよく筋道を外すやうですねゝですがその突飛な家の事をお話してみませうか。——それは私もまだ緣がなくてようは知らないことですが、あの酒造る街に行くと、大きな〳〵直徑の、人が眞直に立つて入れるやうな酒造るための樽があるさうでございますね。その子供の云ふにはその樽を二つだけ取つて續ぎ合せて、といふのはその樽を横に轉がして二つ並べたところを、眞中に屋根の着いた廊下でもつて連ぐといふのです、丁度つまりあの亞鉛のやうな形になることでせう——とこれだけがその子の望む家なのでございます、尤も内部の工夫は、また餘程無理もあり可なりに贅澤を云つてゐるのですけれど。

◆

ですが先づその子の云ふまゝに造りあげてみるならば、今云つた廊下の眞中がこの家の出入口になつてゐて、それは一旦扉を閉めたなら、この家の出入にはもう何處にも外にはありません——此樽には鏡蓋が嵌つてあります——その子に云はせると、それが至つて簡單で、所謂他人の手を煩はさない理想的な人間の穩れ家であり、慰安所になるのださうでございます。尤も、人間は偶にたつた獨りになるといふことが、その人間を高めるために、最も必要なことださうですから。で、それから、この可笑しな家の間取りや裝飾や——それは一つ〳〵にその子は圖面を描いて說明しましたけれど、それは餘りに狂氣じみた空想を眞面目に取次ぐのも可笑しな事ですから。簡單に言葉で說いてみませう。で、その右の方の一つの樽の内部は、この家の住人の寢室であり書齋であり應接間であり、娛樂室であるのです。室の内部は無論、大鼓のやうな不等筒圓形の空間になつてゐるのですから、其處には普通並みに下に床を張り窓を適

宜に明けて室らしい格好を型取ります。その床下に殘る――つまり樽の板の内側であるところの底に餘つた空間は、適當に拵へての物入れ。そして片方の壁側には體だけの寢臺を疊み込みにバネ仕掛で取りつけカーテンで支切る。その反對の向ふ壁側には贅澤にもピアノを一臺と、出來ればタイプライターとを置くのださうです。そしてその兩側の壁側には小さな棚と本棚位ゐ、室の眞中にはほんの小形の椅子と卓。色彩と裝飾はまた思ひ〳〵のものを取りつけるでありませう。これでこの室の飾り付けは濟みました。すると更に今一つある左の方の樽の方には西洋風呂と便所と、臺所といふ設計です。私は、この樽が果してそれだけのものを内部に抱含するだけの大きさのものかどうかは私は知りません。しかしこの家は、この奇拔な空想家が何んな場所にでも轉がしていつて直ぐに据畧たいといふ、云はゞ流轉に便利な家なのです、えるで蝸牛の殻のやうにね。

◇

けれども私は昔、和學者鴨長明が、京の鴨川に舟（實は彼の家）を浮べてきのふは東、けふは西といふ風に、流れゆくまゝの暮しをしたといふ事も聞いてゐますし、そればかりでなく西洋にも丁度それと同じやうな、彼の羅馬の哲人デモスゼニスが一つの盥を背負つて歩いたといふことは、有名な話ではありませんか。すると私共の心の奥の何處かには、或はさうした虚無的な一種の浮世を外の活し方なるものが、人間の胸奥に觸れる或る嚴そかな興鳴を有つものではないか、とも考へたりいたします。所詮は今の世の中には通らぬ事でせうけれど、けれど、若しもそのやうな家が一つでもあの櫻ケ丘の博覽會場に建てられてあつたら？　私は幾事をふいと考へてみたのでございますよ。

× × ×



住宅改造博覽會閉會式

我協會主催の住宅改造博覽會は世上識者の賞讃を博し、豫期以上の効果を擧げ、當初の計畫並に目的を貫徹するのみならず各方面に亘りて意外の反響を喚起し得たるは寔に欣快至極といふべきである。

時維大正十一年十一月二十七日午後五時半閉會の式宴を大阪中之島公會堂に擧げた、各會員各賛成員、各評議員、各委員各出品者並に各後援者の參會するもの實に三百數十名『レセプションホール』は立錐の餘地なきに到つた。

六時半片岡會長拍手に迎へられて壇に立閉會の挨拶をなす、次いで馬野幹事長の報告があつた。竹中藤右衛門氏は來賓に代りて答辭を述べられた。

次いで感謝狀贈呈の式が初まつた。常務幹事小笠原銅君の案内によつて各出品者總代諸氏各賛成員評議員及各委員に對する感謝狀並に謝狀の贈呈が拍手の間に行はれた。

感謝狀受領者

第一部實物住宅出品者總代
大林義雄殿

第二部史料參考品出品者總代
同

第三部圖面及模型出品者總代
大阪市役所都市計畫課殿

第四部美術工藝品出品者總代
大丸呉服店殿

第五部建築材料及器具類出品者

總代　大阪窯業株式會社殿
實物住宅內各種出品者總代
　三越呉服店殿
館外休憩所其他出品者總代
　七日會殿
　謝狀受領者
一名譽賛成員總代
　池田警察署長殿
一評議員總代
　竹中藤右衛門殿
一財務委員總代
　谷民藏殿
一設備委員總代
　小川安一郎殿
一出品委員總代
　岩崎清治郎殿
一宣傳委員總代
　須川廉太郎殿
各總代よりは當夜出席の各員へ夫々配布せられ各員欣躍して感喜堂に滿ち渡つた。

七時晩餐の宴は開かれた、大食堂は各自々由に卓に就き和氣溢然談笑の間に盃數行『デザートコース』に入るや片岡會長に代つて葛野幹事長より一場の所感を述べられた。

『今回の博覽會は我國に於ても又世界に於ても空前の壯擧であつて茲に無事閉會を告げた事を喜ぶものである。歐洲に於て一昨年（一九二〇）デーリーメール社の主催で此種の博覽會をオリンピヤといふ所で開催し、四千磅がらの賞金を掛けて住宅の懸賞募集をなし、假建物を建てた事があつた外前代未聞の事業である、殊に大正時代の初頭を飾る文化聚樂の一であると信ず』云々

次いで名譽顧問本山彦一氏は今回の博覽會が非常なる盛會であつて大正文化に貢獻する處多大である事を認められ且衣食住の改善に就いては食衣住の順序に進むの關係から住宅改造の問題は財界不況の今日が却つて深甚なる効果を擧げて居ると斷定された。

大林義雄氏立つて我建築協會の萬歳三唱の盃を擧げ目出度饗宴の會も終りを告げたかくて今夜の清宴によつて我住宅改造博覽會の大事業も一段落を告げたのである。

會合

○宣傳委員會

一、日時　十一月七日午後五時半—九時半
一、會場　本協會々議室
一、議事

一、各分擔主任より費用支出明細書を報告す
二、新聞廣告の件（期日は會期延否決定を俟つてする事に決す）
三、飛行機宣傳の件は谷口委員に於て堺飛行協會に交渉の上更に決定の事になりたり其他種々協議す

○理事會

一、日時　十一月八日正午―一時
一、會場　本協會々議室
一、出席者　片岡、横濱、瀬戸、小笠原、松井舟橋、西谷（書記）清川（書記）
一、議事
一、會員銓衡入會者會員西村辰次郎君
井上新二君、佐々木信二君、特別賛助員河野誠君
一、主計より收支報告あり
一、都市計畫協議會の主催者として本協會加入の件（電報にて都市研究會に申込）
一、消費節約展覽會出品の件は會期延長の如何に依て決定する事になりたり其他種々協議す

○博覽會幹事會

一、日時　十一月八日午後一時　二時
一、會場　本協會々議室
一、出席者　片岡、葛野、吉木、舟橋、瀬戸、小笠原、波江、横濱、西谷（書記）
一、議事
一、住宅博覽會開會後の經過報告あり
一、博覽會閉會期日の件は廿六日迄延期することに決す
一、其他種々協議す

○法制委員會

一、日時　十一月十三日午後五時半―八時半
一、會場　本協會々議室
一、出席者　舟橋、吉木、平塚、森本、清川（書記）
一、議事
一、夕食後建築工事受負契約書及規程に付該聯合調査會より廻付されたる第二讀會用草案に付協議研究を遂げ終了舟橋委員右決議を齎し來る十六日東京に開會の聯合委員會に出席の事に決す其他協議す。

○例會

一、日時　十一月十七日午後六時卅分―八時
一、會場　大江ビルヂング大集會室
一、出席者　大屋靈城氏、園部文雄氏、小川安一郎氏、菅源之助氏、西脇秀太郎氏、能村知二氏、山脇友三郎氏、鈴木與五郎氏、武田經一氏、前田武正氏、瀧邦一氏、森本藤吉氏、近澤武男氏、富永眞七氏、森篤次郎氏、松本儀八氏、呼子正氏、小西一夏氏、坪井誠一氏、島田夏馨氏、澁谷五郎氏、谷民藏氏、村野東吾氏、片岡安、波江、野呂、瀬戸、横濱、西谷（書記）清川（書記）
一、記事
一、横濱理事長より八月例會以後の會務並新入會員に付報告あり
一、次で波江博覽會幹事より博覽會の經過報告として開會以來現在迄の入場者數に付種々報告する所ありたり

一、茶菓の饗應をなしたる後
一、農學士大屋霊城氏の歐米視察談ありて盛會裡に閉會す

○新入會員

（會　員）佐々木信二君、西村辰次郎君、井上新二君
（特別賛助員）河野誠君
（普通賛助員）藤井榮次郎君、牧三郎君、原田覺三君、津村秀吉君、西川政三君、押川忠夫君、古河節雄君

○住所移轉

廣岡峰太郎君　大阪豊能郡北豊島村井口堂
德永　義治君　大阪市外東天下茶屋東浦四四九ノ一淺田方
友澤　淺繼君　大阪府下北河内郡三郷村字大枝二〇八
渡邊　行三君　東京市四谷區南寺町四
納富　磐一君　東京府荏原郡下大崎八五
向井　兼藏君　朝鮮大邱歩兵第八十聯隊第五中隊
久樹　廉一君　大阪市北區上福島中四丁目二一五木村ソル方
若田　久作君　金澤市南町廿十三番明治商業銀行金澤支店建築地大林金澤出張所
西田　榮一君　東京府下淀橋町角筈五二五
井川　須一君　隱岐隱地郡都方村字都方
地福　勇吉君　京都府天田郡福知山町岡福知山温泉株式會社建築事務所

○寄贈圖書

住宅十一號　住宅改良會
建築雜誌十號　建築學會
經濟資料十號　東亞經濟調査會
建築世界十一號　同社
工業評論十號　工業評論社
帝國鐵道協會々報十號　同協會
國民經濟雜誌十一號　神戸高等商業學校
土木建築十一號　日本實業與信新報社
電氣學會雜誌十一號　同學會
工業の友十一號　工手學校
新住宅十號　洪洋社
庭園十號　廣園協會設計部
日本建築士會月報　日本建築士會商業及經濟研究十一號　大阪高等場業學校
通俗衛生十號　大阪府衛生局
都市公論十一號　都市研究會
朝鮮建築第三號　朝鮮建築會
電氣評論十一號　電氣評論社
結合十一號　結合社
建築畫報十三卷　建築畫報社
工業ノ大日本十一號　丁業日本社
建築之普及　帝國工業教育會
日本建築小史　雜草社
商業及經濟研究十月號　大阪高等商業學校

役員及職員

副會頭　片岡　安
理事　小笠原　勉（理事長）
理事　横濱　勉（理事長）
理事　吉木　久吉
理事　竹腰　健三（編輯）
理事　中西　基作（編輯）
理事　内藤　太郎（主記）
理事　野呂長四郎（編輯）
理事　松本　禹象
理事　舟橋　喜一
理事瀬戸文吾（主計）
編輯主任　江村　郊郭
庶務　西谷　節
庶務　清川　伊佐

會員	二四九	會員（地方）	八一
名譽贊助員	六七	終身贊助員	五七
特別贊助員	二五	普通贊助員	四一五
合計（十一月二十日現在）	八九四		

臨時博覽會部（住宅改造博覽會）
會長　片岡　安
幹事長　葛野壯一郎
常務幹事　波江悌夫
常務幹事　小笠原銅
幹事　吉木久吉
幹事　松本禹象
幹事　舟橋喜一
幹事　瀬戸文吾
書記　西谷節

本誌及廣告料定價表

本誌	册數	定價	郵稅
	一册	金五拾錢	貳錢
	十二册	六圓	貳拾四錢

廣告料	種別	金額
	半頁	八圓
	一頁	拾五圓

特別頁ハ料金一定シアリ御照會アリ度シ

大正十一年十一月三十日印刷
大正十一年十二月一日發行（毎月壹回一日發行）

大阪市外中津町下三番一九八番地ノ一
發行兼編輯人　江村恒一
大阪市東區內淡路町一丁目卅一番地
印刷人
印刷所　大阪活版所
大阪市北區絹笠町九
大江ビルヂング三十七號室
發行所　日本建築協會
電話北四一九一番
振替口座大阪三九九七五
大阪市西區京町堀羽子板橋北
特約販賣店　柳々堂書店
電話（土佐堀一四四〇番）
振替口座二一八四番

●第五集　第一二号　掲載広告一覧（掲載順）

内外木工所
内田商事
佐倉金庫店
耐壓陶管製造販売所
島田硝子製造所
石綿スレート
川北電気企業社
大福海上火災保険
浅海商店
出浦建築事務所
大阪建築所
新海建築工務所
小笠原建築事務所
渡辺建築事務所
葛野建築事務所
片岡建築事務所
片岡松井建築事務所

横河工務所
横浜松下建築事務所
竹内建築事務所
宗建築事務所
国枝工務所
柳下建築事務所
真水工務所
真水三橋建築事務所
舟橋建築事務所
遠藤於菟
木子建築事務所
設楽建築工務所
茂、野村建築事務所
西原衛生工業所大阪支店
池田勘蔵
日本土木大阪出張所
大阪橋本組

大林組
竹中工務店
長瀬組
中川辰蔵
佐伯工務所
野村亥之助
久保田組
熊取谷熊次郎
山本組
松村組
小西組
藤木正一
鴻池組営業所
駒井喜兵衛
安藤組大阪出張所
有山組
清水組大阪支店

森本建築社
銭高組
清水福太郎
山崎建築事務所
田村東京事務所
田村神戸事務所
久原鉱業大阪出張所
山田大理石製作所
矢橋商店
沖電気
高田商会
須賀商会
内外土木建築材料
栄進社
松尾和助本店
山本窯業商店
萩原煖房工務所
新田ベニヤ製造所
川崎工場

砂崎
大野式特許品営業所
東京建鉄
河村青写真調製所
宇野沢組ステインド硝子製作所
コルク工業
鈴木製作所
品川白煉瓦
浅野工業所
関西ステンドグラス製作所
日本木材工芸
都市工業
大理石工業
浅海製作所
北木島石材大阪出張所
ホーン
城口汚水処理研究所
吉田鉄工所
田中タイリング商会

淡陶
東京電気
日本トラスコン鋼材
大阪耐火リノリウム工業
住友製銅販売店
住友東京販売店
岩崎商業
日本工剤
ヒーリング商会
南部塗料研究所
山中商会
東洋リノリューム
松岡鉄工所
大阪窯業
イズミヤ商店
桐田商店
日本ペイント製造
旭硝子
藍崎商会

池上賢一郎商店
東海窯業製造所
小山建築鉄工所
吉本伊兵衛石工店
大阪毎日新聞社
横河橋梁製作所
田中源太郎商店
極東板硝子工業